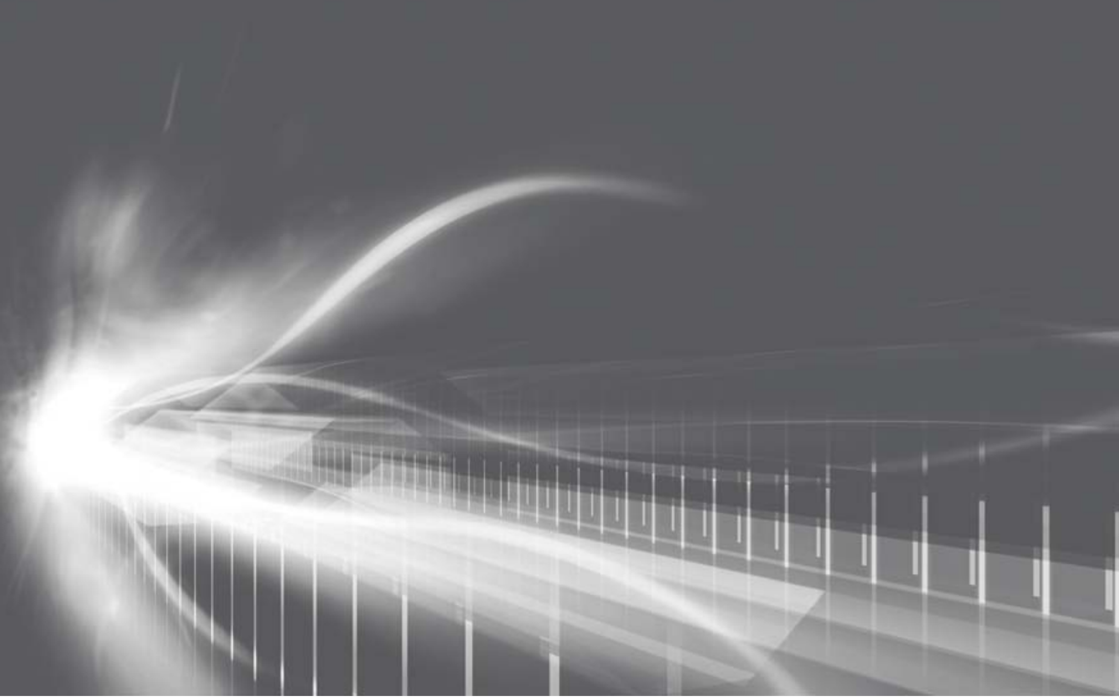


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

DYNA
TOYOACE

TOYOTA

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

1
2
3
4
5
6

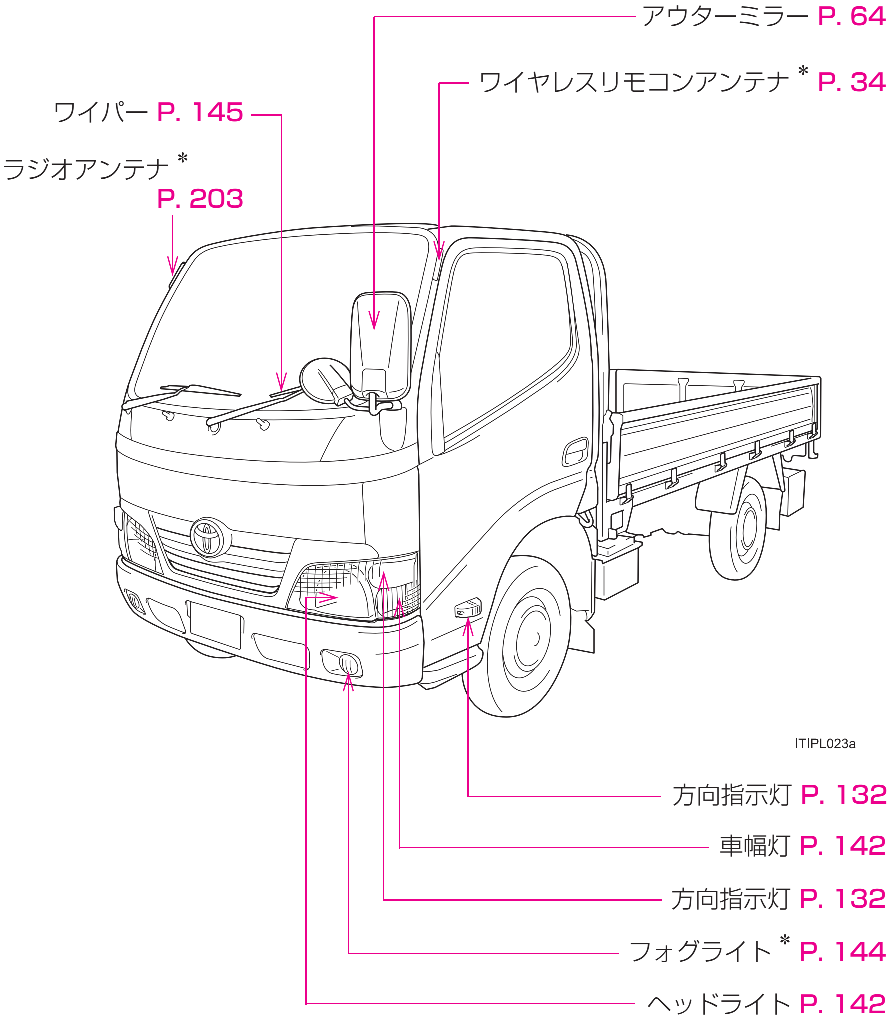
4 お手入れのしかた

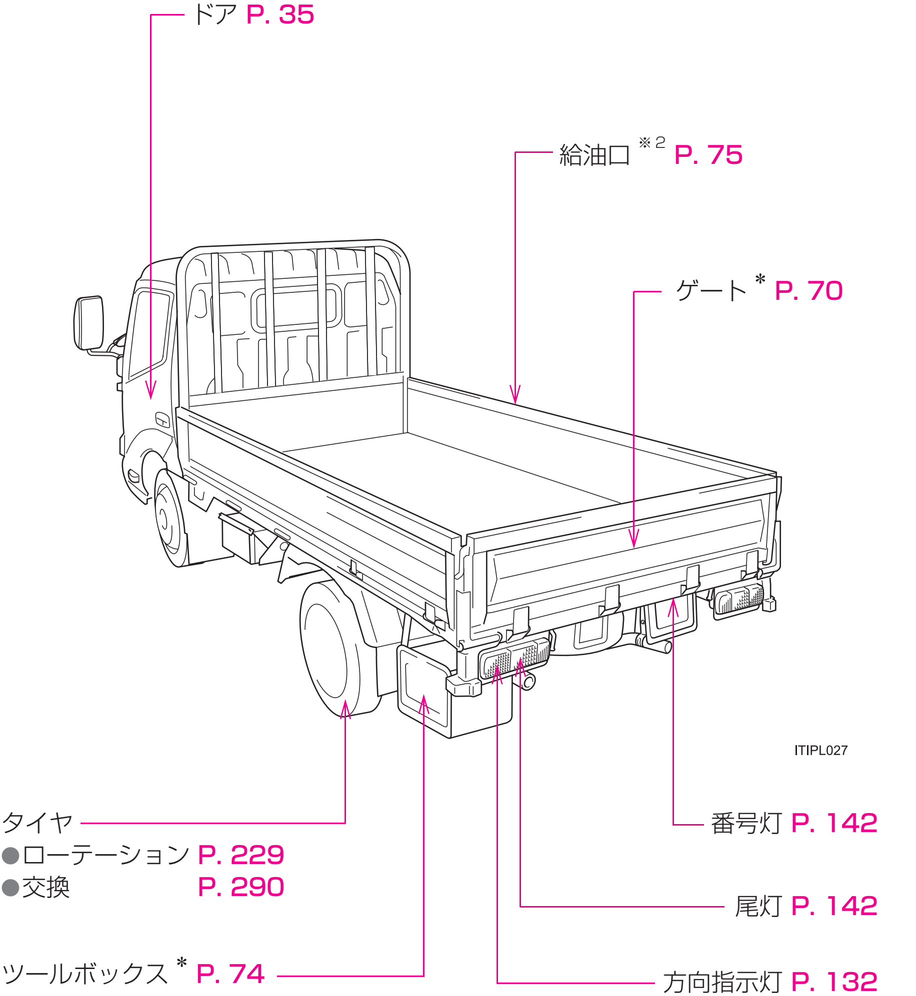
5 トラブルが起きたら

6 車両仕様

さくいん

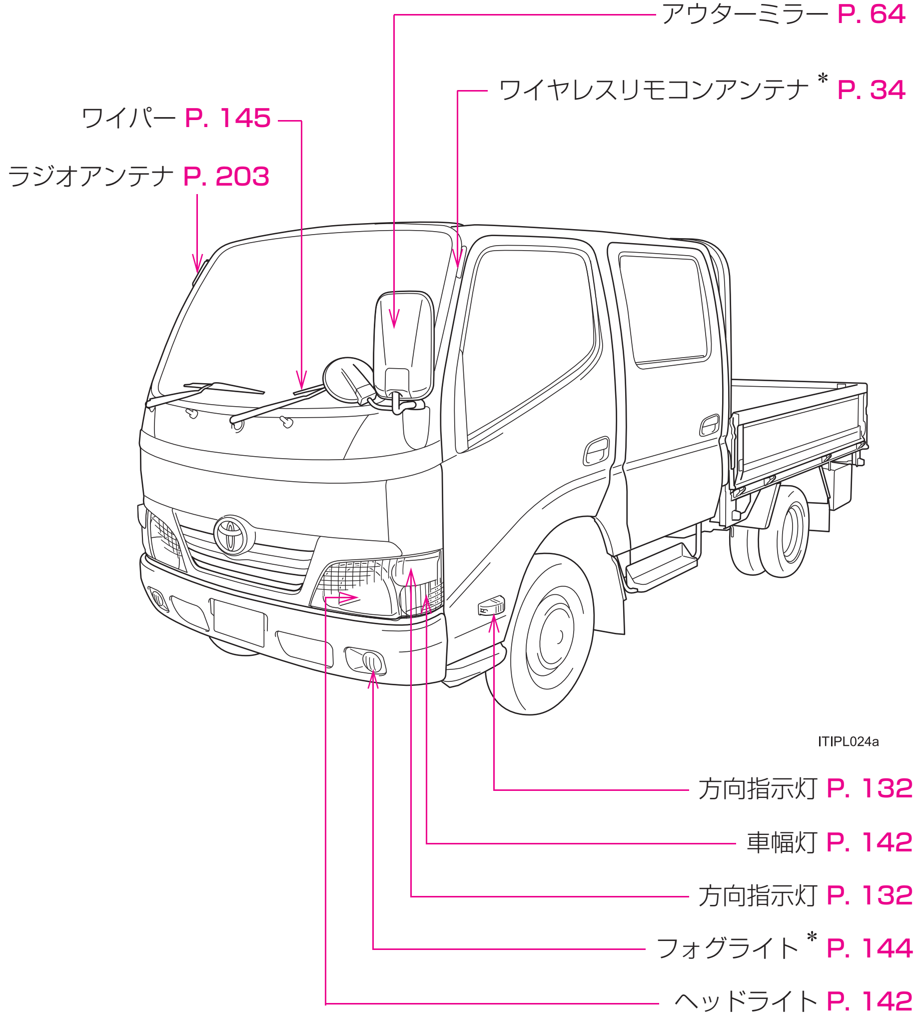
外観（シングルキャブ※1）


アウターミラー P. 64
ワイヤレスリモコンアンテナ* P. 34
ワイパー P. 145
ラジオアンテナ*
P. 203
ITIPL023a
方向指示灯 P. 132
車幅灯 P. 142
方向指示灯 P. 132
フォグライト* P. 144
ヘッドライト P. 142

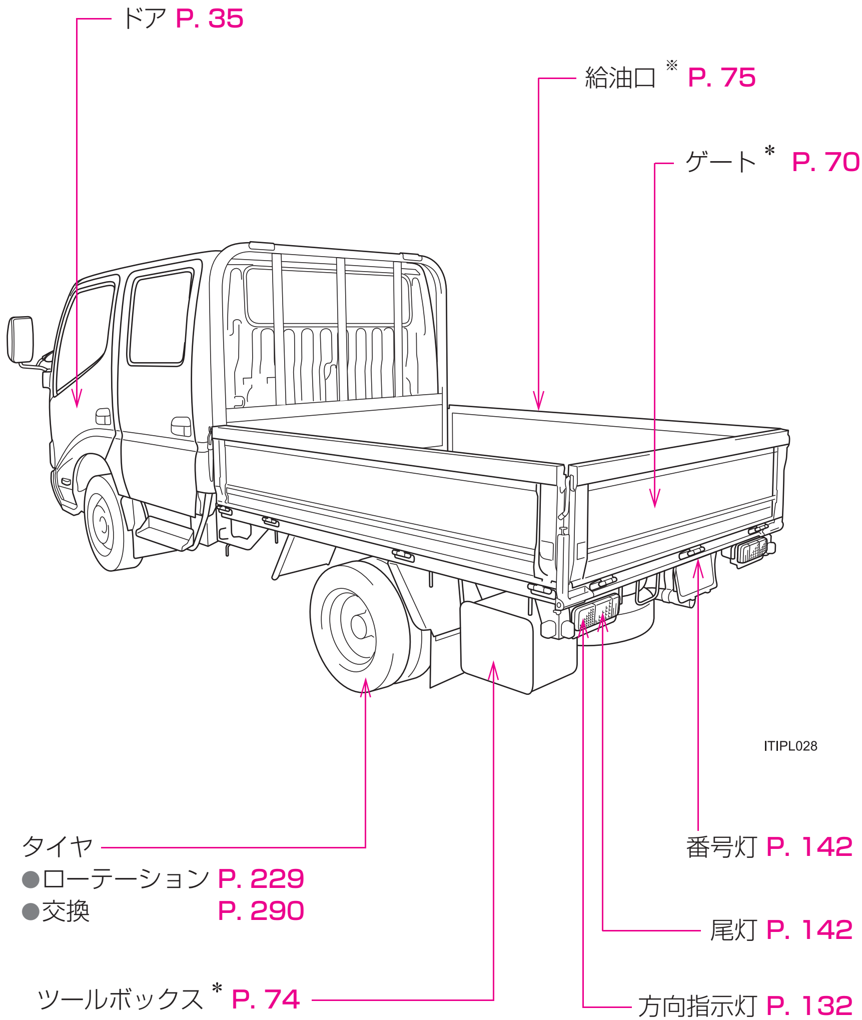


＊ ：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※1：ガソリン・ディーゼル車
※2：給油口は運転席側キャブ後方にあります。

外観（ダブルキャブ）

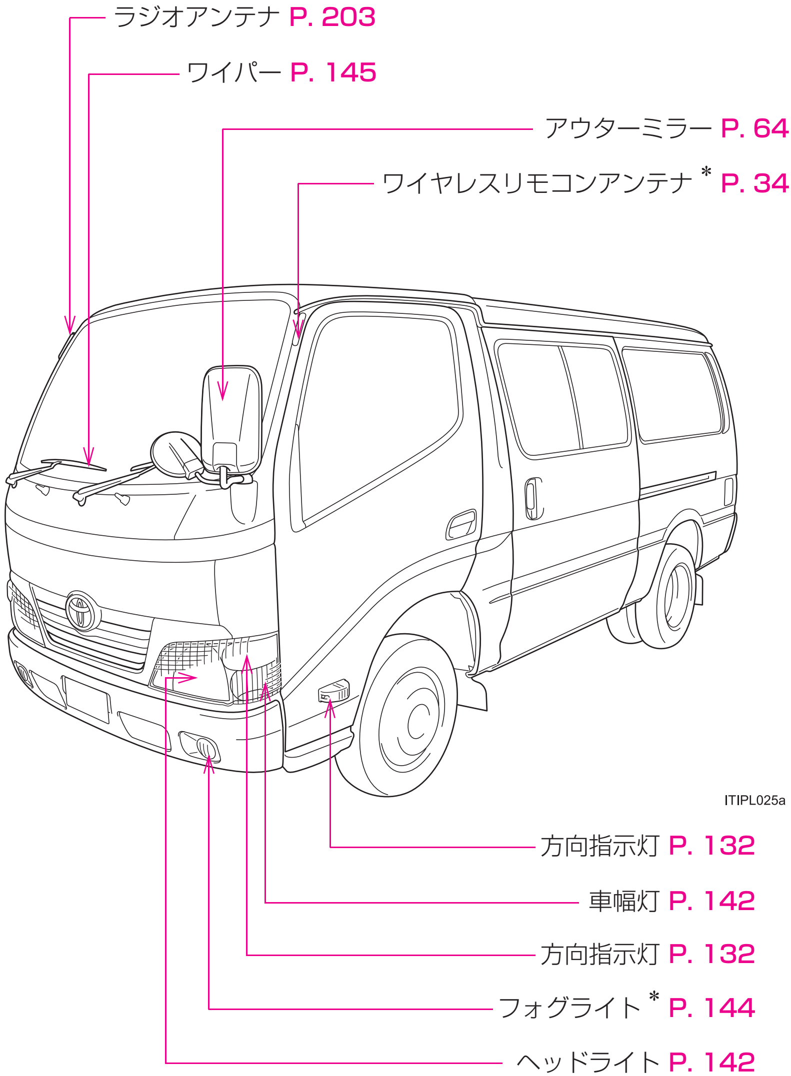


アウターミラー P. 64
ワイヤレスリモコンアンテナ* P. 34
ワイパー P. 145
ラジオアンテナ P. 203
ITIPL024a
方向指示灯 P. 132
車幅灯 P. 142
方向指示灯 P. 132
フォグライト* P. 144
ヘッドライト P. 142

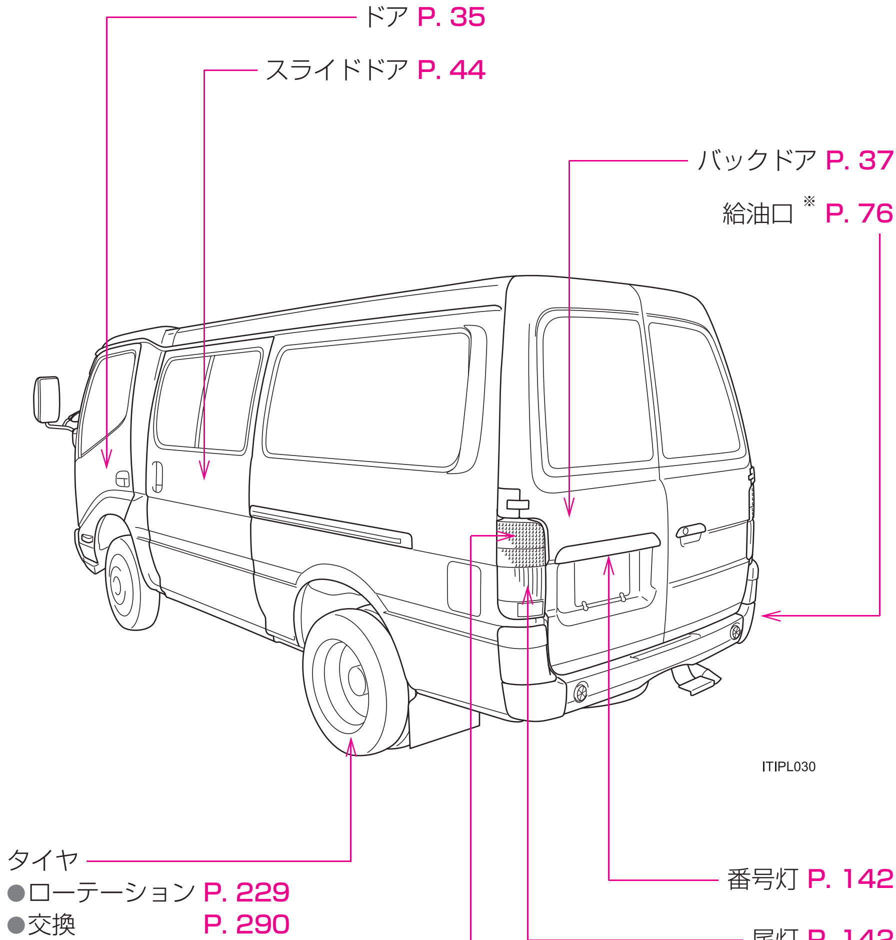


＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：給油口は運転席側キャブ後方にあります。

外観（ルートバン）

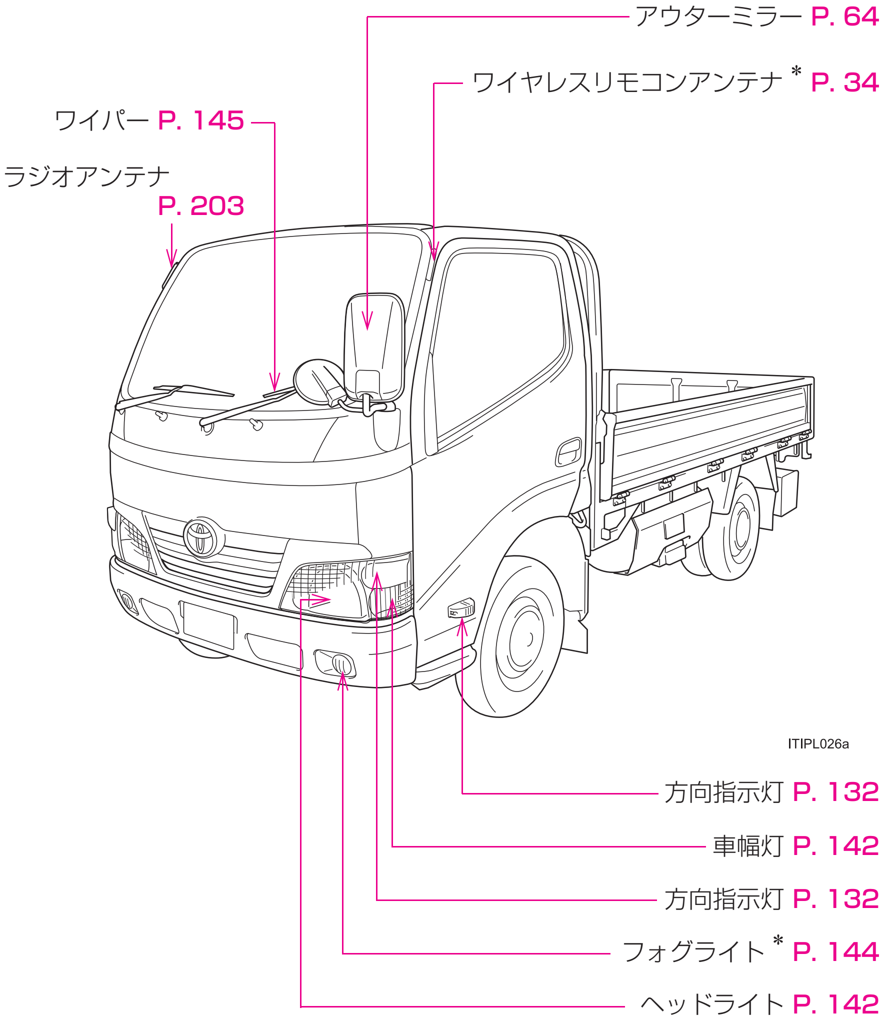


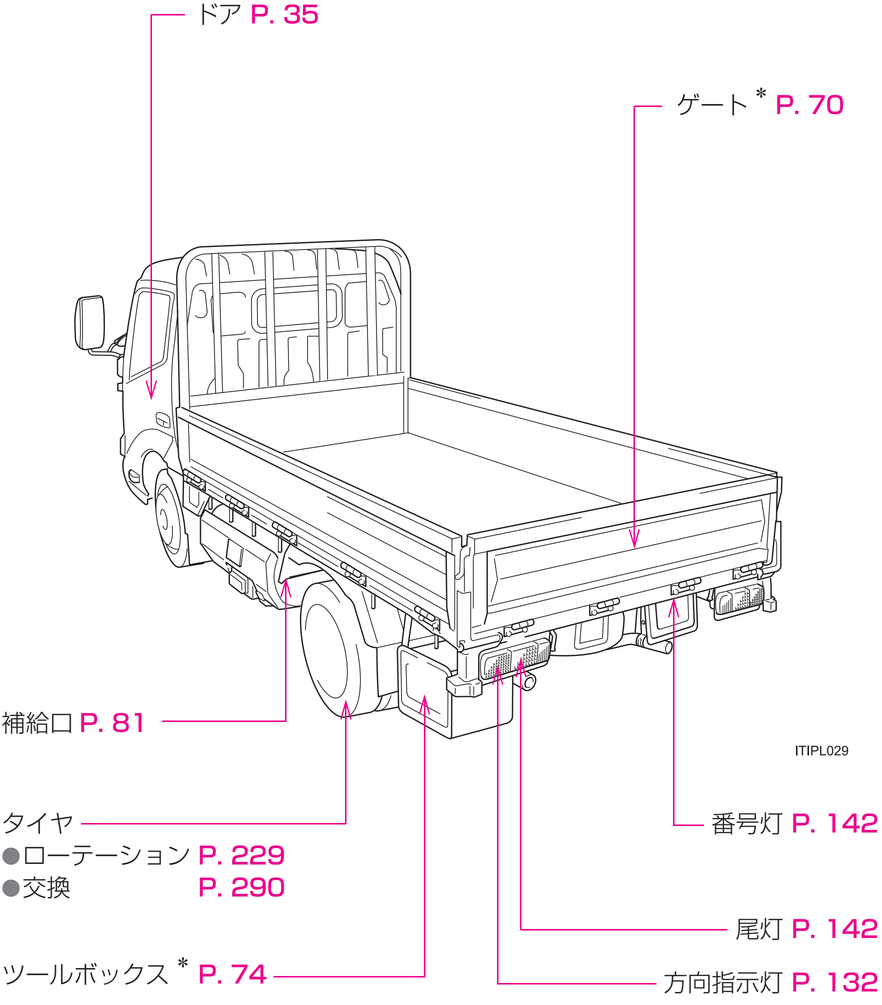
ラジオアンテナ P. 203
ワイパー P. 145
アウターミラー P. 64
ワイヤレスリモコンアンテナ* P. 34
ITIPL025a
方向指示灯 P. 132
車幅灯 P. 142
方向指示灯 P. 132
フォグライト* P. 144
ヘッドライト P. 142



＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：給油口は運転席側リヤタイヤ前方にあります。

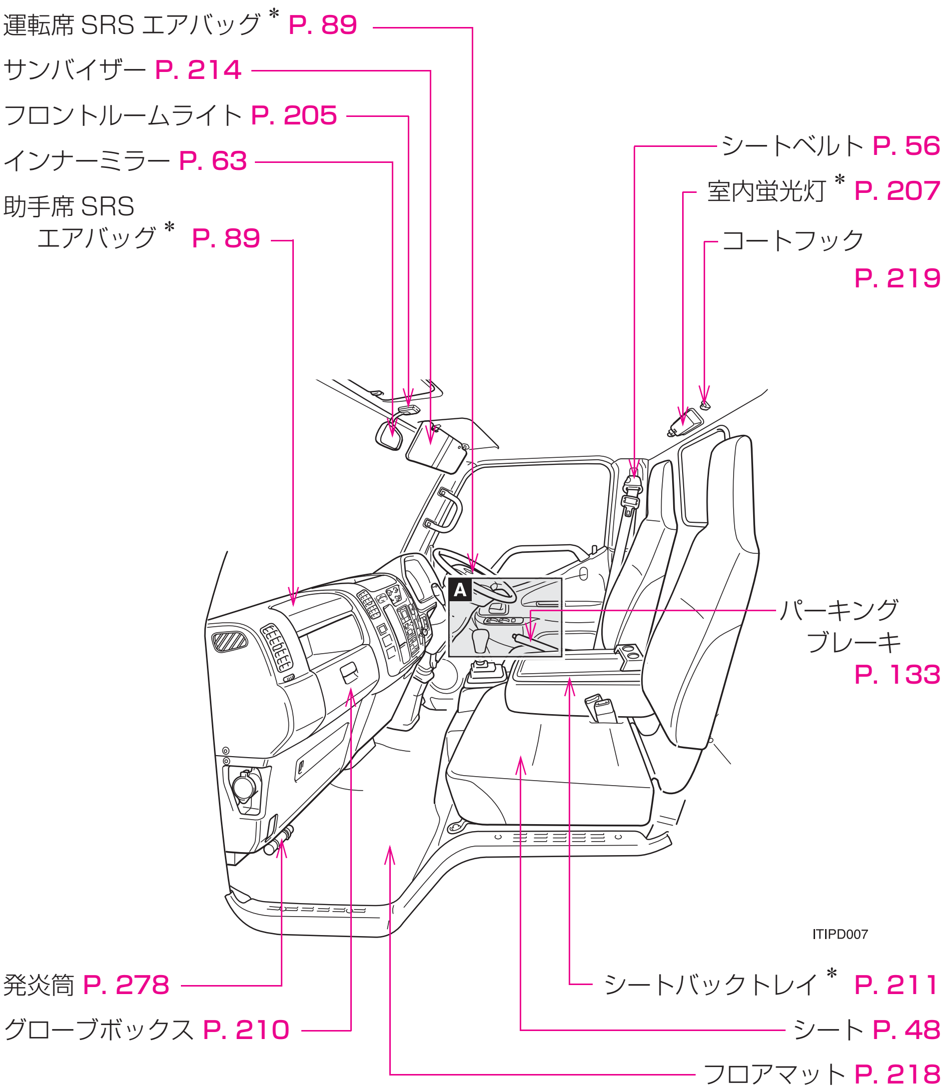
外観（LPG 車）


アウターミラー P. 64
ワイヤレスリモコンアンテナ* P. 34
ワイパー P. 145
ラジオアンテナ P. 203
ITIPL026a
方向指示灯 P. 132
車幅灯 P. 142
方向指示灯 P. 132
フォグライト* P. 144
ヘッドライト P. 142



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

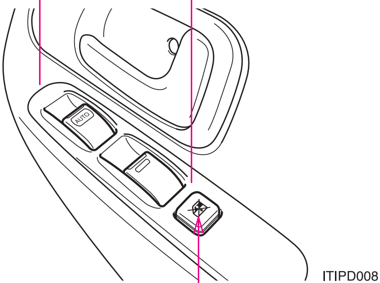
室内（シングルキャブ）



運転席 SRS エアバッグ * P. 89
サンバイザー P. 214
フロントルームライト P. 205
インナーミラー P. 63
助手席 SRS エアバッグ * P. 89
シートベルト P. 56
室内蛍光灯 * P. 207
コートフック P. 219
A
パーキングブレーキ P. 133
ITIPD007
発炎筒 P. 278
グローブボックス P. 210
シートバックトレイ * P. 211
シート P. 48
フロアマット P. 218

A

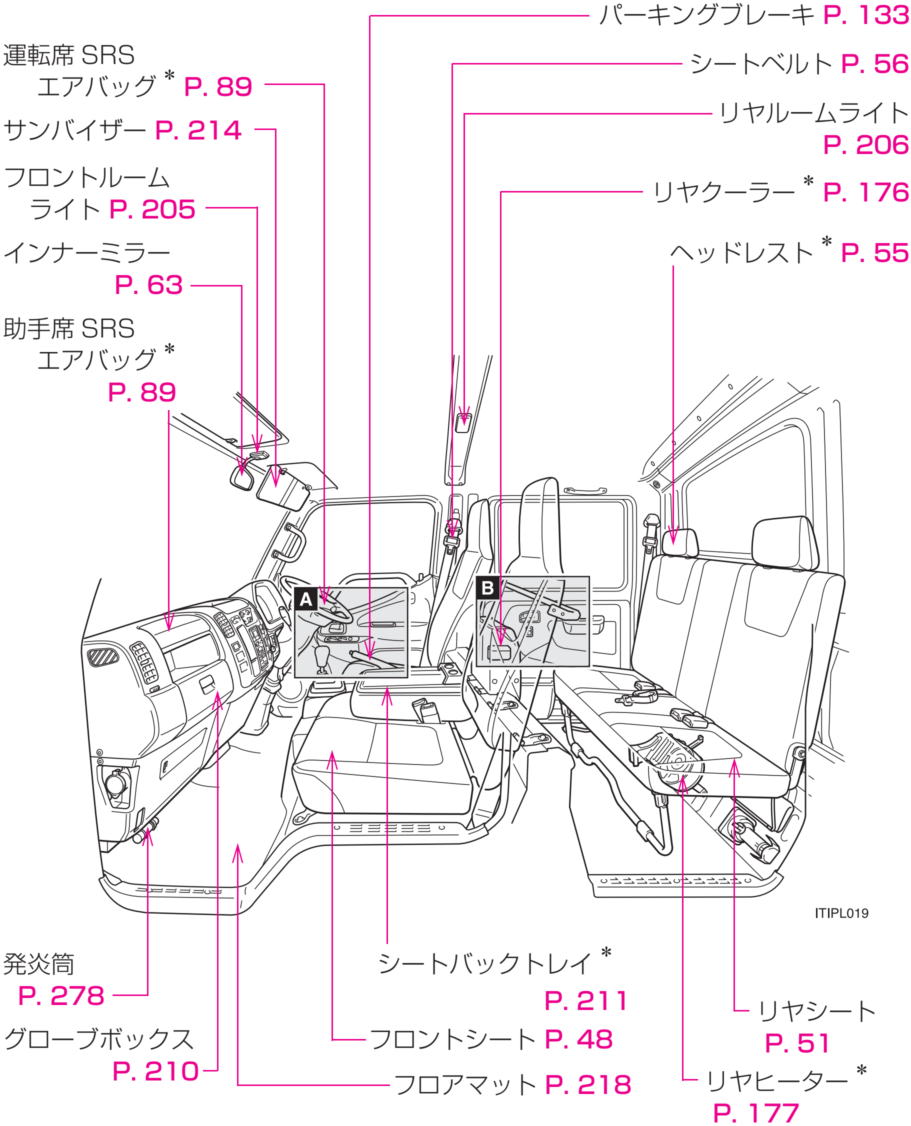
パワーウインドウスイッチ * P. 67



ウインドウロックスイッチ * P. 67

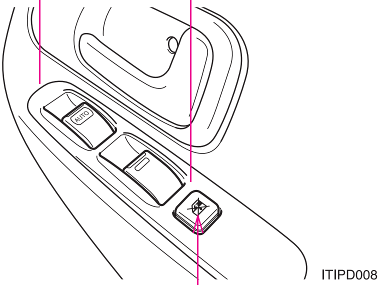
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

室内（ダブルキャブ）

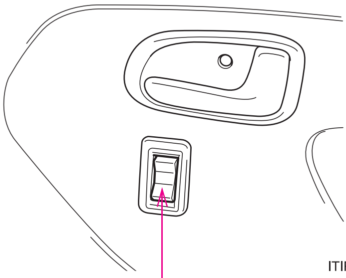


パーキングブレーキ P. 133
運転席 SRS エアバッグ * P. 89
シートベルト P. 56
リヤルームライト P. 206
サンバイザー P. 214
フロントルームライト P. 205
リヤクーラー * P. 176
インナーミラー P. 63
ヘッドレスト * P. 55
助手席 SRS エアバッグ * P. 89
A
B
ITIPL019
発炎筒 P. 278
シートバックトレイ * P. 211
リヤシート P. 51
フロントシート P. 48
グローブボックス P. 210
リヤヒーター * P. 177
フロアマット P. 218

A

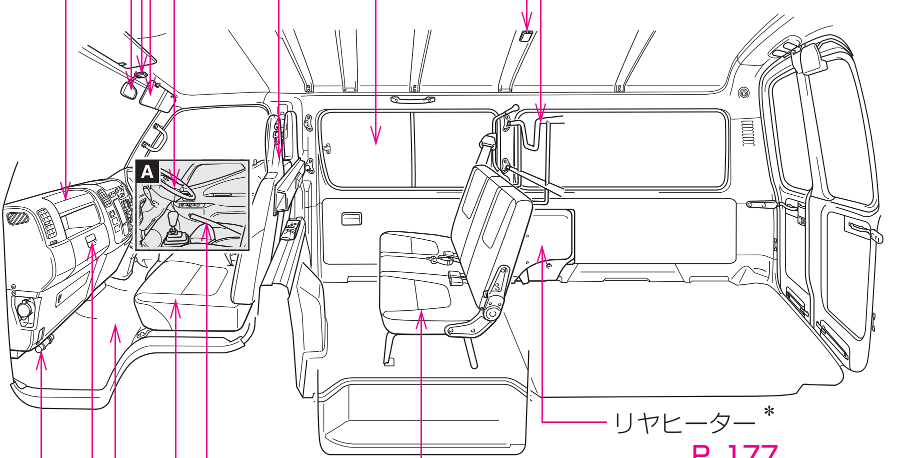


B



＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

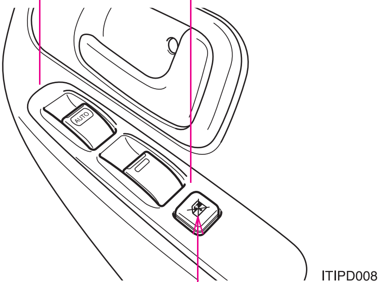
室内（ルートバン）



助手席 SRS エアバッグ * P. 89
インナーミラー P. 63
フロントルームライト P. 205
サンバイザー P. 214
運転席 SRS エアバッグ * P. 89
シートベルト P. 56
サイドウインドウガラス P. 69
リヤルームライト * P. 206
移動式セパレーターバー * P. 220
A
リヤヒーター * P. 177
ITIPL020
リヤシート * P. 51
パーキングブレーキ P. 133
フロントシート P. 48
フロアマット P. 218
グローブボックス P. 210
発炎筒 P. 278

A

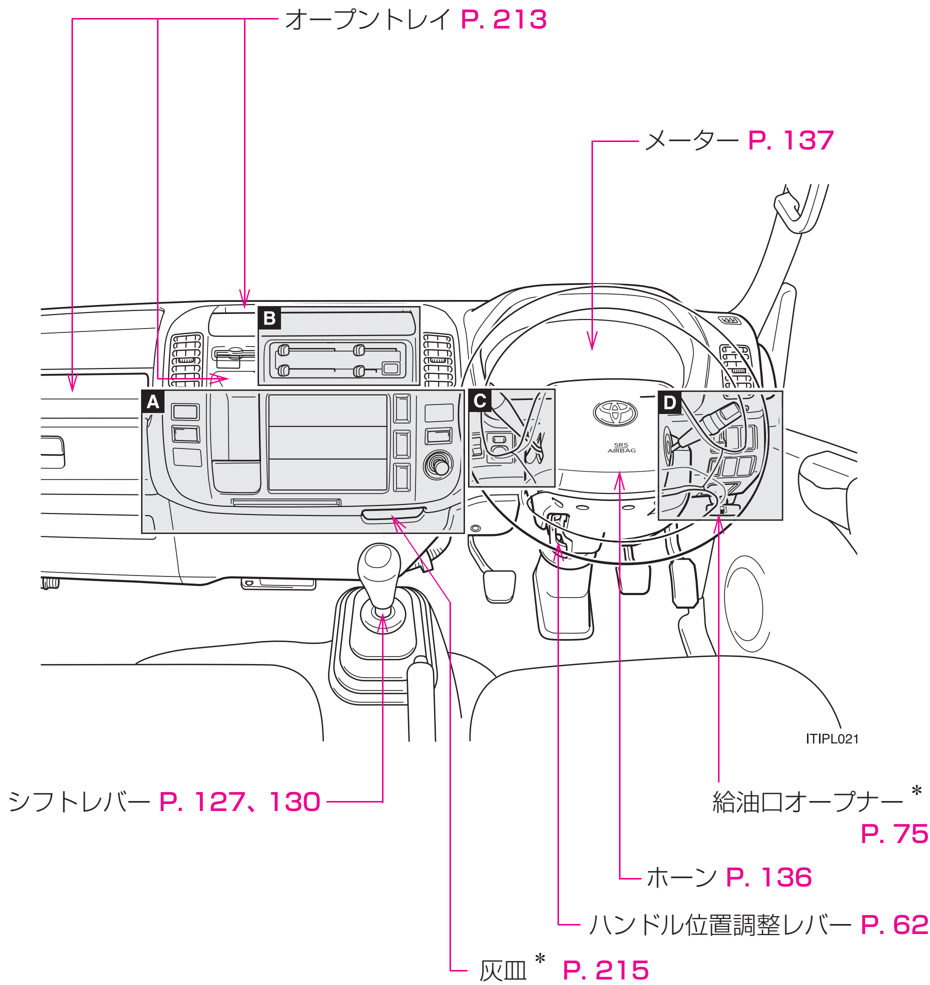
パワーウインドウスイッチ * P. 67



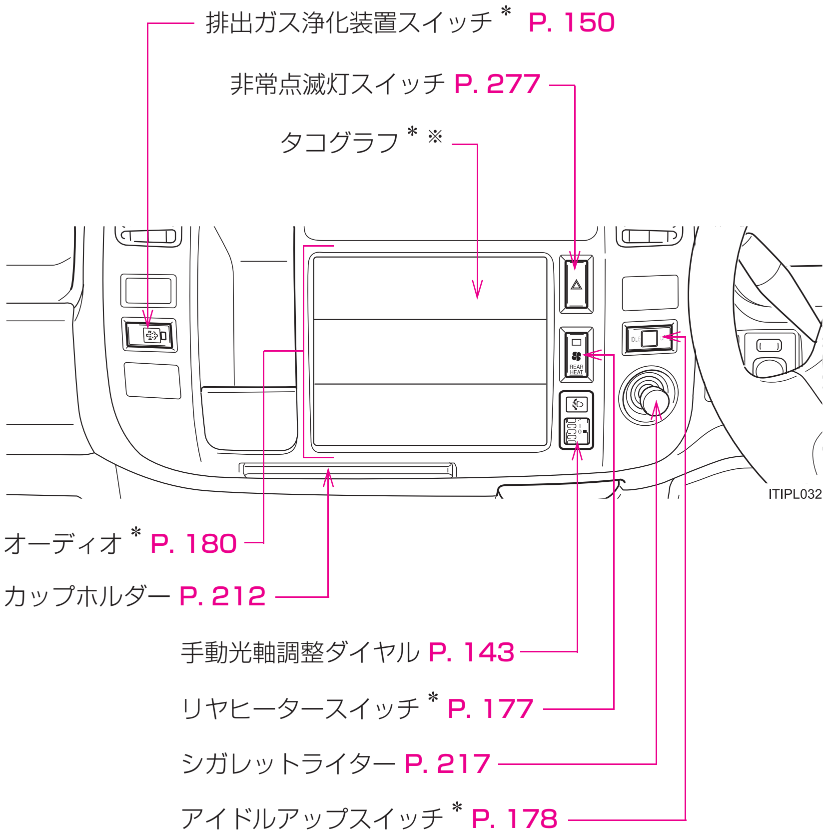
ウインドウロックスイッチ * P. 67

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル



A

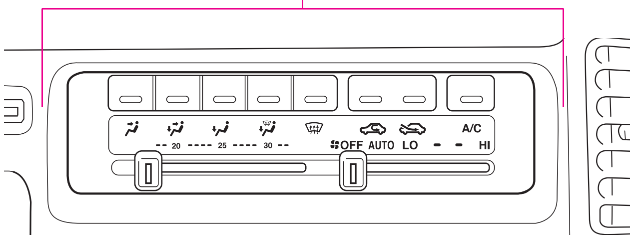


＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：タコグラフ装着車は別添の取り扱い説明書を参照してください。

B

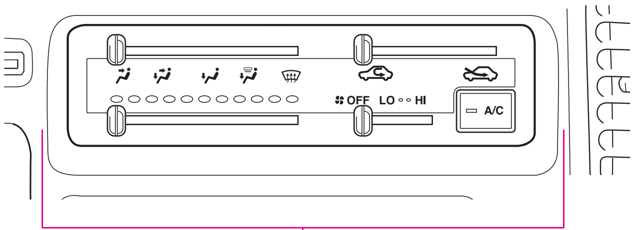
▶ オートエアコン装着車

オートエアコン P. 164



ITIPD014

▶ マニュアルエアコン装着車※

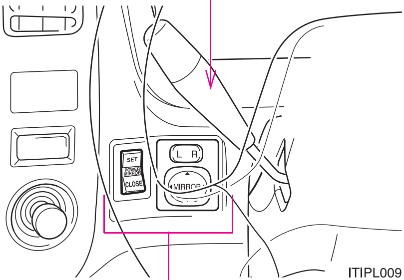


マニュアルエアコン P. 170

ITIPD017

C

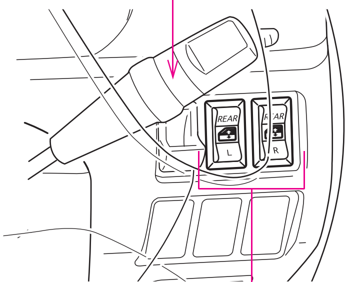
ワイパー ＆ ウォッシャー
スイッチ P. 145



アウターミラースイッチ * P. 64

D

ライトスイッチ P. 142
方向指示レバー P. 132
フォグライトスイッチ * P. 144



パワーウインドウ
スイッチ * P. 67

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：エアコンスイッチはオプション装備等により装着の有無が異なります。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）、架装機器の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。SRS エアバッグ装着車はハンドルには ＳＲＳ エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナット・ストップボルトの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・ エンジン回転数
・ アクセルの操作状況
・ ブレーキの操作状況
・ 車速
・ シフトポジション（マニュアルトランスミッション車を除く）

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

お子さまを乗せるときは

お子さまを車内に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシート取り付け時の注意事項などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 101）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています）

日常点検で異常があったり、車の調子が悪かったりしたときは、トヨタ販売店にご相談ください。
車には各種のコンピュータが搭載されており、相互に複雑な制御を行っています。そのため、不調部位とは関係がないように思われる箇所に問題が発生していることがあります。その場合には、特殊ツールで車を診断する必要があるためトヨタ販売店で点検を受けてください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

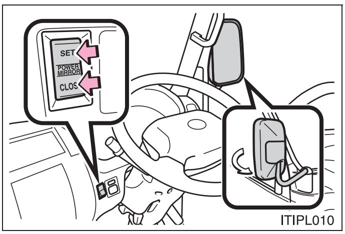
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。



操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

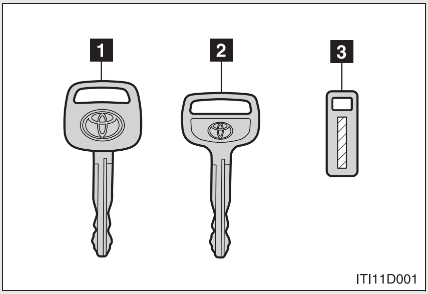
運転する前に

1

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。

▶ エンジンイモビライザーシステム非装着車



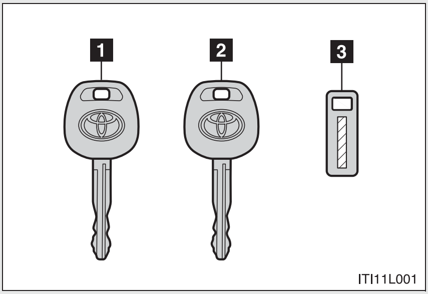
1 キー

2 スペアキー

仕様により、スペアキーが 2 枚ある車両があります。

3 キーナンバープレート

▶ エンジンイモビライザーシステム装着車



1 マスターキー（黒色）

2 枚あります。

2 サブキー（灰色）

3 キーナンバープレート

知識

■エンジンイモビライザーシステム装着車は

マスターキー（黒色）を紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、紛失しないように注意してください。

■キーの構成について

車の仕様により、ここで説明している内容とキーの枚数・組み合わせが異なる場合があります。

■キーナンバープレート

車内以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 314）

注意

■キーの故障を防ぐために

キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。

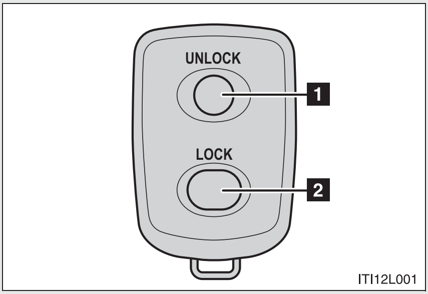
■エンジンイモビライザーシステム装着車は

- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キーを超音波洗浄機などで洗浄しないでください。

ワイヤレスリモコン*

ドアを施錠・解錠できます。

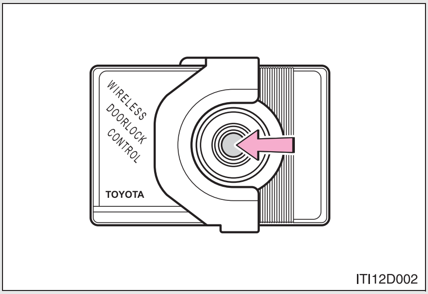
▶ キーホルダー式リモコン



1 全ドア※解錠

2 全ドア※施錠

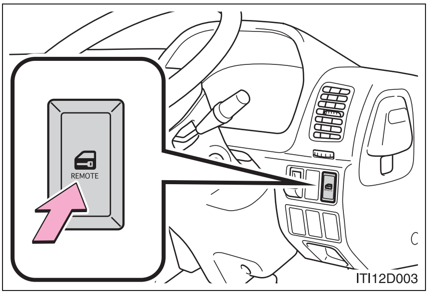
▶ ベルト装着式リモコン



施錠／解錠

※ルートバンのバックドアを除く

メインスイッチ（ベルト装着式リモコン）



ON ／ OFF

スイッチを ON にすると約５秒後に施錠されます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件について

- ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。
  確実に作動させるためには、キーホルダー式リモコンは約 2m、ベルト装着式リモコンは約 1m までキャブに近付いて操作してください。
- ベルト装着式リモコンは、手に持って操作すると作動可能距離が短くなることがあるため、必ず腰につけて操作してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

以下のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき
- ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- ワイヤレスリモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■電池の消耗について

電池の標準的な寿命は 1 〜 2 年です（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します）。ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 266）

■解錠操作のセキュリティ機能

▶ キーホルダー式リモコン

解錠操作後、ドアを開けなかったときは、盗難防止のため、約３０秒後に自動的に施錠されます。（フロントドアやスライドドアを開けるとこの機能は解除されますが、ダブルキャブ車のリヤドアやルートバンのバックドアのみの開閉では解除されません）

▶ ベルト装着式リモコン

解錠操作後、盗難防止のため、約５秒後に自動的に施錠されます。

■電池が切れたときは

→P. 266

■ワイヤレスリモコンアンテナについて

助手席側にあります。アンテナは格納することができます。ワイヤレス機能を使用するときは、いっぱいまで引き出して使用してください。

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ **注意**

■メインスイッチについて（ベルト装着式リモコン）

電池の寿命に影響をおよぼすおそれがあるため、車両を長時間使用しないときやリモコンを紛失したときは、スイッチを OFF にしてください。

■ワイヤレスリモコンの故障を防ぐために

- ワイヤレスリモコンに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、ぬらしたりしないでください。
- ワイヤレスリモコンを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼りつけたりしないでください。

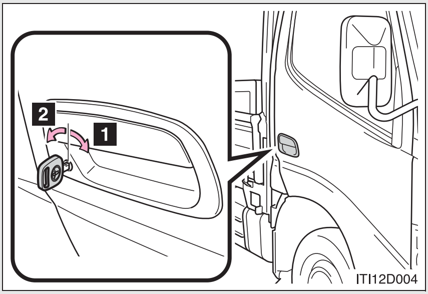
ドア（フロントドア、リヤドア*）

ワイヤレス機能 *、キー、ロックボタンを使って施錠・解錠できます。

■ ワイヤレス機能

→P. 32

■ キー

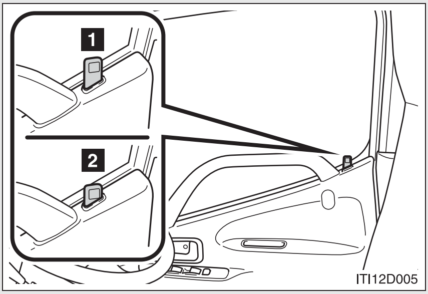


1 ドア施錠※

2 ドア解錠※

※電気式ドアロック装着車は全ドア施錠・解錠（ルートバンのバックドアを除く）

■ ロックボタン



1 解錠

2 施錠

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

キーを使わずに外側からフロントドアを施錠するときは

手順 1 ロックボタンを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シートベルトを必ず使用する

● すべてのドアを施錠する

● すべてのドアを確実に閉める

● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアを開閉するときは

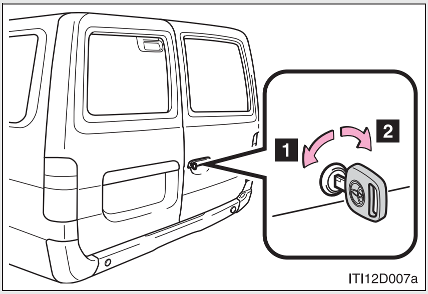
傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対応できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア＊

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

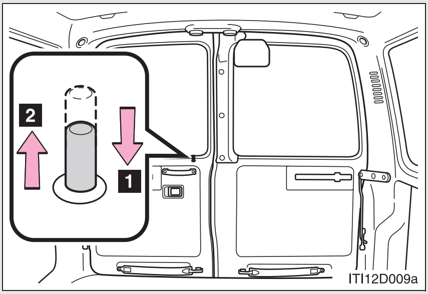
▶ キー



1 施錠

2 解錠

▶ ロックボタン

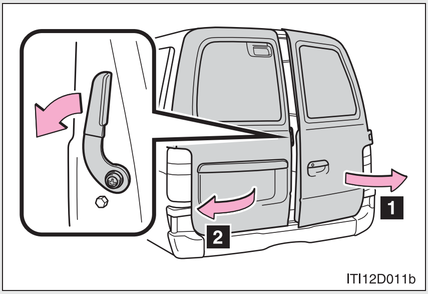


1 施錠

2 解錠

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 外側から開くときは

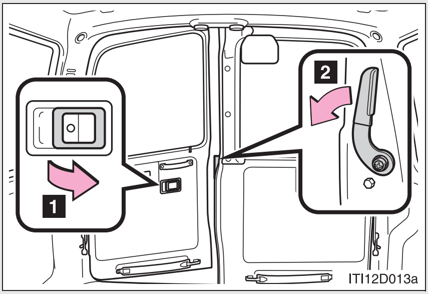


1 運転席側ドアを開ける

2 助手席側ドアを開ける

レバーを手前に引いて開けます。

■ 内側から開くときは



1 運転席側ドアを開ける

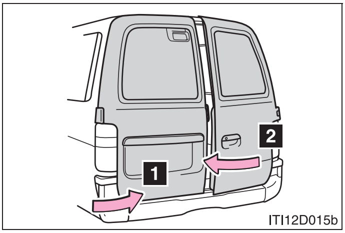
ノブを引きます。

2 助手席側ドアを開ける

レバーを外側に倒して開けます。

知識

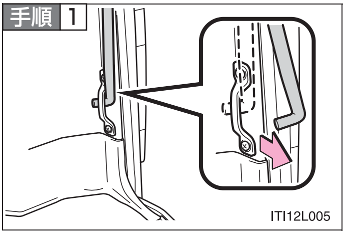
■バックドアを閉めるときは



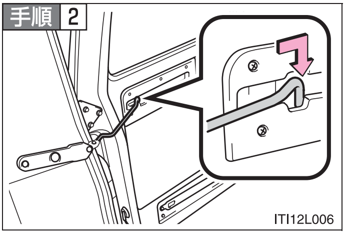
1 助手席側ドアを閉める

2 助手席側ドアを閉めた状態で運転席側ドアを閉める

■バックドアの開きを制限するには

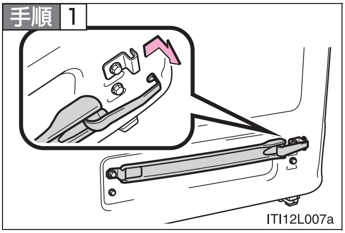


固定棒をゴムフックからはずす

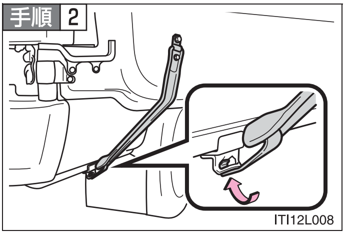


ドアのレール部の切れ目にはめ込む

■バックドアを開けた状態で固定するには



ドア内側のゴムバンドのツメを固定フックからはずす



車体下部のフックに固定する

■キーを使わずに施錠するには

助手席側ドアを閉め、ロックボタンを施錠状態にし、運転席側ドアのハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると､バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また､排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です｡走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと､走行中にバックドアが突然開き､思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●荷室には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに､重大な傷害におよぶか､最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●荷室でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

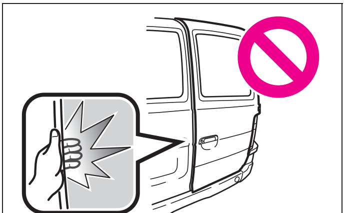
■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開閉のさまたげとなるおそれがあります。
- ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。


ITI12L010

- ●バックドアを固定していない状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。バックドアを開けて作業するときは、必ずバックドアを固定した状態で行ってください。


ITI12L002

- ●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開閉のさまたげとなるおそれがあります。

警告

■バックドアを開けて駐停車するときは

車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなる場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バックドアについて

- 固定棒を使用しているときは、固定棒などの破損を防ぐため、必ずドアを閉める前にはずしてください。
- ドアを閉めるときは、傷または破損の原因となりますので、必ず助手席側のドアから閉めてください。

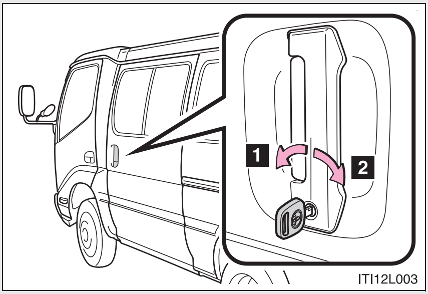
スライドドア*

ワイヤレス機能 *、キー、ロックボタンを使って施錠・解錠できます。

■ ワイヤレス機能

→P. 32

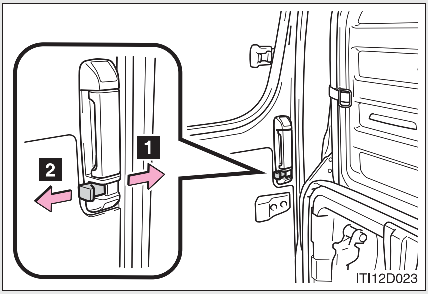
■ キー



1 施錠

2 解錠

■ ロックボタン



1 施錠

2 解錠

知識

■キーを使わずに施錠するには

ロックボタンを施錠側にしてドアを閉めます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず着用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ●お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**スライドドアの操作にあたって**

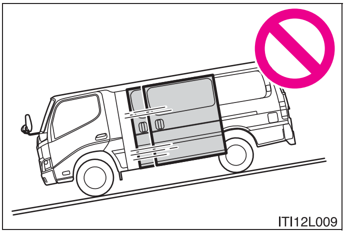
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●サイドウインドウガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。

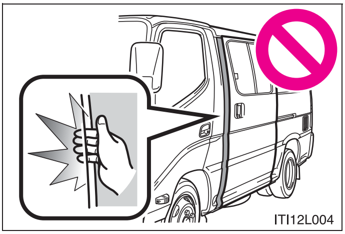
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。



●坂道ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。

●下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。



●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

注意

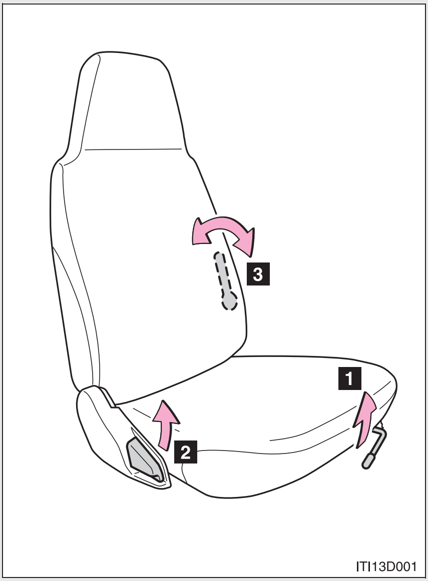
■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

フロントシート

■ 左右シート



1 前後位置調整*

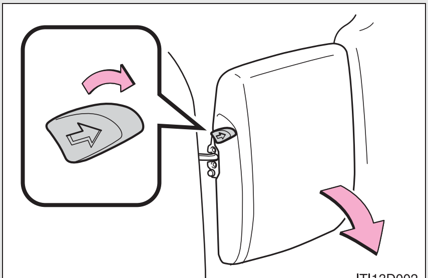
2 リクライニング調整*

3 腰部硬さ調整（運転席のみ）*

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

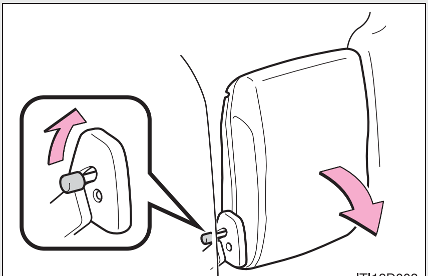
■ センターシート*

▶ シングルキャブ


ITI13D002

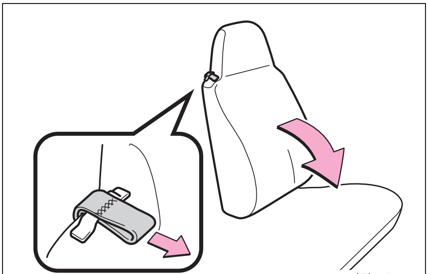
ノブを引く

▶ ダブルキャブ


ITI13D003

ノブを引き上げる

前に倒すときは（リクライニングシートを除く）


ITI13D004

ストラップを引く

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

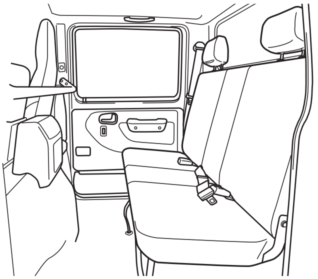
■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

リヤシート*

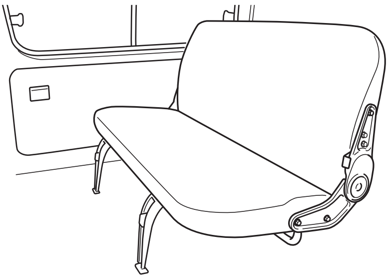
折りたたんでスペースを拡大することができます。

▶ ダブルキャブ



ITI13D005

▶ ルートバン３／６人乗り

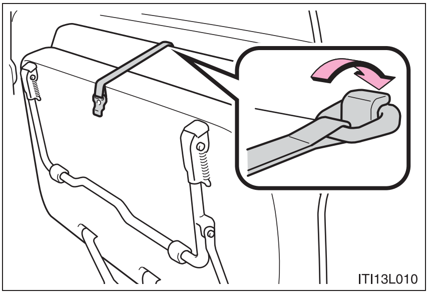


ITI13D006

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

リヤシートの折りたたみ

▶ ダブルキャブ

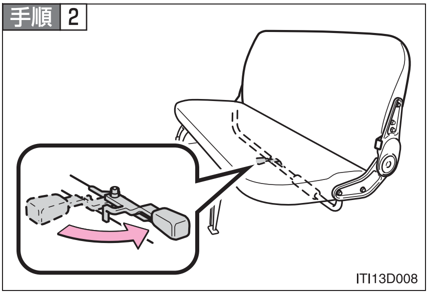


シートを持ち上げて固定する

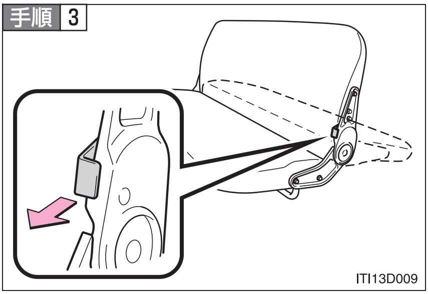
バンドを背もたれのフックにかけて固定します。

▶ ルートバン 3 ／ 6 人乗り

手順 1 セパレーターバーを前方に移動する（→P. 220）

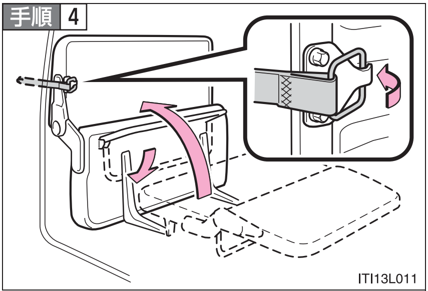


シート脚部のレバーをまわしてロックを解除する



解除レバーを引いて背もたれを倒す

手順 4


ITI13L011

シートを上げて固定する

助手席後方のバンドをフックにかけて固定し、シートの脚を折りたたみます。

手順 5 もとにもどすときは、逆の手順で操作する

⚠ 警告

■リヤシートを操作するときは

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にする
- シートを降ろすときは、手足を挟まないように注意する
- シートを折りたたんだ状態で人を乗せて走行しない
- お子さまが荷室に入らないように注意する

■リヤシートをもとの位置にもどしたあとは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがシート下に挟み込まれていないか確認する

注意

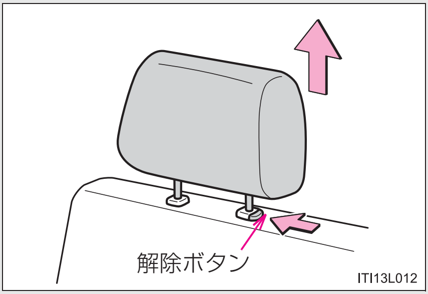
■荷物を載せるときの注意

背もたれをうしろに倒した状態で、荷物などを背もたれの上に載せないでください。

シートが損傷するおそれがあります。

ヘッドレスト*

リヤシートのヘッドレストを取りはずすことができます。



解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを引き上げる

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストが固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

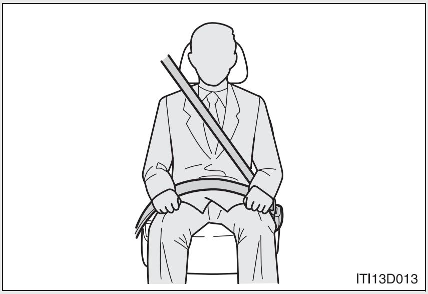
＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

シートベルト

すべての乗員は走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

▶ 3 点式シートベルト

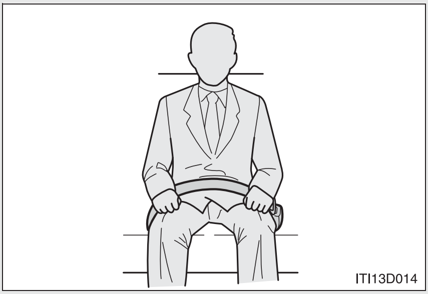


- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

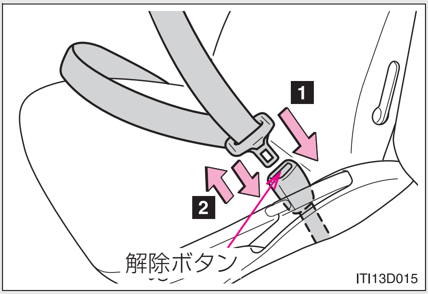
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

▶ 2 点式シートベルト



- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



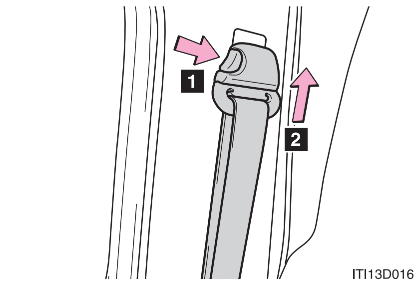
1 固定

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（運転席）



ITI13D016

1 下げる

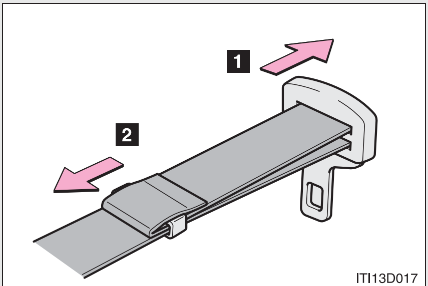
ロックボタンを押したまま、下に動かします。

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かします。

■ 2 点式シートベルトの長さ調節

▶ A タイプ

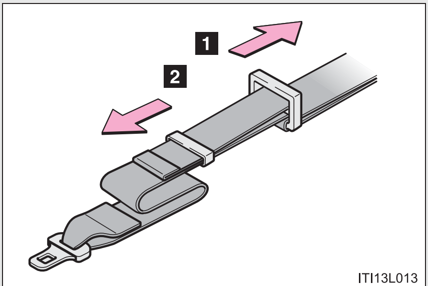


ITI13D017

1 伸ばす

2 縮める

▶ B タイプ

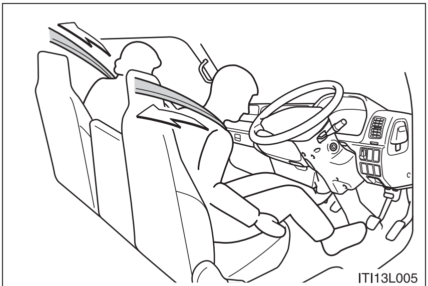


ITI13L013

1 伸ばす

2 縮める

シートベルトプリテンショナー（SRS エアバッグ装着席のシートベルト）


ITI13L005

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

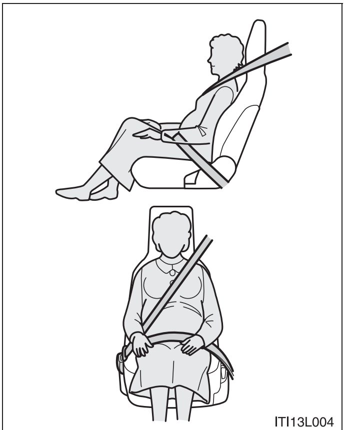
前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構（3点式シートベルト）

急停車や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、ベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合


ITI13L004

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 56）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルト（3点式シートベルト）は確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 56）

■シートベルトプリテンショナー*について

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトはひとつにつき一人で使用する
  お子さまでもひとつのベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席*に座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- ●シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルト*の取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルト*について

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

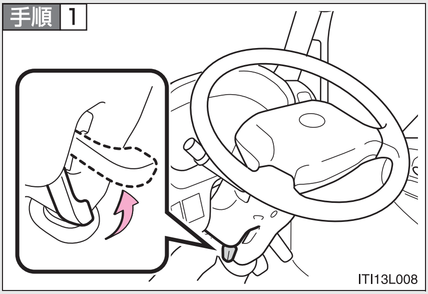
1

運転する前に

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

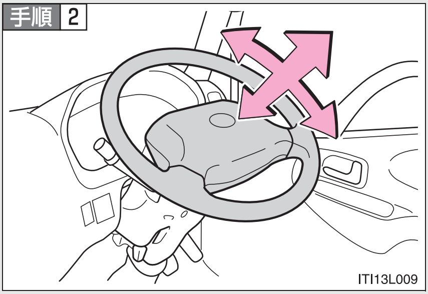
ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



ITI13L008

ハンドルを持ち、レバーを上げる



ITI13L009

ハンドルを上下・前後に動かし適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを下げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

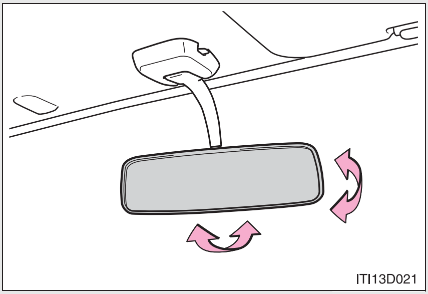
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー



インナーミラー本体を持って調整します。

警告

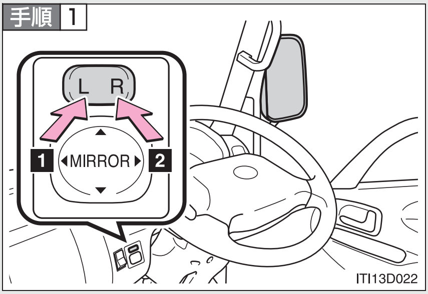
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

アウターミラー

▶ 電動タイプ

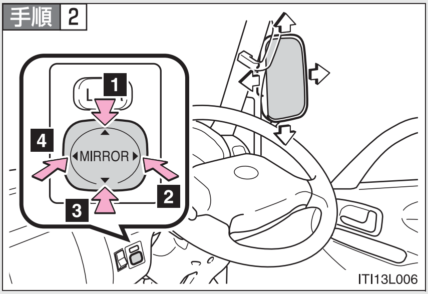
エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき、スイッチで鏡面の角度を調整できます。



ミラーを選ぶ

1 左

2 右



スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

1 上

2 右

3 下

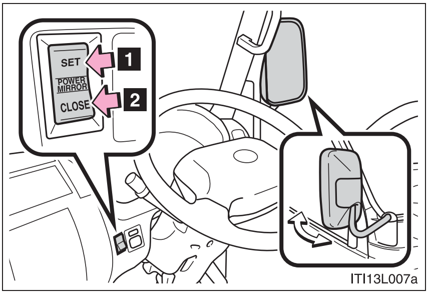
4 左

▶ マニュアルタイプ

ミラー全体を手で動かして調整します。

アウターミラーを格納するときは

▶ 電動タイプ



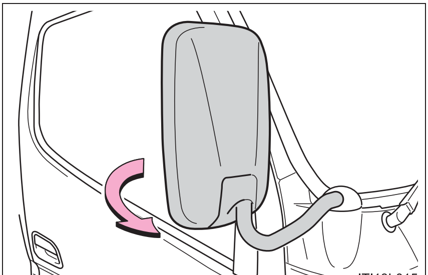
ITI13L007a

スイッチを操作してアウターミラーを格納する

1 復帰する

2 格納する

▶ マニュアルタイプ


ITI13L015

ミラー全体を手で押して格納する

イラストはフェンダーミラー式で代表しています。

知識

■電動タイプについて

- ●運転席・助手席側格納式と助手席側格納式があります。
- ●エンジン スイッチが“ LOCK ”のときは、手動で格納することができます。

■マニュアルタイプについて

運転席側ミラーには、フェンダーミラー式とドアミラー式があります。

■ワイドビューミラー*について

ミラー面の下側の曲率が違うため、通常よりも広い視界が確保できます。ミラー面の下側に映るものは、実際よりも遠くにあるように見えます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

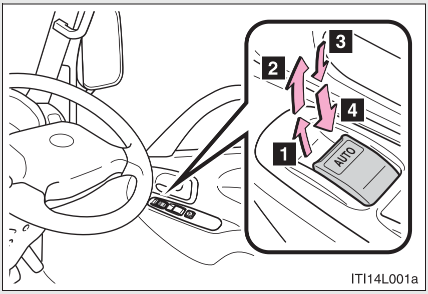
■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるので触れないでください。(→P. 179)

パワーウインドウ*

スイッチでドアガラスを開閉できます。

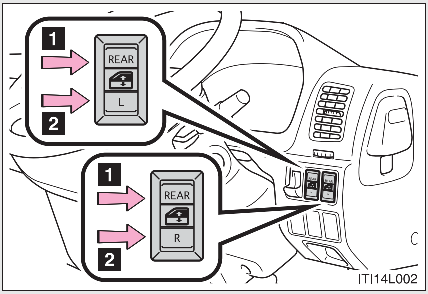
▶ 運転席・助手席用スイッチ



1 閉める
2 自動全開（運転席のみ）※
3 開ける
4 自動全開（運転席のみ）※

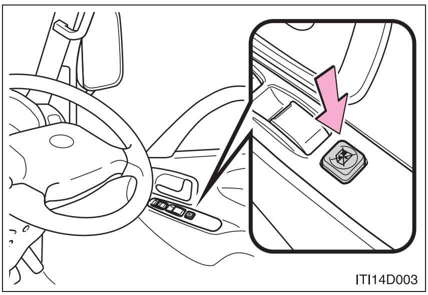
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

▶ 後席用スイッチ（ダブルキャブ車）



1 閉める
2 開ける

ウインドウロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

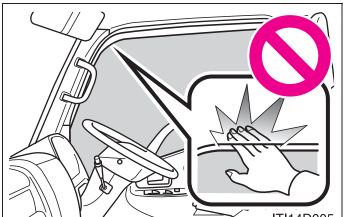
■後席用スイッチについて（ダブルキャブ車）

パワーウインドウ装着車は後席ドアにもパワーウインドウスイッチが装着されています。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

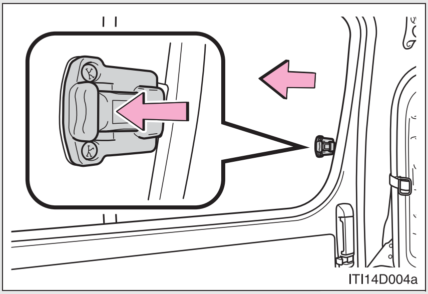
以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



ITI14D005

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。
とくにお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

サイドウインドウガラス＊



ツマミを押してロックをはずすと開くことができます。

警告

■サイドウインドウガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

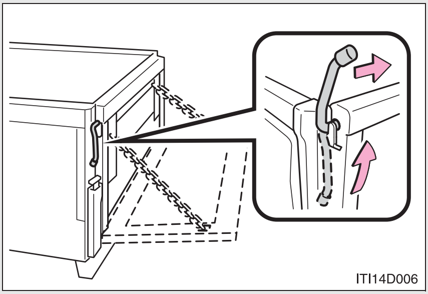
- サイドウインドウガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。
  とくにお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、サイドウインドウガラスの操作をさせないでください。
  サイドウインドウガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ゲートの開け方（荷台装着車）

■ テールゲート*

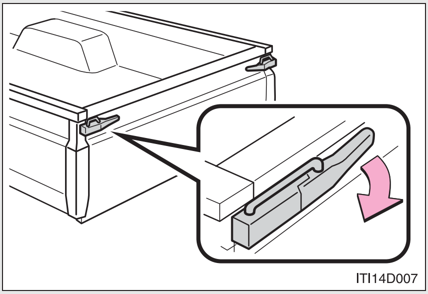
▶ 三方開デッキ



テールゲートを開ける

ハンドルを上にまわして、内側に押し込みます。

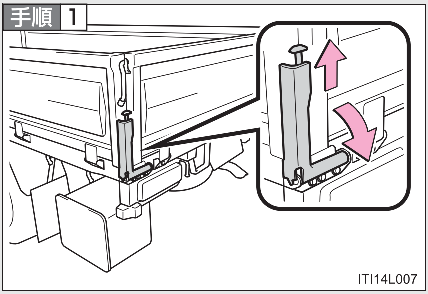
▶ 一方開デッキ



テールゲートを開ける

ハンドルを手前に引いて、ロックをはずします。

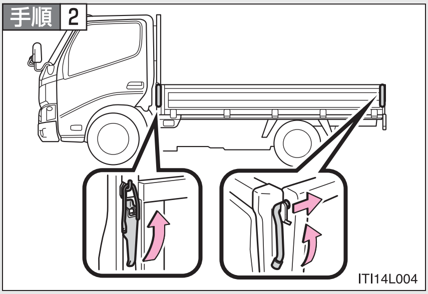
■ サイドゲート*



レバーを倒す

デッキ後部のレバーを引き上げたまま手前に倒します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

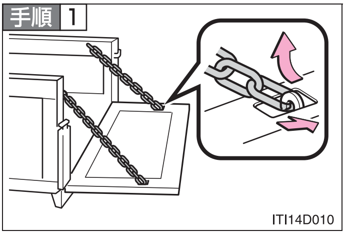


サイドゲートを開ける

ハンドルを引き上げてロックをはずします。

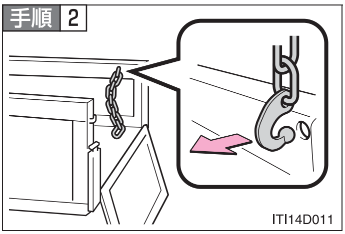
知識

■チェーン*のはずし方



テールゲート側のチェーンをはずす

ゲートを少し持ち上げてはずします。

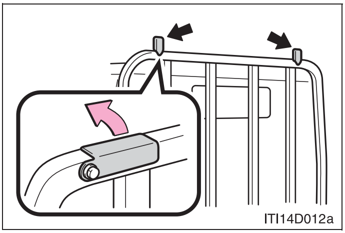


サイドゲート側のチェーンをはずす

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ガードフレームストッパー*

ガードフレームに積荷をのせる場合は、必ずストッパー間にのせ、ロープなどで固定してください。



折りたたみタイプを使用するときは、ストッパーを起こす

警告

■走行中の警告

ゲートを開けたまま走行しないでください。荷物が落下したり、ゲートが動いて周囲の人やものにあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■テールゲートを開けて駐停車するときは

車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。テールゲートで非常点滅灯などが見えなくなる場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

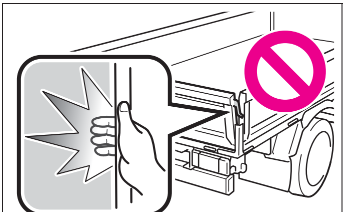
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■ゲートを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。


ITI14D014

●周囲の安全を確かめ、ゲートで指などを挟まないよう十分注意してください。

●お子さまにはゲートの操作をさせないでください。手、頭、腕、首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●傾斜地では平坦な場所よりもゲートの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にゲートが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。

●ハンドルやレバーを操作するときは、しっかり握り確実に操作してください。手を挟んでけがをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●強風時の開閉には十分注意してください。ゲートが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。

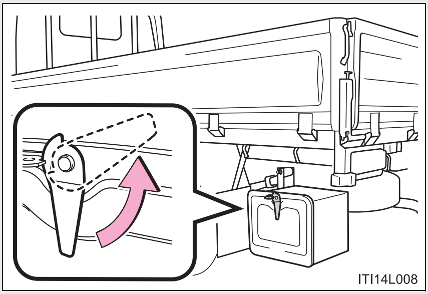
●ゲートを閉めたときは、確実に固定されたことを確認してください。

注意

■ゲートやチェーンの損傷を防ぐために

ゲートには積荷の荷重をかけないでください。また、ゲートを閉めるときはチェーンがかみ込まないよう注意してください。

ツールボックス*



ツールボックスを開く

ハンドルをまわして、ロックをはずします。

⚠ 警告

■走行中の警告

ツールボックスのフタを開けたまま走行しないでください。
収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

給油口の開け方（ガソリン・ディーゼル車）

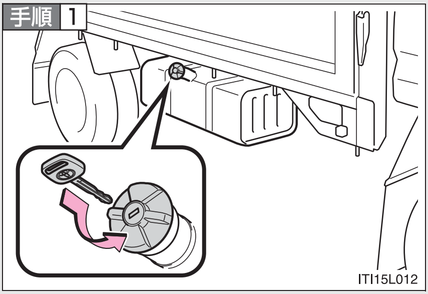
以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

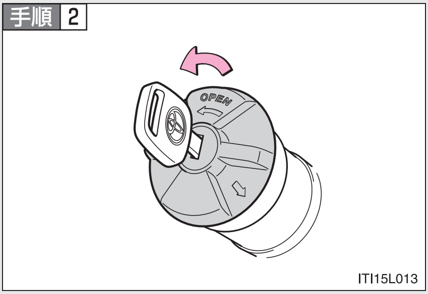
■ 給油口の開け方

▶ ルートバンを除く



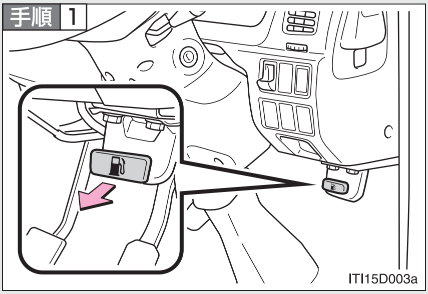
解錠する

キーを挿し込んで左にまわします。

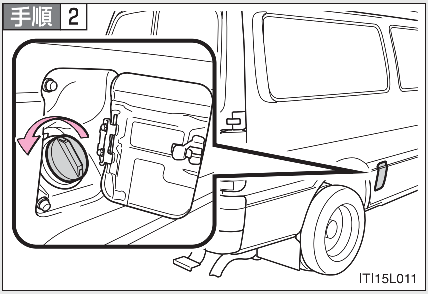


キャップをゆっくりまわして開ける

▶ ルートバン



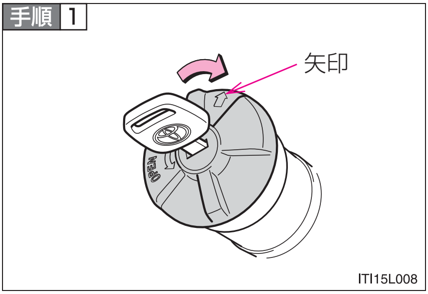
給油口を開ける



キャップをゆっくりまわして開ける

給油口を閉めるときは

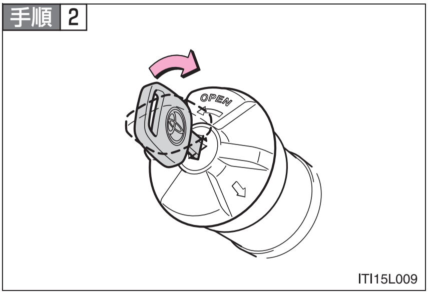
▶ ルートバンを除く



ITI15L008

キャップを閉める

矢印が上になるようにキャップをはめて、ゆっくりまわして閉めます。

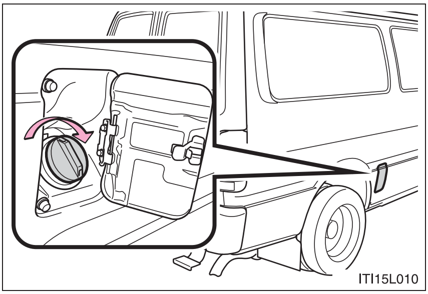


ITI15L009

施錠する

キーを右にまわします。

▶ ルートバン


ITI15L010

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

知識

■燃料の種類

▶ ガソリン車

無鉛レギュラーガソリン

▶ ディーゼル車

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

■エタノール混合燃料について（ガソリン車）

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

■燃料タンク容量（参考値）

60 L（キャンパー仕様車は 80L）

警告

■**給油について**

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるときは、必ずゆっくりと開けます。ゆっくり開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■**給油時の注意**

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■**キャップ交換時の警告**

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■給油するときは

指定の燃料を使用してください。
指定以外の燃料（粗悪ガソリン、灯油、高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない（ディーゼル車）
  指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

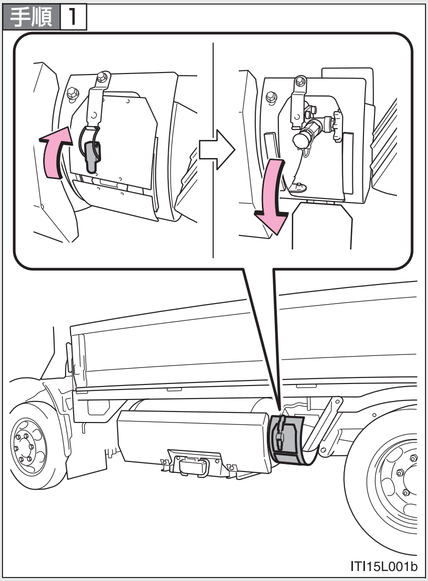
補給口の開け方（LPG 車）

以下の手順で補給してください。

■ 補給する前に

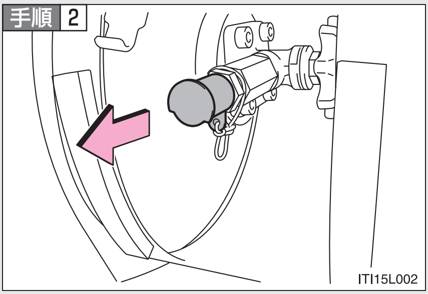
ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

■ 補給口の開け方



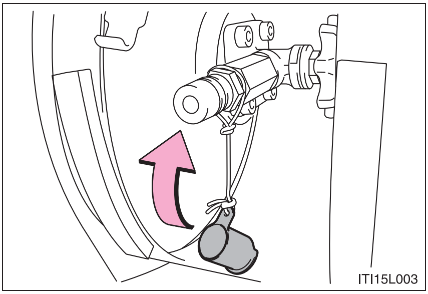
LPG タンクのプロテクターカバーについているフタを開く

ツメを引きあげて開きます。



補給口のキャップをはずす

補給口を閉めるときは


ITI15L003

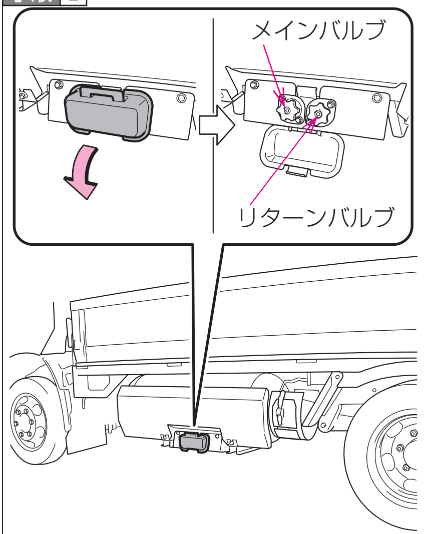
補給口にキャップをつけて、プロテクターカバーのフタをもどす

ツメがしっかり固定されていることを確認してください。

燃料を補給するときは

手順 1 補給口を開ける（→P. 81）

手順 2

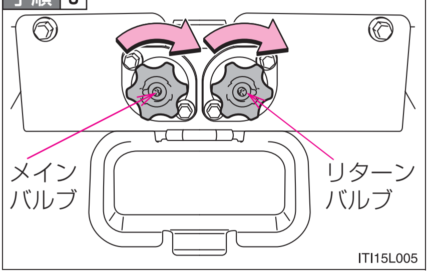


ITI15L004a

LPG タンク下部のカバーを開く

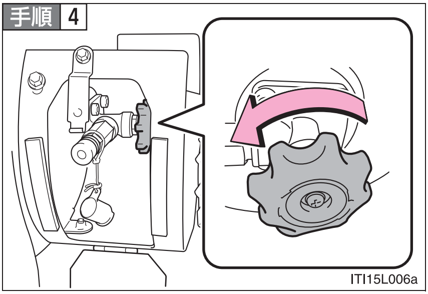
燃料取り出しバルブは 2 つあります。車両前側がメインバルブ、車両後側がリターンバルブです。

手順 3



メインバルブ、リターンバルブを、右にいっぱいまでまわして締める

手順 4



補給口の燃料充てんバルブを左にいっぱいまでまわして開く

手順 5 LP オートガス充てんガンを確実にセットし注入する

手順 6 燃料充てんバルブを右にいっぱいまでまわして締める

手順 7 メインバルブ、リターンバルブをゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く

手順 8 LP オートガス充てんガンをはずし、補給口を閉める（→P. 82）

知識

■燃料充てんスタンドについて

差圧式簡易 LPG スタンドでの燃料充てんには対応していません。

■燃料の種類

LP オートガス
プロパン率（燃料のプロパン割合）冬期：70%以下、夏期：30%以下のオートガスを補給してください。

■燃料タンク容量（参考値）

約 90L
保安基準により、タンク容量の 85% が最大充てん量となります。

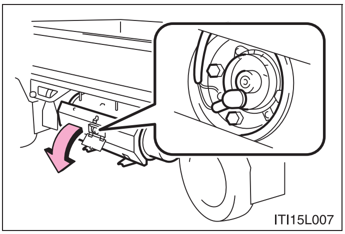
■燃料の補給について

燃料が少なくなる前に、早めに補給をしてください。

■所有者表示について

LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、車両の所有者とタンクの所有者が異なる場合は、タンクには所有者表示が義務付けられています。

■燃料計について



LPG タンク中央のツメをはずし、フタを開けると燃料計があります。
外周の数字がタンク内の燃料容量を%表示で表します。
燃料計はメーター内にもあります。
(→P. 137)

警告

■補給について

- LP オートガス補給は、LPG スタンドの係員におまかせください。また、LP オートガス補給時は、スタンド指定の場所以外で火気を取り扱わないでください。引火するおそれがあり危険です。
- 指定燃料は LP オートガスです。指定以外の燃料を補給しないでください。

注意

■補給するときは

指定以外のプロパン率（燃料のプロパン割合）の LP オートガスを補給しようとした場合、燃料の補給がしにくくなる可能性があります。

エンジンイモビライザーシステム＊

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

■ エンジンイモビライザーシステムの作動

- キーをエンジン スイッチから抜くと、システムが作動します。
- 登録されたマスターキー、およびサブキーをエンジン スイッチに挿し込むとシステムが解除されます。
- キーに登録された信号は車ごとに異なります。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われている
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているもしくは接近している

注意

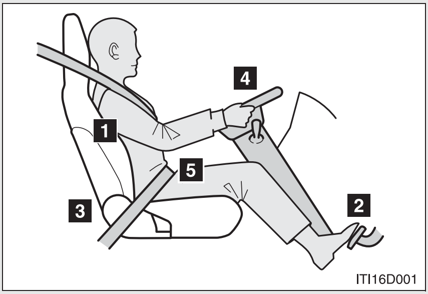
■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない(→ P. 48)

2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする(→ P. 48)

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする(→ P. 48)

4 SRS エアバッグ*が自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする(→ P. 62)

5 シートベルトを正しく着用する(→ P. 56)

⚠ 警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

●シートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

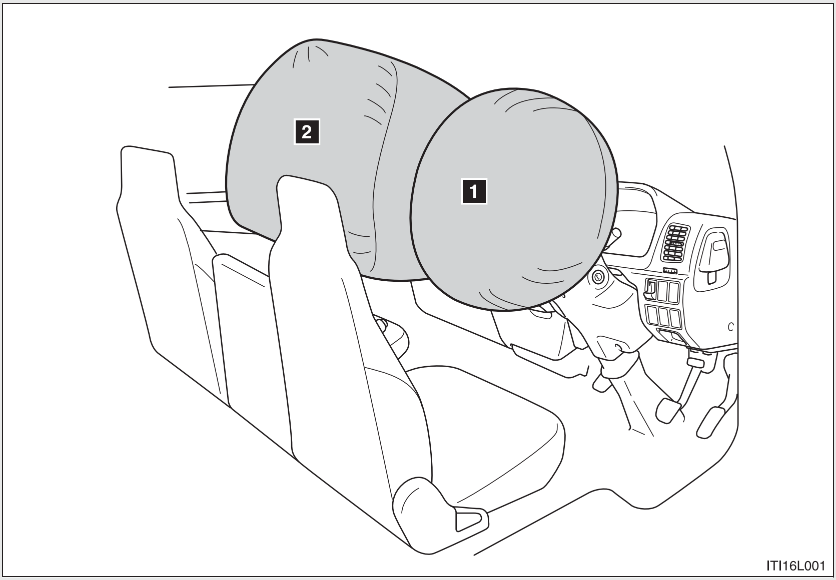
⚠ 警告

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
  指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ*

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



1 運転席 SRS エアバッグ
（運転者の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 助手席 SRS エアバッグ
（助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）は数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

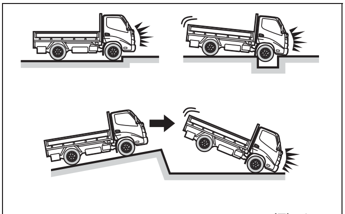
■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

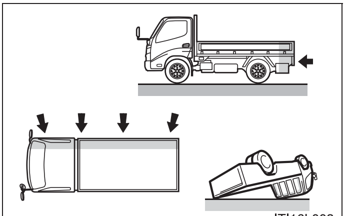
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。


ITI16L002

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

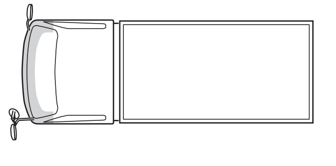

ITI16L003

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

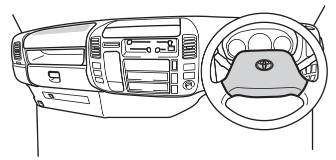
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき


ITI16D005

●SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


ITI16D006

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグが内蔵されている付近のダッシュボードが傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

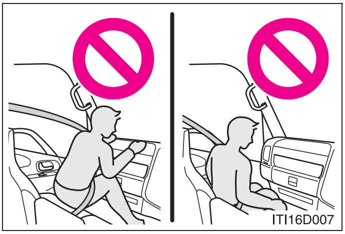
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。調整式シートは、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

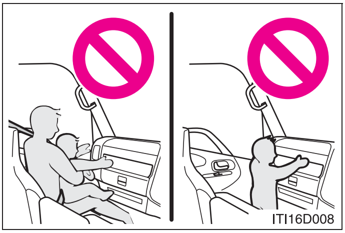
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。(→P. 101)
ダブルキャブ、ルートバン 3/6 人乗りは、お子さまをリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

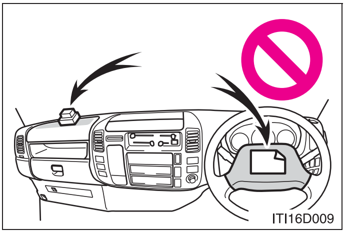


●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

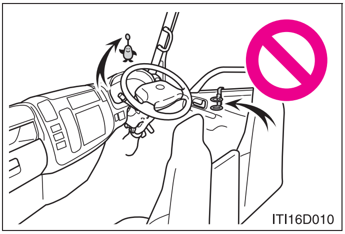


●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドアやフロントガラスなどには何も取り付けない

警告

■**SRS エアバッグについて**

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだ後に、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、フロア足元の ＳＲＳ エアバッグセンサー周辺の修理、取りはずし、改造

●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート*

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

● お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。

● 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

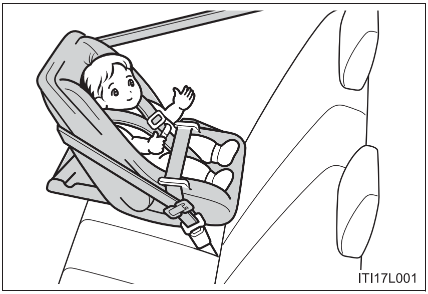
グループ 0　：10kg まで
グループ 0^+　：13kg まで
グループ Ⅰ　：9 ～ 18kg
グループ Ⅱ　：15 ～ 25kg
グループ Ⅲ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の 3 種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0^{+}、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表

質量グループ	着席位置（または他の場所）				
	フロントシート			リヤシート	
	助手席（助手席 SRS エアバッグ装着車）	助手席（助手席 SRS エアバッグ非装着車）	中央席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	L	×	U	×
0^{+}（13kg まで）	×	L	×	U	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き L うしろ向き ×	L	×	U	UF
Ⅱ（15 ～ 25kg）	L	L	×	U	UF
Ⅲ（22 ～ 36kg）	L	L	×	U	UF

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0^+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

知識

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、リヤシート*に乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 98）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき


ITI17L004

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートの背もたれを直立状態にして、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

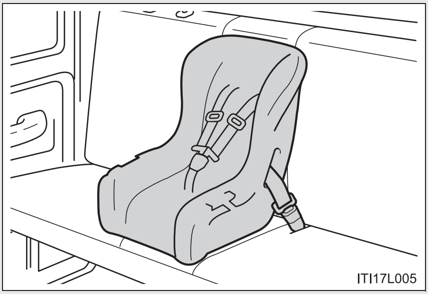
⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、荷台または荷室にしっかりと固定しておいてください。

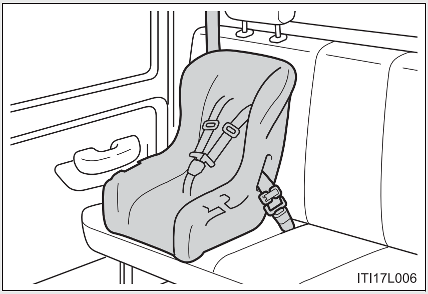
チャイルドシートの取り付け*

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート*に取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。



ITI17L005

2 点式シートベルトによる取り付け（→P. 102）

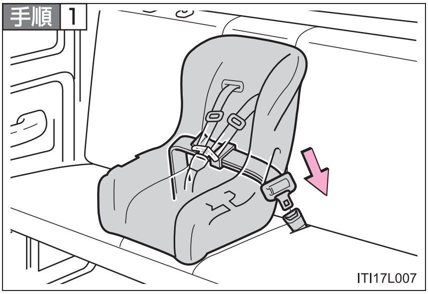


ITI17L006

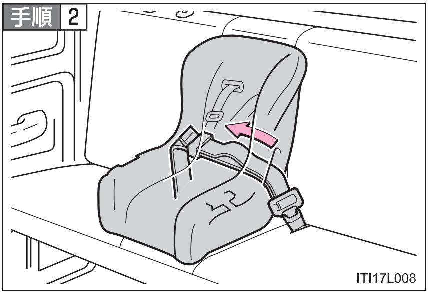
3 点式シートベルトによる取り付け（→P. 103）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

2 点式シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

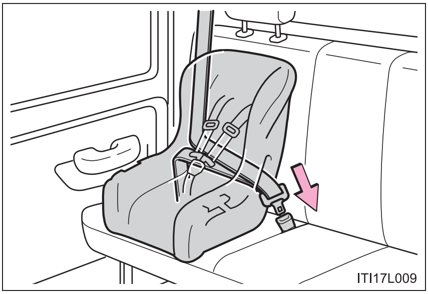


チャイルドシートをシートに押しつけながらシートベルトをひいて固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

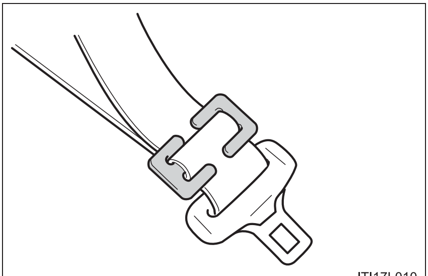
3 点式シートベルトで固定する



ITI17L009

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



ITI17L010

チャイルドシートにシートベルトの固定機構が備っていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ 品番：
73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停車の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

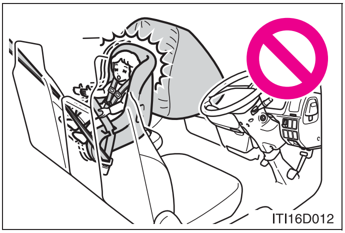
■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。



●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。(助手席SRS エアバッグ装着車)
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、必ずシートベルトを着用させ、シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢で座らせてください。
  助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(助手席 SRS エアバッグ装着車)
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

運転するときに　2

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P. 122）

■ 発進する

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 127）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 133）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする（→P. 130）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 133）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P. 133）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にしてください。（→P. 127）

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P. 133）

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にしてください。（→P. 130）

■駐車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 133)

手順 3 シフトレバーを P にする (→P. 127)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 133)

手順 3 シフトレバーを N にする (→P. 130)

坂道の途中で駐車をする場合は、下り坂では R、上り坂では 1 速に入れ、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ターボ車のエンジン停止について（ディーゼル車）

高速走行・登坂走行直後は、ターボ装置冷却のため、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

一般走行：必要なし

高速走行（約 80km/h 定速）：約 20 秒

高速走行（約 100km/h 定速）：約 1 分

山岳ドライブウェイなど急な登坂、または100km/ h 以上の連続走行：約２分

警告

■発進する前に

●車のまわりの安全を十分確認してください。この車は構造上、通常の乗用車に比べ車両のまわりの確認がしにくいため、走行前や信号待ち後の発進時は十分注意してください。

●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車のまわりの安全を確認後、車から降り、後方の確認をしてください。

■発進するときは

●オートマチック車は、ブレーキペダルをしっかり踏み込んだままシフトレバーを操作してください。また、エンジンがかかったままの停車中は常にブレーキペダルを踏み続けてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

●マニュアル車は 1 速で発進してください。また、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。クラッチの摩耗を早めるだけでなく、クラッチの損傷や車両火災につながるおそれがあり危険です。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■運転するときは

●燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。とくにディーゼル車は高温になる場合がありますので注意してください。(→P. 150)

●オートマチック車はシフトレバーを前進側に入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドア装着車はバックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となる他、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。(オートマチック車)

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D(オートマチック車)または 1(マニュアル車)に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

警告

■運転するときは

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 324を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 127)

●ハンドル、シート、アウターミラー、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横滑りするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスには吸盤を貼り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP（オートマチック車）にしてエンジンを停止して施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。とくにディーゼル車は高温になる場合がありますので注意してください。（→P. 150）

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、エンジンを停止してください。とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●ディーゼル車は、排出ガス浄化装置が作動した場合、排気管や排気ガスなどが通常よりさらに高温になりますので、ご注意ください。(→P. 150)

■**仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**ブレーキをかけるときは**

●万一のエンジン停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■**万一脱輪したときは**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。4WD 車はとくに注意してください。

⚠注意

■発進するときは（マニュアル車）

クラッチの損傷を防ぐため 1 速で発進してください。また、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。

■運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- オートマチック車は、坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。
- マニュアル車は、クラッチの損傷を防ぐためクラッチペダルに足を乗せたまま走行しないでください。

■駐車するときは（オートマチック車）

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ターボ装置の損傷を防ぐために（ディーゼル車）

- 高速走行・登坂走行直後はエンジンを停止しないでください。（→P. 111）
- 排気管などには指定以外の部品を使わないでください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプなどの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠ 注意

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

- できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
  必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。（ディスクブレーキ）
- ブレーキパッドやディスクローター（ディスクブレーキ）、ブレーキライニング（ドラムブレーキ）などの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■クラッチが滑っていると感じたら

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。
クラッチをつないだ状態でアクセルを踏み込んでも加速できない場合、クラッチが滑っている可能性があり、走行不能になるおそれがあります。

■走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。（→P. 290）

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

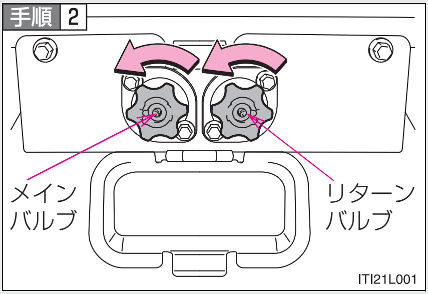
- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジンをかける前に（LPG 車）

手順 1 LPG タンク下部のカバーを開く（→P. 82）

手順 2



メインバルブ、リターンバルブを、ゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く

燃料取り出しバルブは 2 つあります。車両前側がメインバルブ、車両後側がリターンバルブです。

■ エンジンのかけ方

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジン スイッチをまわす

ガソリン車　：“ START ” の位置までまわします。

ディーゼル車：“ ON ” の位置までまわし、予熱表示灯が点灯後消灯したら “ START ” の位置にまわします。

LPG 車　　　：“ ON ” の位置までまわし、LPG 表示灯が点灯（点滅）後消灯したら “ START ” の位置にまわします。

▶ マニュアル車

手順 1 正しい姿勢(→P. 87)がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

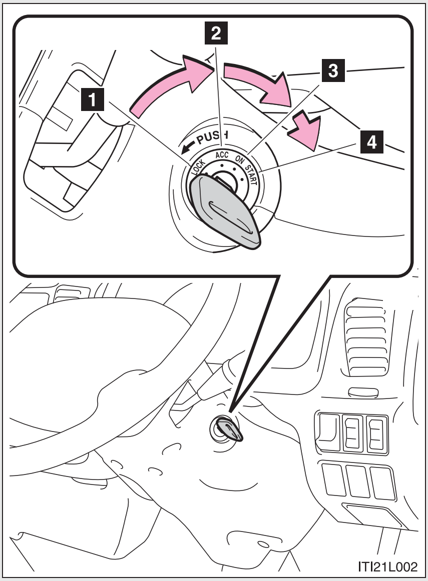
手順 5 エンジン スイッチをまわす

ガソリン車　：“ START ” の位置までまわします。

ディーゼル車：“ ON ” の位置までまわし、予熱表示灯が点灯後消灯したら“ START ”の位置にまわします。

LPG 車　　　：“ ON ” の位置までまわし、LPG 表示灯が点灯（点滅）後消灯したら “ START ” の位置にまわします。

■ エンジン スイッチの位置



1 “ LOCK ”

- ステアリングロックがかかります。
- キーを抜き挿しすることができます。
（オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます）

2 “ ACC ”

シガレットライターなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

4 “ START ”

エンジンが始動できます。

■ エンジンがかからないときは（LPG 車）

燃料過流防止弁が作動していることがあります。次の操作を行ってください。

手順 1 LPG タンク下部のカバーを開く（→P. 82）

手順 2 車両前側のメインバルブを右にいっぱいまでまわして締めてから、再度メインバルブを左に 1/3 ～ 1/2 まわす

車両後側のリターンバルブは開けたままにしておいてください。

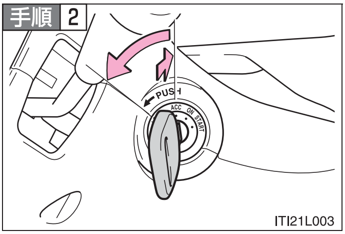
手順 3 エンジンを始動する

エンジンが始動したら、車両前側のメインバルブを左にいっぱいまでまわして開けます。

知識

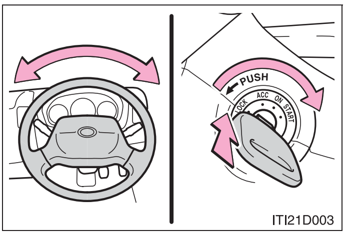
■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する（オートマチック車）



キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす

■ステアリングロックを解除するには



ステアリングを左右に動かしながら、エンジン スイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■エンジン始動時、LPG 表示灯が点滅したときは（LPG 車）

以下の状況において、エンジン始動時にLPG表示灯が点滅する場合があります。

●気温の高い時季

●登坂走行などの高負荷走行をしたあと

LPG 表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。LPG 表示灯が点滅中にエンジンを始動すると、始動時間が長くなることがあります。

■極寒時のエンジン始動について（ディーゼル車）

極寒時は 30 秒を限度にエンジンが始動するまでエンジン スイッチをまわし続けてください。30 秒スターターをまわしても始動しないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”にもどし、20 秒以上待ってから再始動してください。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

●走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンが停止すると思わぬ事故につながり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マニュアル車は、キーを“ LOCK ”の位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するときは

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかしをしないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■予熱表示灯について（ディーゼル車）

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

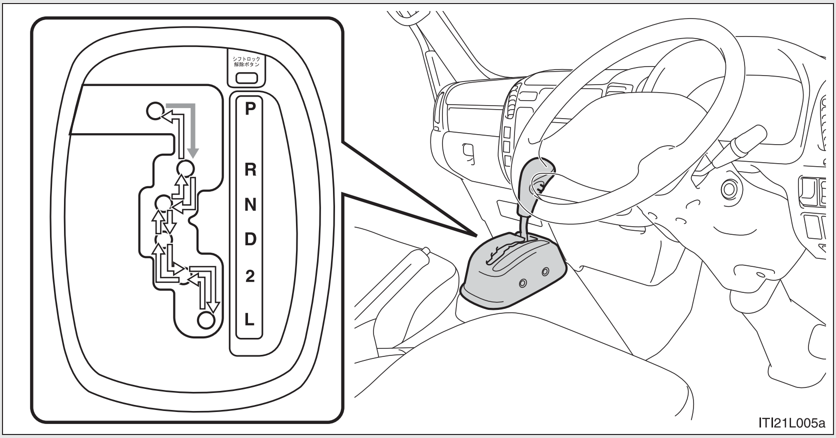
■走行中、LPG 表示灯が点滅したときは（LPG 車）

LPG タンク内の温度が高くなっています。まわりの安全を確認して停車し、エンジンを停止してください。
エンジン スイッチを“ ON ”にして、LPG 表示灯が消灯しているのを確認してから、エンジンを再始動してください。

オートマチックトランスミッション*

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方




エンジン スイッチが“ ON ”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

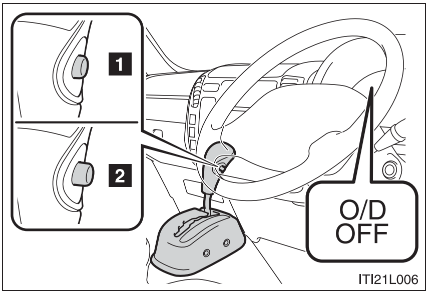
シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
2	下り坂走行
L	急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

オーバードライブ（O/D）スイッチ

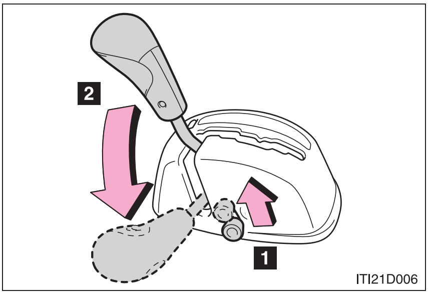
スイッチを ON にしておくとギヤが４速まで入り、燃費性能や静粛性を高めます。
OFF にすると４速に入らなくなり、下り坂での軽いエンジンブレーキや登り坂での不要な変速を防ぐ効果があります。



1 ON
2 OFF

可倒式シフトレバー

シフトレバーを助手席側に倒すことができます。シフトレバーを倒すときは、必ず停車して、パーキングブレーキをかけてから操作してください。



1 ロックレバーを引く
2 助手席側に倒す

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 313

■オーバードライブ OFF 表示灯が点滅したときは

オートマチックトランスミッションの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バックブザーについて

シフトレバーを R に入れると、車両後部のバックブザーが鳴ります。
車幅灯を点灯しているときは鳴りません。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

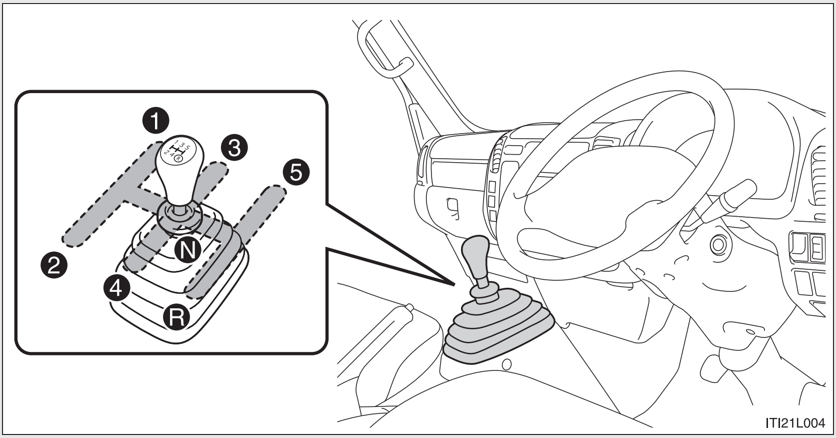
■シフトレバーを助手席側に倒すときは

エンジン回転中はシフトレバーを倒さないでください。急発進など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

マニュアルトランスミッション*

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

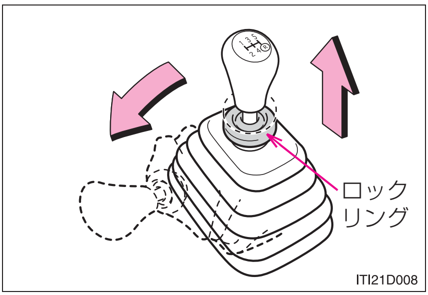
シフトレバーの動かし方



クラッチペダルをしっかり踏みシフトレバーをゆっくり操作します。
誤操作を防ぐために、5からRへは直接シフトすることができません。
いったんNにしてからRにシフトします。

可倒式シフトレバー*

シフトレバーを助手席側に倒すことができます。シフトレバーを倒すときは、必ず停車して、パーキングブレーキをかけてから操作してください。



ロックリングを引いたまま助手席側に倒す

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■バックブザーについて

シフトレバーを R に入れると、車両後部のバックブザーが鳴ります。
車幅灯を点灯しているときは鳴りません。

警告

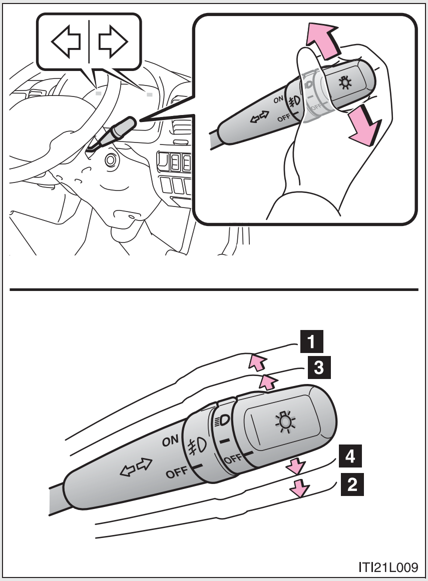
■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

■シフトレバーを助手席側に倒すときは

エンジン回転中はシフトレバーを倒さないでください。急発進など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

方向指示レバー



1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

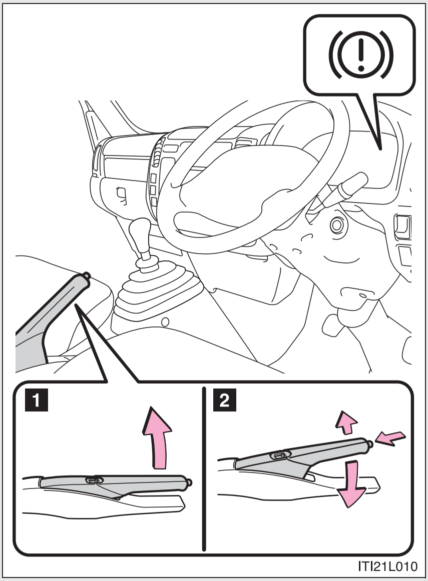
■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ



1 パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。

2 パーキングブレーキを解除する

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

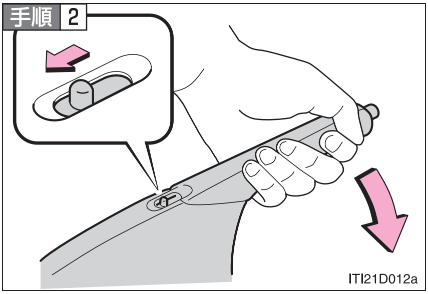
※イラストはセンターパーキングブレーキ車で代表しています。

可倒式パーキングブレーキレバー

パーキングブレーキがかかっている状態のまま、レバーを下げることができます。

■ レバーの下げ方

手順 1 パーキングブレーキをかける

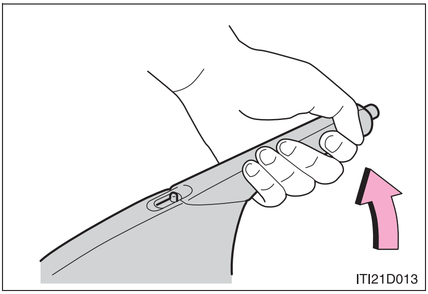


可倒ノブを操作してレバーを下げる

パーキングブレーキがかかった状態でレバーが下がっているときは、可倒ノブの赤色部分が見えます。このときパーキングブレーキは解除されていません。

エンジン スイッチが“ ON ”のときは、ブレーキ警告灯が点灯していることを確認してください。

■ もとにもどすときは



レバーを引き上げる

駐車したときに引き上げた位置まで、ボタンを押さずにレバーを引き上げます。このとき、赤色部分が見えないことを確認します。

エンジン スイッチが“ ON ”のときは、ブレーキ警告灯が点灯していることを確認してください。

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 286

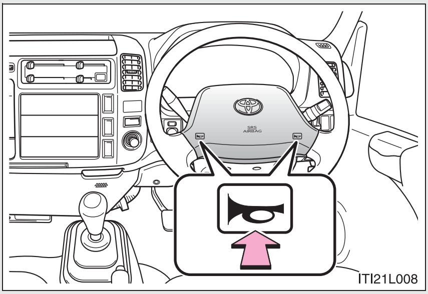
注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ホーンの鳴らし方



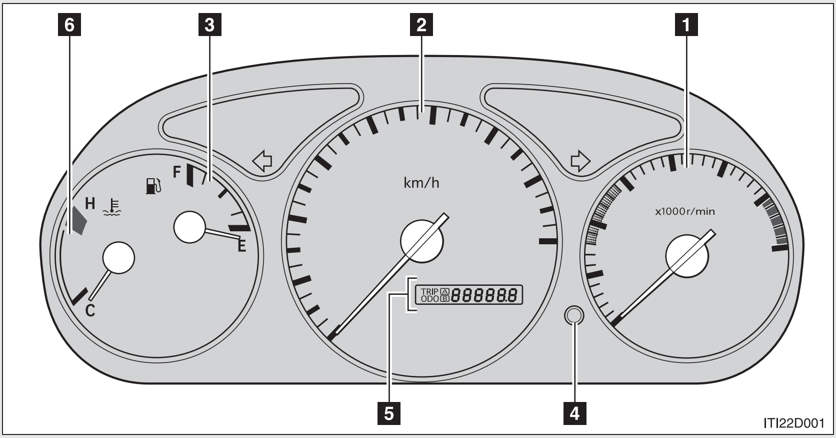
ハンドルの　周辺部を押す

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。（→P. 62）

計器類



※ タコメーターはエンジンの種類により異なります。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 オドメーター／トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットボタン

ボタンを押すごとに表示が切り替わります。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離が 0 にもどります。

5 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

6 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

⚠注意

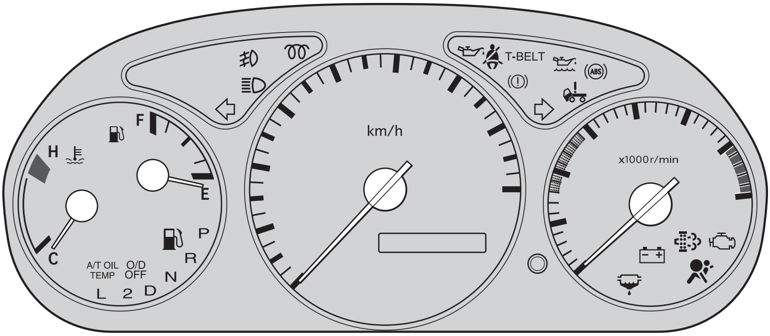
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 319）

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

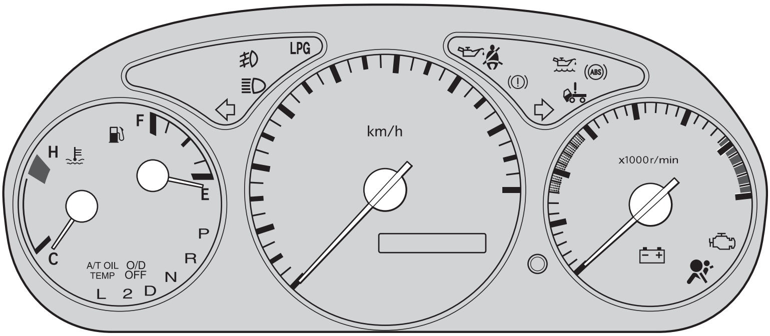
▶ メーター（ガソリン・ディーゼル車）



ITI22L008

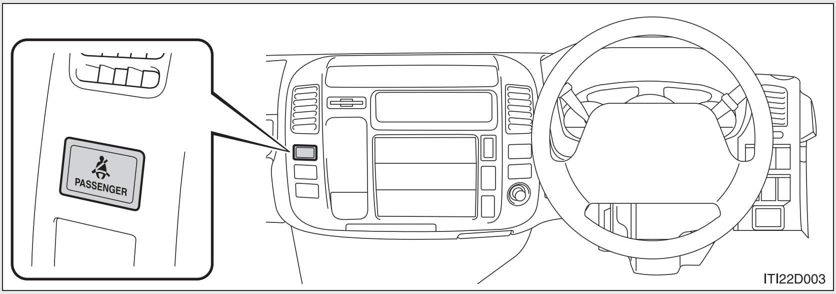
※ タコメーターはエンジンの種類により異なります。

▶ メーター（LPG 車）



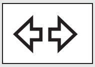
ITI22L004

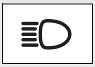
▶ センターパネル（助手席 SRS エアバッグ装着車）

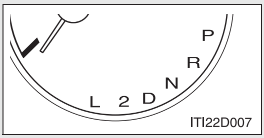


■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。


方向指示表示灯
（→P. 132）

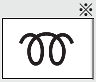

ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 142）



シフトポジション表示灯*
（→P. 127）


フォグライト
表示灯*（→P. 144）

O/D OFF
オーバードライブ OFF
表示灯*（→P. 128）

※

予熱表示灯*
（→P. 122,126）

※
LPG
LPG 表示灯*
（→P. 122,125,126）

※エンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯または点滅し、数秒後に消灯します。
点灯または点滅しない場合や点灯または点滅したままのときは、システム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

オーバードライブ OFF 表示灯が点滅したときは、オートマチックトランスミッションの異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 286)



※作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯または点滅したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・チルトロック警告灯が点灯したままのときは、キャブが確実にロックされているか確認してください。(→P. 235)

・燃料・水分離器水位警告灯が点灯したままのときは、すみやかに排水してください。(→P. 273)

⚠ 警告

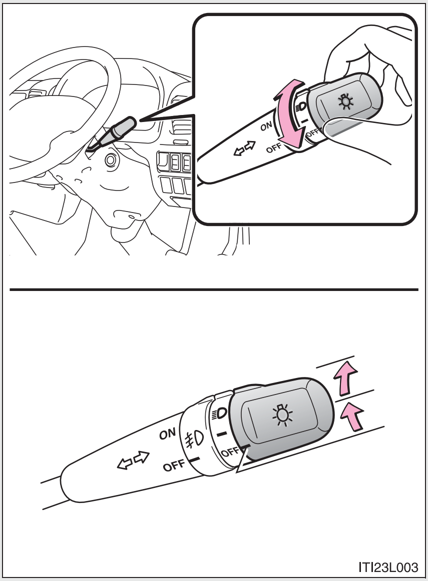
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS＊や SRS エアバッグ＊などの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

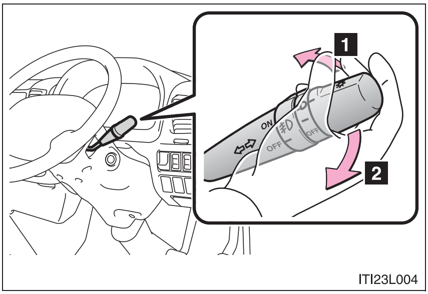
ヘッドライトなどを点灯できます。



 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

 上記ライトとヘッドライトを点灯

ハイビームにする



1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

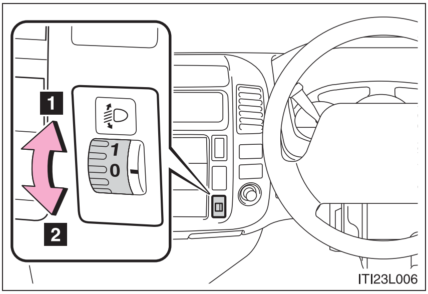
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員や荷物の積載状況	ダイヤル位置
運転者のみ乗車時	0
2、3名乗車時	0
2、3名乗車時でかつ最大積載時	2または3※
運転者のみ乗車時でかつ最大積載時	2または3※

※架装等により異なる場合があります。

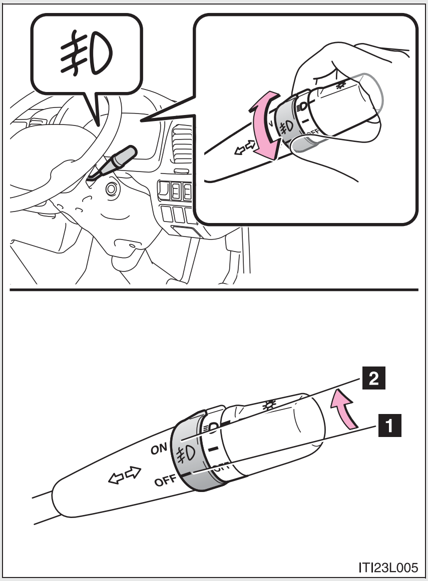
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。



1 消灯

2 フォグライト点灯

知識

■点灯条件

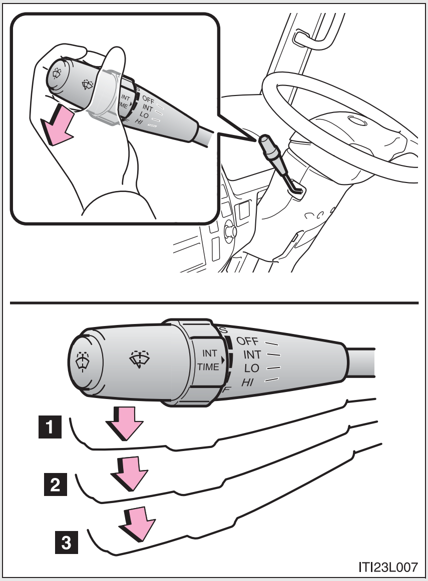
ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ワイパー & ウォッシャー

▶ 間欠時間調整式

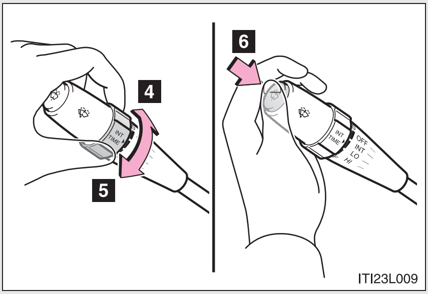
INT を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。



1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

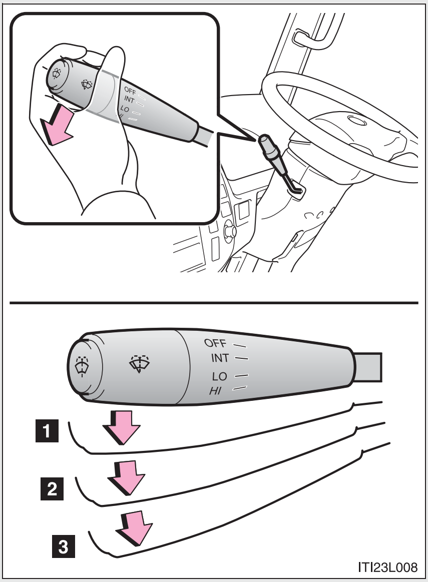


4 間欠ワイパーの作動頻度（減）

5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 ウォッシャー液を出す

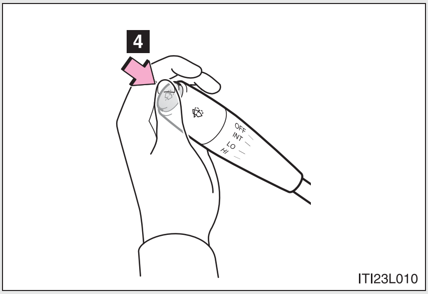
▶ 間欠式



1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）



4 ウォッシャー液を出す

知識

■作動条件

エンジン スイッチが " ON " のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、この装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

ABS＊（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

知識

■ABS の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、床下から作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ABS が作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ **ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ **タイヤを交換するときは**

各輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

排出ガス浄化装置（ディーゼル車）

排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

- 一般走行では数百 km ※走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。
- ススが規定量以上になったとき、スイッチ操作で燃焼処理を行うことができます。

※気候や走行状況等により異なります。

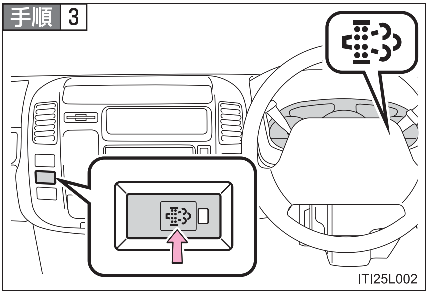
排出ガス浄化装置警告灯が点滅したときは

排出ガス浄化装置スイッチの作動表示灯とメーター内の （排出ガス浄化装置警告灯）が点滅したときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

手順 1 車を安全な場所に停車する

手順 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にする

エンジンは停止しないでください。
また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。
（→P. 153）



スイッチを押す

スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置警告灯が点滅から点灯にかわり、アイドリング回転数が上がります。

燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15 ～ 40 分※程度の時間が必要です。

排出ガス浄化装置警告灯が消灯して、アイドリング回転数がもとにもどれば終了です。

※外気温により異なります。

知識

■排出ガス浄化装置の特徴について

●排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドル回転数が上がる
- 従来のディーゼル車とは排気ガスの臭いが異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

●走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドルストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置警告灯が点滅する場合があります。

■燃焼処理について

●排出ガス浄化装置スイッチを押したあとは、オートマチック車はアクセルペダルを、マニュアル車はアクセルペダル・クラッチペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。

●走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

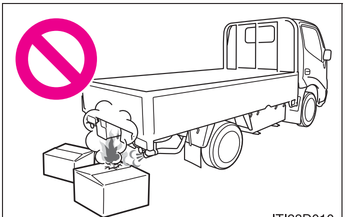
■エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→P. 327）

警告

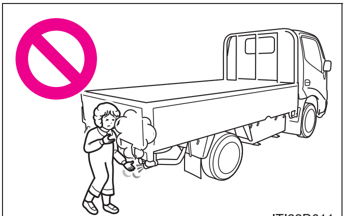
■ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害におよぶか、火災などが発生するおそれがあり危険です。



ITI23D010

●排気管周辺に燃えやすいものを置かない



ITI23D011

●排気管周辺に人がいないことを確認する

●車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼処理を行わない

●燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

注意

■**排出ガス浄化装置警告灯が点滅したときは**

- 点滅開始してから、約 50km 走行以内に排出ガス浄化装置スイッチを押して、燃焼処理をしてください。警告灯が点滅したまま走行を続けると、排出ガス浄化装置の故障につながります。
- 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯し、排出ガス浄化装置警告灯も点灯にかわります※。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※このときは、排出ガス浄化装置スイッチが機能しなくなります。

■**排出ガス浄化装置の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- 排出ガス浄化装置警告灯が点滅したまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがないか定期的に点検する
  異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- 荷物はできるだけ荷台または荷室に積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは（室内）

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席やリヤ席*（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■**荷物を積むときは（室外）**

キャブと荷台の間にものを置いたり、荷台とフレームの間に板などを挿し込まないでください。また、ロープやほろなどの先端がたれ下がらないように注意してください。
エンジンや排気管の熱により火災につながるおそれがあり危険です。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎない（過積載しない）でください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水※
・ ウォッシャー液
・ 燃料（ディーゼル・LPG 車）

※ LPG 車は必ず濃度 50%でご使用ください。

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤやタイヤチェーンを用意してください。

タイヤは各輪とも指定サイズ（→P. 232）で同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。

タイヤチェーンは後輪に取り付けてください。ダブルタイヤに取り付ける場合はダブルチェーンまたはトリプルチェーンを使用してください。

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントグリル部の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● エンジンアンダーカバー内に氷が付いているときは、走行前に取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R、上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締めなおしを行う

■ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。
寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以下にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

●使用限界温度の目安※
JIS2 号軽油：－ 5 ℃
JIS3 号軽油：－ 12 ℃
JIS 特 3 号軽油：－ 19 ℃

※環境や使用状況により異なります。

■LPG 車の燃料について

●LPG 車は外気温が低温になると燃料が十分に気化できず､始動性が悪くなる可能性があります。
寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分以下にしておき、現地に着いたらできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。

●寒冷地での始動性を確保するために、低温でも気化しやすいプロパン率（燃料のプロパン割合）の多い燃料を販売しています。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h を超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※輪止めが搭載されてない車両は、トヨタ販売店などでご購入ください。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

● トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

● ダブルタイヤにタイヤチェーンを取り付けるときは、車両外側のタイヤのみにシングルチェーンを取り付けないでください。チェーンが車体側にあたり走行に悪影響をおよぼします。

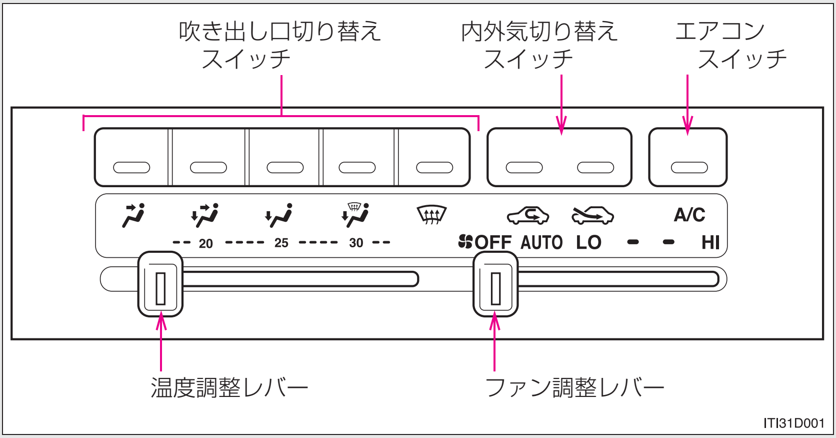
■**フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

オートエアコン*

設定温度にあわせて風量を自動で調整します。



オート設定を使うとき

手順 1 ファン調整レバーを AUTO の位置にする

風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは温度調整レバーを右に、下げるときは左に操作する

手順 3 

を押す

スイッチを押すたびにエアコン（冷房、除湿機能）の ON・OFF が切り替わります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ エアコン（冷房、除湿機能）の ON・OFF を切り替えるには



を押す

スイッチを押すたびにエアコン（冷房、除湿機能）の ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

温度調整レバーを右（暖）か左（冷）へ操作する

■ 風量をかえるには

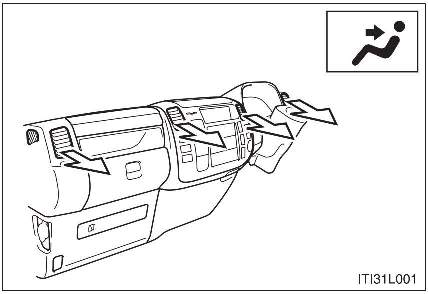
ファン調整レバーを右（増）か左（減）へ操作する

風量は 4 段階に調整できます。
送風を止めるときはレバーを OFF の位置にします。

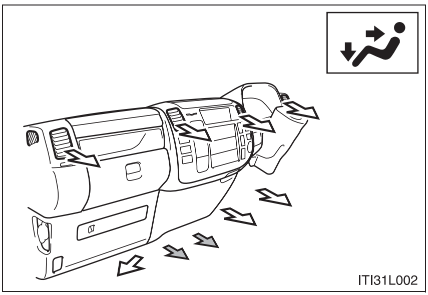
■ 吹き出し口を切り替えるには

吹き出し口切り替えスイッチを押す

希望する吹き出し口のスイッチを押してください。

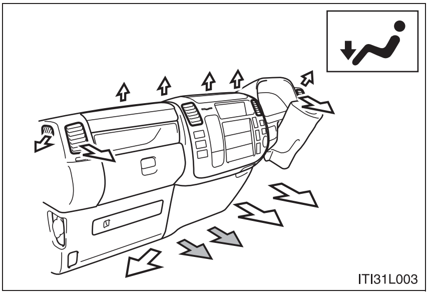


上半身に送風



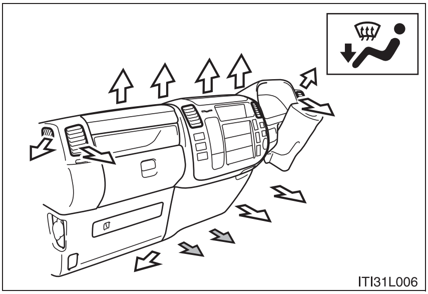
上半身と足元に送風


：一部車種のみ



ITI31L003

足元に送風

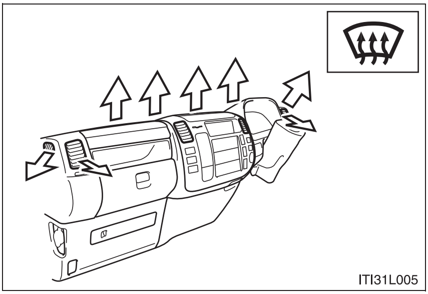


ITI31L006

足元に送風・ガラスの曇りを取る

：一部車種のみ

■ フロントガラスの曇りを取るには



ITI31L005

 を押す

内外気切り替えスイッチを押して  にします。

 を押すと曇りを取るのと同時に足元にも送風できます。

 を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

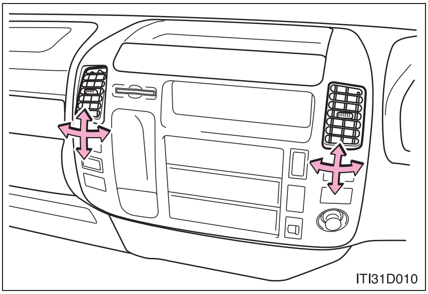
■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

内気循環にするには、スイッチを押して  にする

外気導入にするには、スイッチを押して  にする

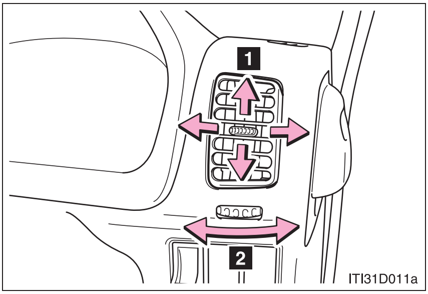
風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



風向きの調整

▶ 左右吹き出し口



1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような場合、オート設定のときしばらく送風を停止する制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

- 吹き出し口切り替えスイッチが  で冬季など寒いとき
- 吹き出し口切り替えスイッチが  以外で夏季など暑いとき

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき



を押してもエアコン（冷房、除湿機能）が作動しない場合があります。

■吹き出し口を  にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調整レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■PTC ヒーター*

- エンジン冷間時の暖房効果を高めます。ファン作動中は自動的に作動します。エンジンが温まると停止します。
- 温度調整レバーを最大暖房以外に設定しているときは作動しません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

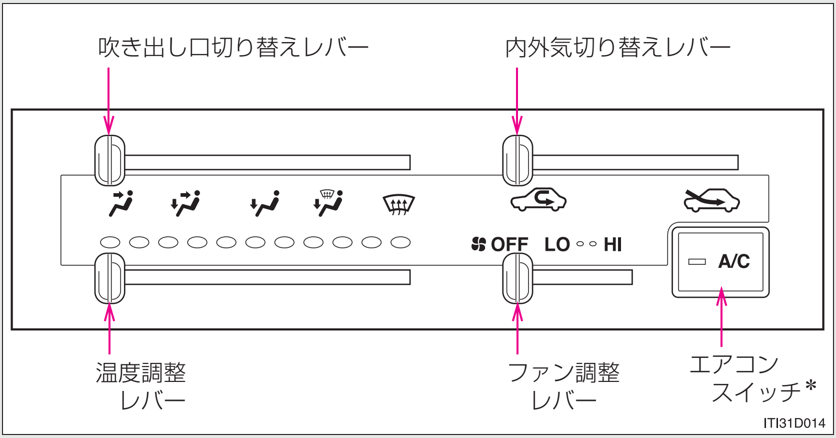
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えスイッチの  を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

マニュアルエアコン*



空調の設定

■ エアコン（冷房、除湿機能）の ON・OFF を切り替えるには（エアコンスイッチ装着車）



を押す

スイッチを押すたびにエアコン（冷房、除湿機能）の ON・OFF が切り替わります。
スイッチが押されていない場合は送風または暖房で使用できます。

■ 温度をかえるには

温度調整レバーを右（暖）か左（冷）へ操作する

■ 風量をかえるには

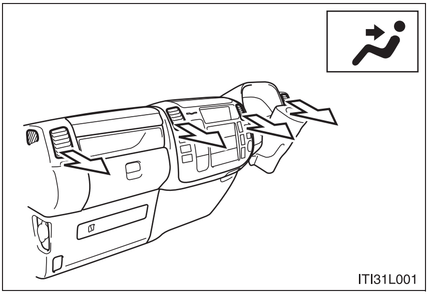
ファン調整レバーを右（増）か左（減）へ操作する

風量は 4 段階に調整できます。
送風を止めるときはレバーを OFF の位置にします。

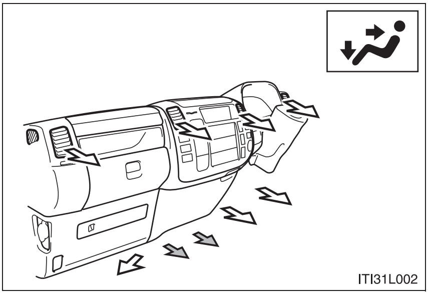
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■吹き出し口を切り替えるには

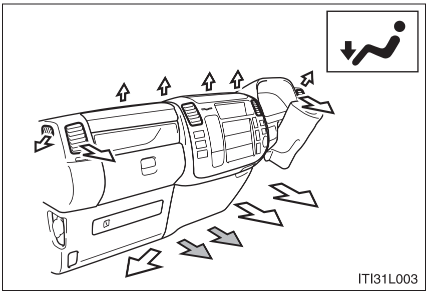
吹き出し口切り替えレバーを操作して吹き出し口を選ぶ



上半身に送風

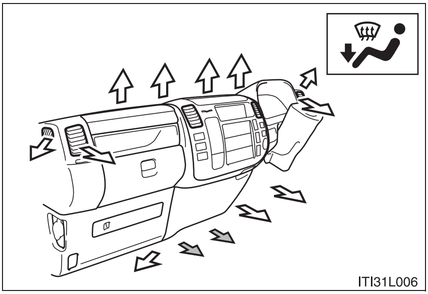


上半身と足元に送風



足元に送風

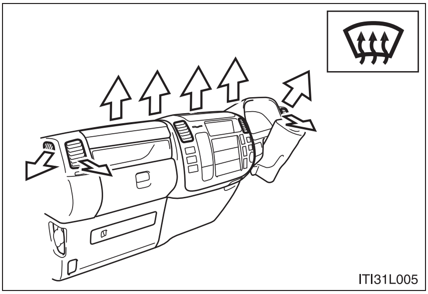
：一部車種のみ



足元に送風・ガラスの曇りを取る

：一部車種のみ

■ フロントガラスの曇りを取るには



吹き出し口切り替えレバーを の位置にして、内外気切り替えレバーを の位置にする

吹き出し口切り替えレバーを の位置にすると曇りを取るのと同時に足元にも送風できます。

エアコンスイッチ装着車は、 を押してエアコン（冷房、除湿）を ON にすると曇りが早く取れます。

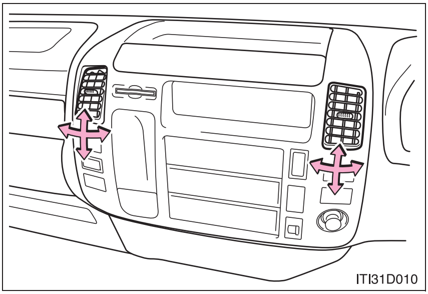
■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

内気循環にするには、切り替えレバーを の位置にする

外気導入にするには、切り替えレバーを の位置にする

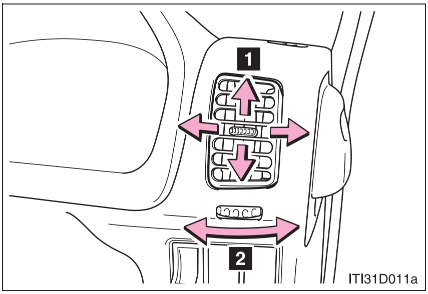
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口



風向きの調整

▶ 左右吹き出し口



1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

エアコンスイッチ装着車は A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調整レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■PTC ヒーター*

- エンジン冷間時の暖房効果を高めます。ファン作動中は自動的に作動します。エンジンが温まると停止します。
- 温度調整レバーを最大暖房以外で設定しているときは作動しません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えレバーを  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

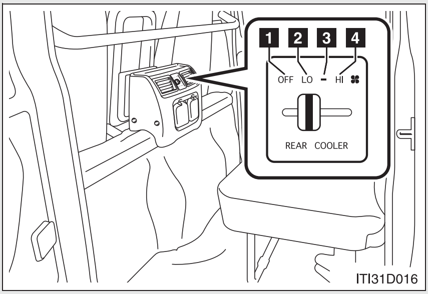
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

リヤクーラー＊

フロントエアコンが OFF のときは、冷房・除湿機能は作動せず送風のみとなります。



1 OFF
2 LO（微風）
3 ー（弱風）
4 HI（強風）

知識

■バッテリー保護のために

ミラーヒーター＊作動中にリヤクーラーを HI（強風）の位置で使用すると、バッテリー保護のため風量が自動的に弱くなります。

注意

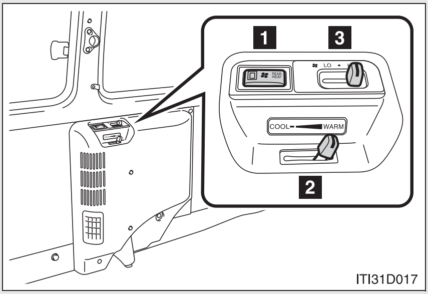
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤクーラーを使用しないでください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

リヤヒーター＊

▶ ルートバン 3/6 人乗り



1 ON/OFF スイッチ

・押すごとにヒーターが作動・停止します。
・フロントスイッチで作動・停止することもできます。（→P. 21）

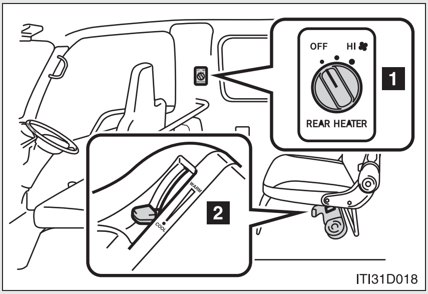
2 温度調整レバー

COOL（低温）、WARM（高温）の間で調整します。

3 ファン調整レバー

3 段階で調整します。

▶ ダブルキャブ



1 ファンスイッチ

OFF の位置から右にまわすとヒーターが作動し、風量を 2 段階に調整できます。

2 温度調整レバー

COOL（低温）、WARM（高温）の間で調整します。

⚠ 注意

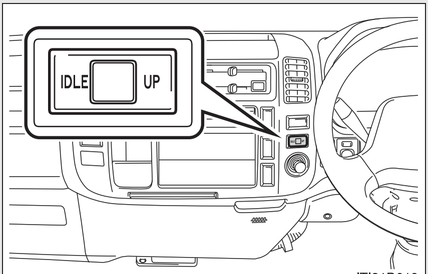
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

アイドルアップスイッチ*

エンジンが冷えているとき、アイドル回転を上げ、暖房効果を高めます。



ITI31D019

ON ／ OFF

エンジン スイッチを“ ACC ”にすると作動が停止します。

ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

知識

■作動条件

●停車中でエンジンがかかっているとき

●シフトレバーが、オートマチック車はPまたはN、マニュアル車はNの位置にあるとき

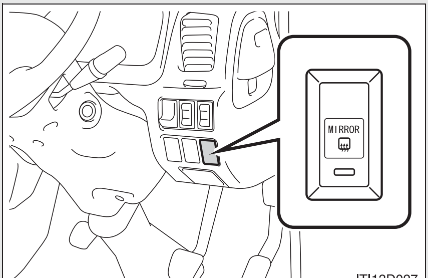
■エンジンが暖まっているときは

アイドルアップスイッチを ON にしても、コンピューターがアイドルアップの必要がないと判断し、作動しない場合があります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ミラーヒーター*

ミラーが曇ったときは、ミラーヒーターを作動させて曇りを取ることができます。



ITI13D027

ON ／ OFF

ON のときはスイッチの作動表示灯が点灯します。

警告

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

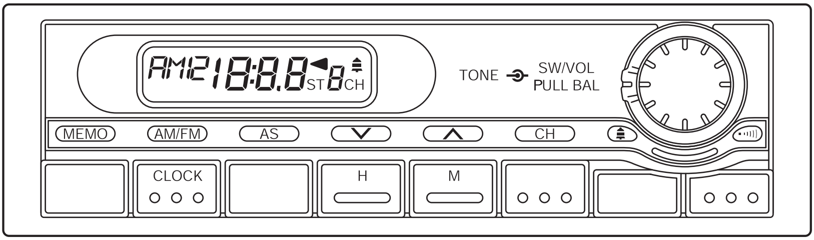
■バッテリーあがりを防ぐために

曇りが取れたら必ずスイッチを OFF にしてください。
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

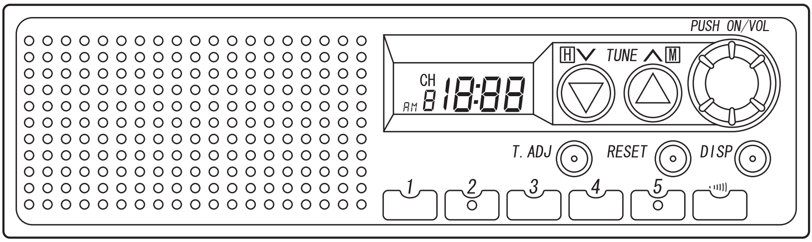
オーディオ＊の種類

▶ AM ／ FM ラジオ



ITI32L005

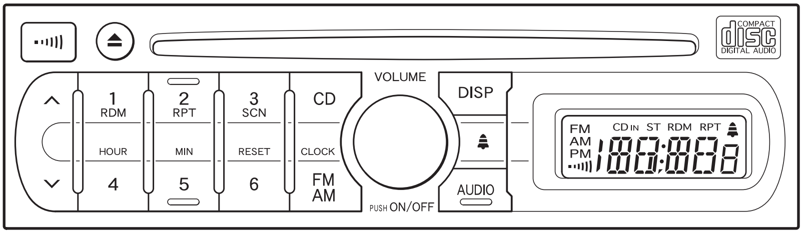
▶ AM ラジオ



ITI32D004

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ



ITI32L008

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 183
CD プレーヤーの使い方 （CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ）	P. 188
時計の使い方	P. 193
快適に聞くために	P. 200

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

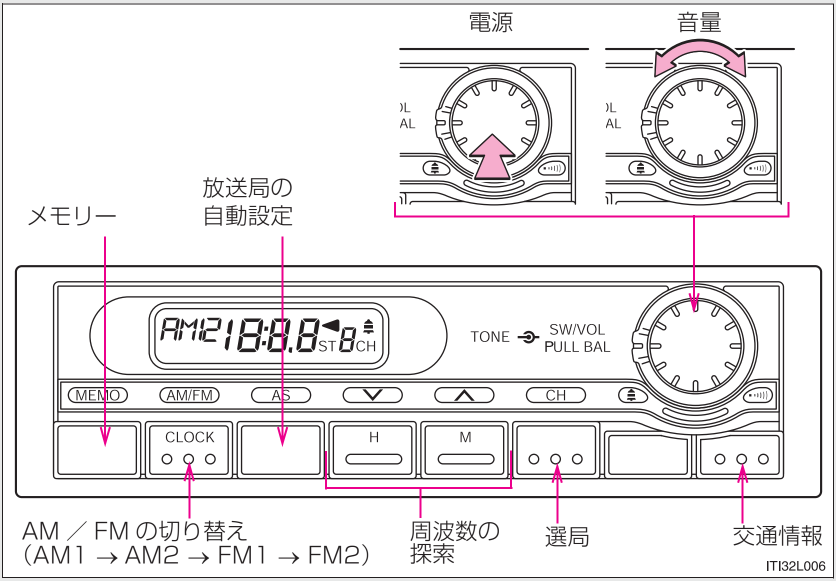
エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

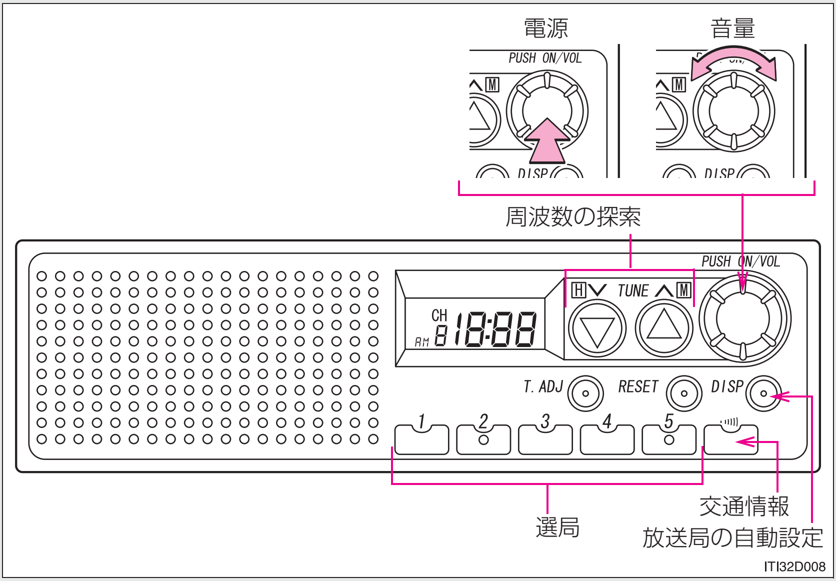
オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

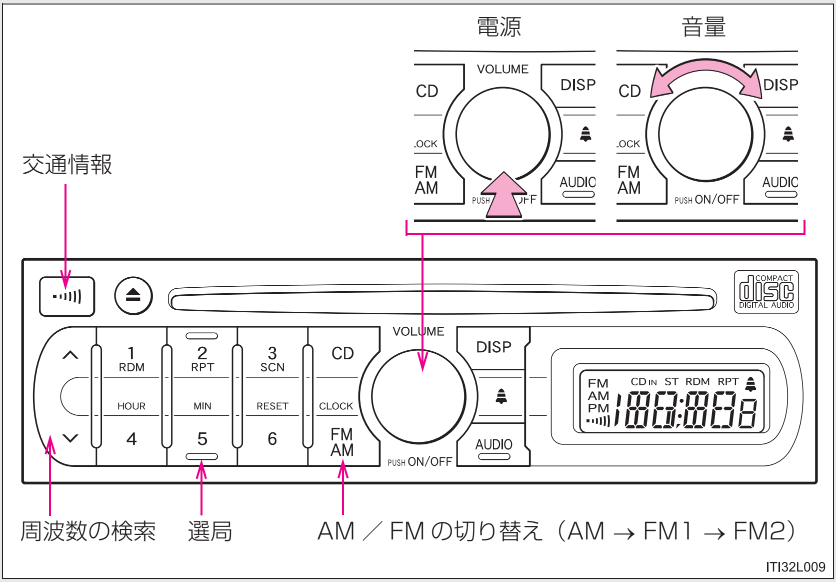
▶ AM ／ FM ラジオ



▶ AM ラジオ



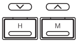
▶ CD プレーヤー & AM ／ FM ラジオ



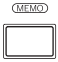
放送局を記憶させる

■ 手動設定

▶ AM ／ FM ラジオ

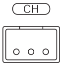
手順 1 

の "Λ"（高い周波数）または "V"（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

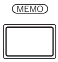
手順 2 

を押してチャンネル書き込みモードにする

表示部の「CH」が点滅します。

手順 3 

を押して記憶させたいチャンネルを選択する

手順 4 

を押す

▶ AM ラジオ

手順 1 

の "Λ"（高い周波数）または "V"（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

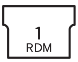
手順 2 記憶させたい 

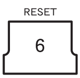
～ 

を押し続ける

▶ CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ

手順 1 
の "Λ"（高い周波数）または "V"（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

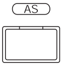
手順 2 記憶させたい 

～ 

を押し続ける

■ 自動設定

▶ AM ／ FM ラジオ



を押し続ける

受信感度の良い周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。

▶ AM ラジオ

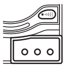


を押し続ける

受信感度の良い周波数が低い順に 5 局まで記憶されます。

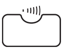
交通情報を受信する

▶ AM ／ FM ラジオ

 を押す

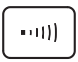
もう一度押すと、解除されます。

▶ AM ラジオ

 を押す

もう一度押すと、解除されます。

▶ CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ

 を押す

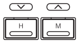
もう一度押すと、解除されます。

知識

■交通情報について

●新車時には、1620kHz にセットしてあります。

●交通情報を受信している状態で､次の場合は 1620kHz と 1629kHz を切り替えることができます。

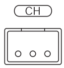
・ＡＭ／ＦＭラジオで  を操作したとき

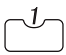
・ＡＭラジオで 

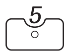
を操作したとき

・CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオで  を操作したとき

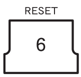
■バッテリーとの接続が断たれたときは

ＡＭ／ＦＭラジオは 

、ＡＭラジオは 

～ 

、CD プレーヤー&AM ／ FM ラジオは 

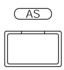
～ 

に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。

●次の場合、状況によっては自動選局や自動記憶ができないことがあります。

・ＡＭ／ＦＭラジオで 

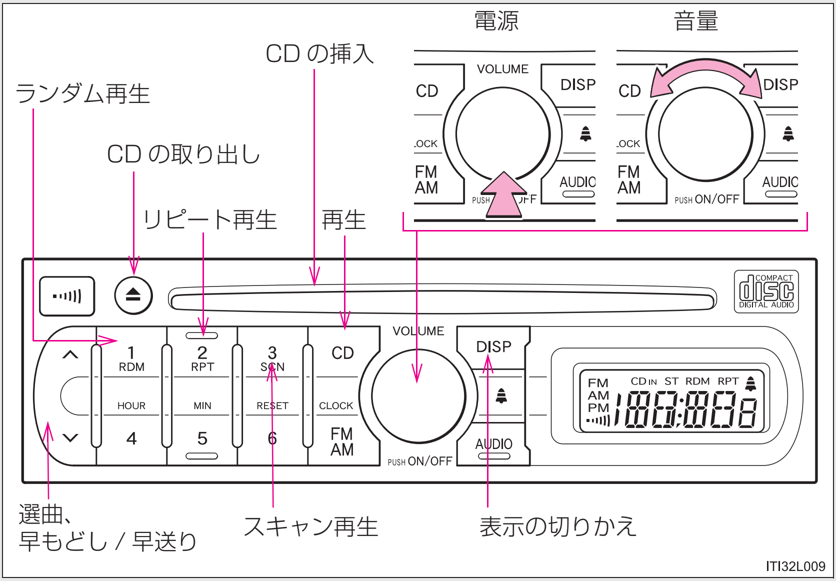
を使っているとき

・ＡＭラジオで 

を使っているとき

●ラジオ用アンテナは運転席側にあります。アンテナは格納することができます。
ラジオ受信時はいっぱいまで引き出して使用してください。

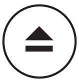
CD プレーヤーの使い方（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）



CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

 を押して CD を取り出す

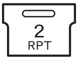
曲を選ぶ

 の “ ∧ ”（次曲）側、または “ V ”（前曲）側を押して、聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし・早送りする

の“ ∧ ”（早送り）側、または“ ∨ ”（早もどし）側を押し続ける

リピート（RPT）再生する



（RPT）を押す

ランダム（RDM）再生する



（RDM）を押す

スキャン（SCN）再生する



（SCN）を押す

表示を切りかえる



を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

現在時刻　→　トラック番号　→　再生時間

知識

■表示について

時刻表示以外を選択した場合、5 秒以上操作しないまま放置すると時計表示に戻ります。ただし、スキャン再生中は現在の表示が保持されます。

■ランダム再生・リピート再生・スキャン再生の解除

もう一度 [1 RDM]（RDM）、[2 RPT]（RPT）、[3 SCN]（SCN）を押します。

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性･傷･汚れ･劣化により再生できないことがあります。

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

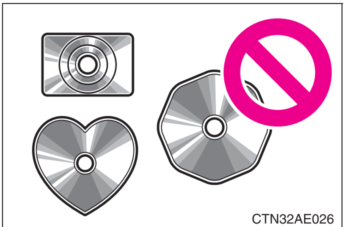
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

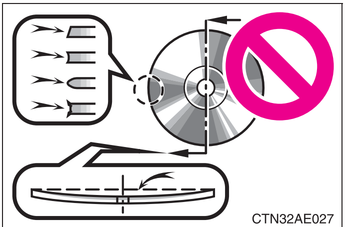
■使用できない CD・アダプター

次のような CD・8cmCD アダプター・DualDisc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。



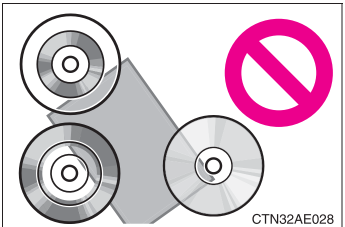
CTN32AE026

●直径12cm または8cmの円形以外のCD



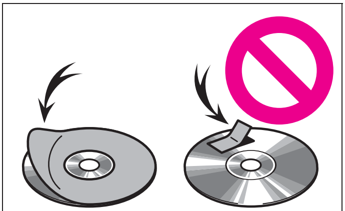
CTN32AE027

●低品質または変形している CD



CTN32AE028

●記録部分が透明または半透明の CD



CTN32AE029

●セロハンテープ・シール・CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

注意

■**CD プレーヤーの取り扱いについて**

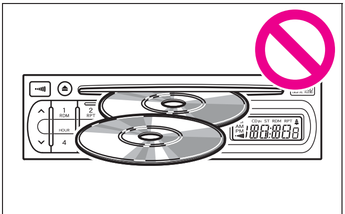
次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

●CD 挿入口に CD 以外のものを入れない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

●CD は直射日光を避けて保管する

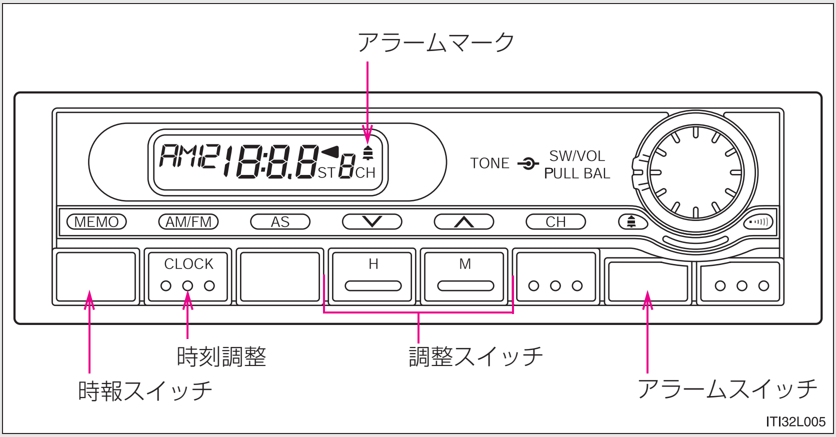
●CD プレーヤーを分解しない


ITI32L010

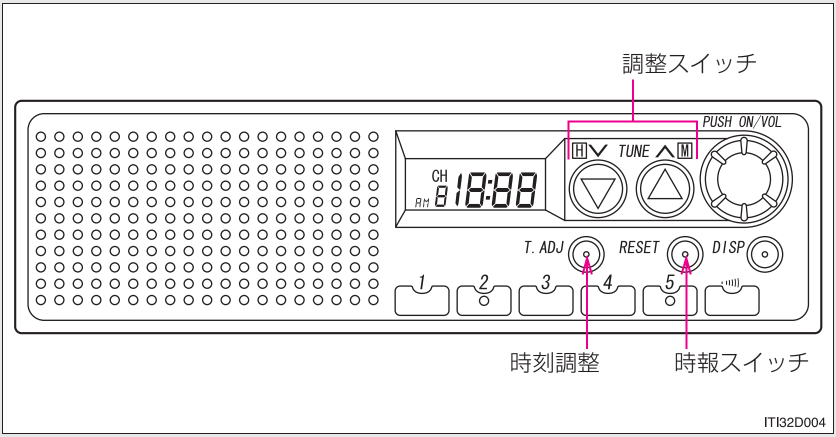
●一度に2枚以上の CD を挿入しない

時計の使い方

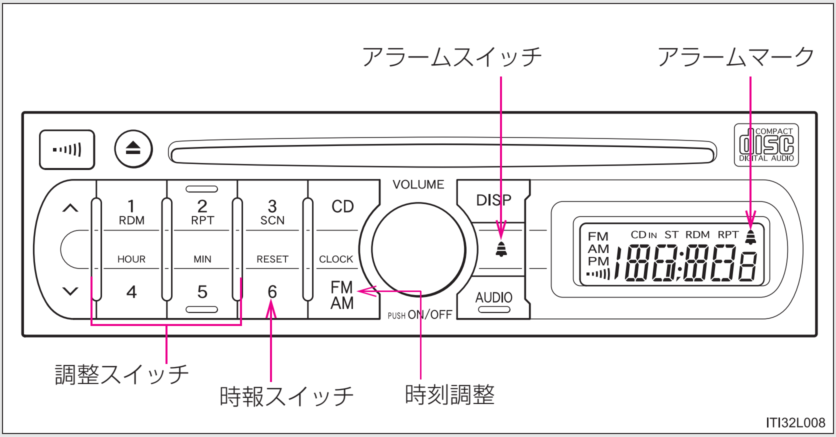
▶ AM ／ FM ラジオ



▶ AM ラジオ



▶CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ



時刻を調整するときは

■ 現在時刻の調整

▶ AM ／ FM ラジオ

CLOCK を押し続けて時刻調整モードにしてから、H M を押して調整する

H を押すと「時」、M を押すと「分」を調整できます。

CLOCK を押すと設定終了します。

▶ AM ラジオ

T. ADJ を押したまま、H TUNE M を押して調整する

▽ を押すと「時」、△ を押すと「分」を調整できます。

▶ CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ

CLOCK FM AM を押し続けて時刻調整モードにしてから、HOUR 4 MIN 5 を押して調整する

HOUR 4 を押すと「時」、MIN 5 を押すと「分」を調整できます。

CLOCK FM AM を押すと設定終了します。

■ 時報に合わせるには※

▶ AM ／ FM ラジオ

[CLOCK] を押し続けて時刻調整モードにしてから、[MEMO] を押す

[CLOCK] を押すと設定終了します。

▶ AM ラジオ

RESET を押す

▶ CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ

[CLOCK FM AM] を押し続けて時刻調整モードにしてから、[RESET 6] を押す

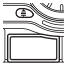
[CLOCK FM AM] を押すと設定終了します。

※ 0 ～ 29 分は切り下げ、30 ～ 59 分は切り上げられます。

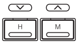
アラーム機能（AM ラジオを除く）

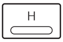
■ アラーム時刻の設定をする

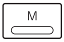
▶ AM ／ FM ラジオ

手順 1  を押し続ける

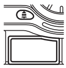
アラームマークが点滅し、アラーム時刻あわせモードになります。

手順 2  を押して、設定時刻を設定する



を押すと「時」、

を押すと「分」を調整できます。

手順 3 設定が終わったら  を押す

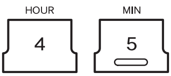
アラーム時刻が設定され、アラームがセットされます。

▶ CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ

手順 1  を押す

手順 2 

を押し続ける

手順 3 

を押して、設定時刻を設定する



を押すと「時」、

を押すと「分」を調整できます。

手順 4 設定が終わったら 

を押す

アラーム時刻が設定され、アラームがセットされます。

■ アラームをセットするには

▶ AM ／ FM ラジオ

 を押す

アラームマークが点灯します。

▶ CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ

 を押し続ける

アラームマークが点灯します。

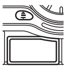
■ アラームブザーを止めるには

オーディオのいずれかのスイッチを押す

アラームブザーは約 3 分間鳴り続けます。

■ アラームを解除するには

▶ AM ／ FM ラジオ

 を押す

アラームマークが消灯します。

▶ CD プレーヤー &AM ／ FM ラジオ

 を押し続ける

アラームマークが消灯します。

知識

■時間の表示について

12 時間表示ですので午前(AM)と午後(FM)を間違えないようにしてください。

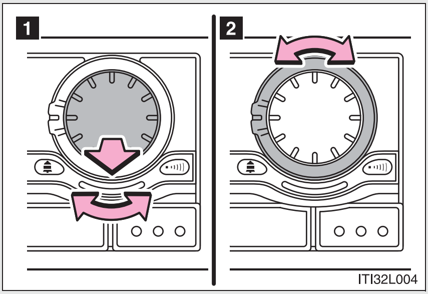
■アラームについて

●アラームマークが点灯していないとアラームのブザーは鳴りません。

●アラームは一度セットすると毎日同時刻にブザーが鳴ります。

快適に聞くために

▶ AM ／ FM ラジオ



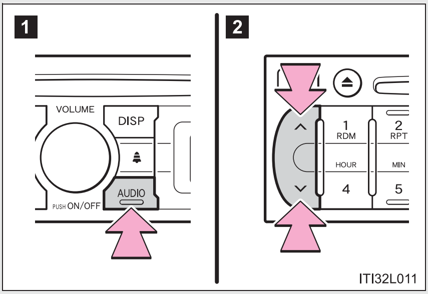
1 ツマミを手前にひいてから、左右にまわす

左側にまわすと助手席側、右側にまわすと運転席側のスピーカーの音量が大きくなります。

2 ダイヤルを左右にまわす

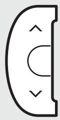
左側にまわすと低音が強調され、右側にまわすと高音が強調されます。

▶ CD プレーヤー ＆ AM ／ FM ラジオ



1 

を押して、調整したいモードを表示させる

2  を押して、音質と音量バランスの設定を変更する（→P. 201）

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには（CD プレーヤー ＆ AM ／ FM ラジオ）

■ 調整モードの切りかえ



を押すごとに、次のように切りかわります。

BAS → TRE → FAD → BAL

■ 音質・音量バランスの調整


を押して、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	∨ 側	∧ 側
低音	BAS	－５～５	弱	強
高音	TRE	－５～５		
前後音量バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

知識

■前後音量バランスについて（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

2 スピーカー車では、後側最大にすると音が出なくなります。

■スピーカー出力の切り替えについて（CD プレーヤー& AM ／ FM ラジオ）

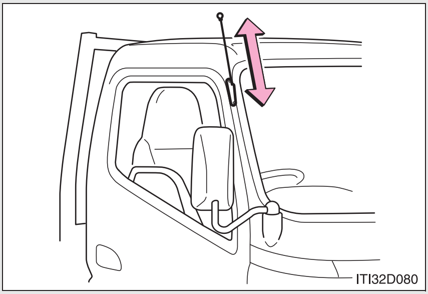
AUDIO と 2 RPT を同時に押すごとに、スピーカー出力が次のように切り替わります。

前後スピーカー（4CH）→ 前スピーカーのみ（2CH）

初期設定は前後スピーカー（4CH）となっており、前スピーカーのみ（2CH）のときは前後音量バランスの調整ができません。

アンテナ*

運転席側にあります。



ラジオ受信時は、いっぱいまで引き出して使用してください。

⚠ 注意

■アンテナの損傷を防ぐために

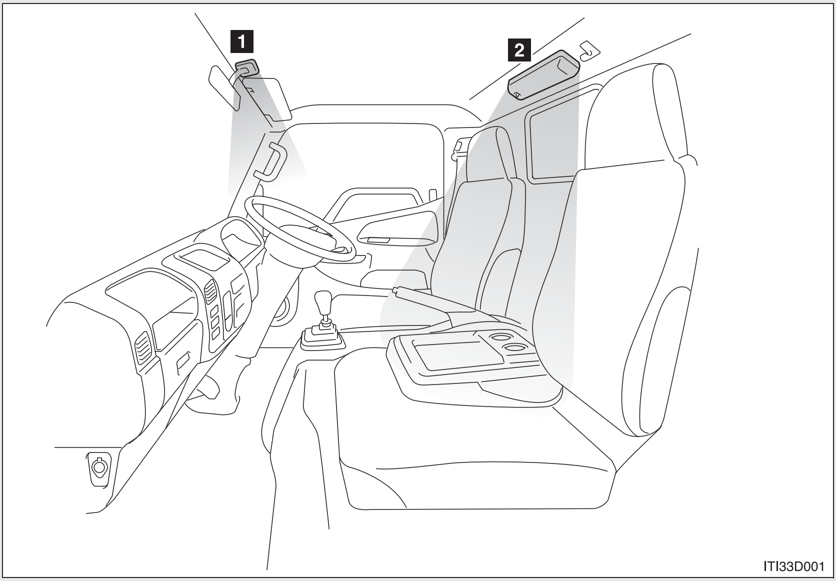
以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機にかけるとき

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

▶ フロント※

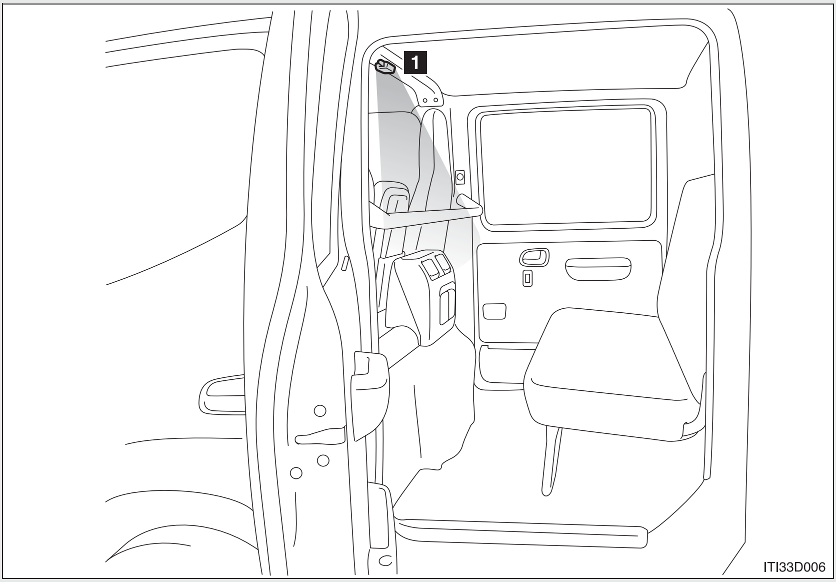


1 フロントルームライト（→P. 205）
2 室内蛍光灯（シングルキャブ）＊（→P. 207）

※イラストはシングルキャブで代表しています。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

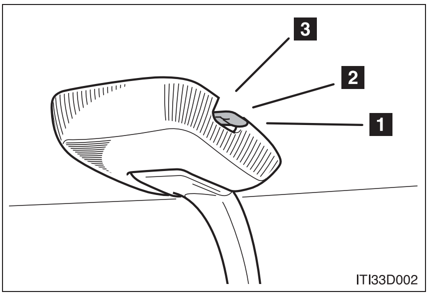
▶ リヤ（ダブルキャブ、ルートバン）※



1 リヤルームライト（→P. 206）

※イラストはダブルキャブで代表しています。

フロントルームライト

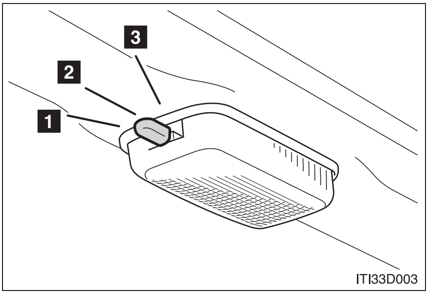


1 ON（点灯）

2 OFF

3 DOOR（ドア連動）

リヤルームライト（ダブルキャブ、ルートバン）



1 ON（点灯）

2 OFF

3 DOOR（ドア連動）

知識

■フロントルームライトについて

▶ シングルキャブ、ダブルキャブ

DOOR の位置にしておくと、運転席ドアの開閉に連動して点灯・消灯します。（ワイヤレスリモコン装着車は助手席ドアの開閉にも連動します）

▶ ルートバン

DOOR の位置にしておくと、運転席ドア・助手席ドアの開閉に連動して点灯・消灯します。

■リヤルームライトについて

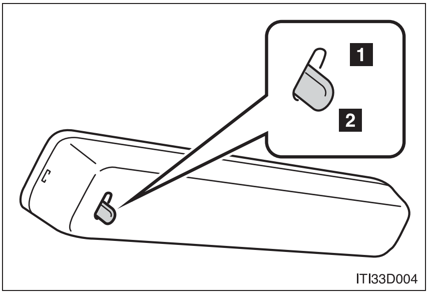
▶ ダブルキャブ

DOOR の位置にしておくと、運転席ドアの開閉に連動して点灯・消灯します。（ワイヤレスリモコン装着車は助手席ドアの開閉にも連動します）

▶ ルートバン

DOOR の位置にしておくと、スライドドア・バックドアの開閉に連動して点灯・消灯します。

室内蛍光灯*



1 ON（点灯）
2 OFF

警告

■蛍光灯を交換するときは

スイッチを OFF にしてから行ってください。
室内蛍光灯内の基板にふれると、感電など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

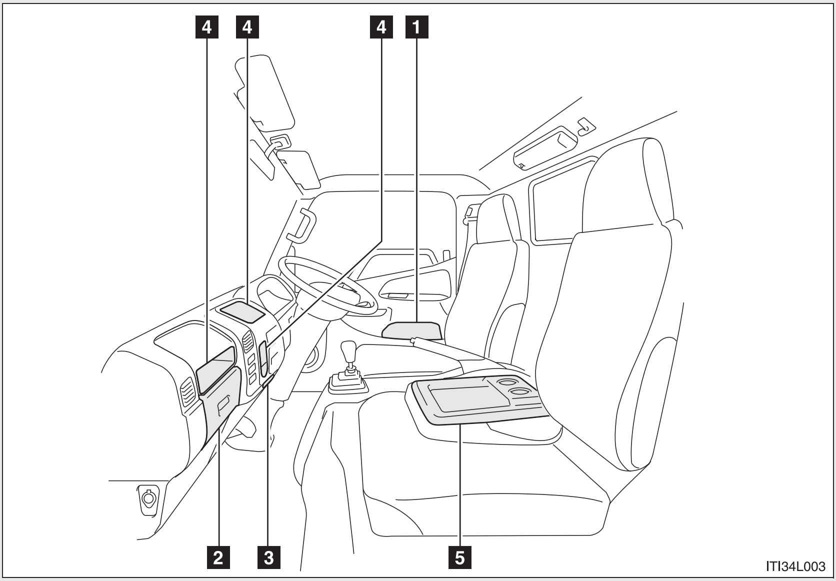
■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止時は長時間点灯しないでください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

▶ フロント※



1 ドアポケット

2 グローブボックス

3 カップホルダー

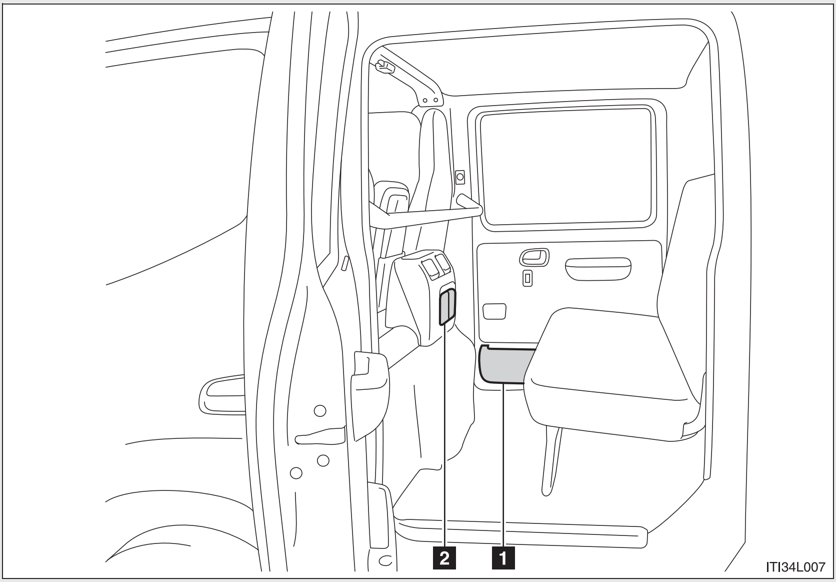
4 オープントレイ

5 シートバックトレイ＊

※イラストはシングルキャブで代表しています。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ リヤ（ダブルキャブ）



1 ドアポケット*
2 カップホルダー*

⚠ 警告

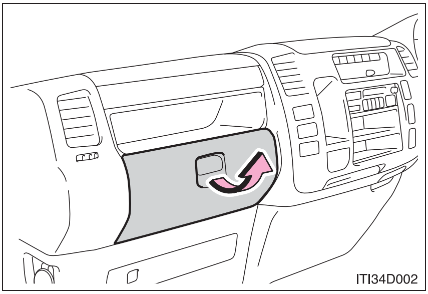
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

グローブボックス



レバーを引き上げる

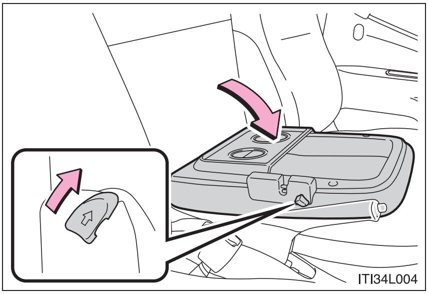
警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに開いたグローブボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

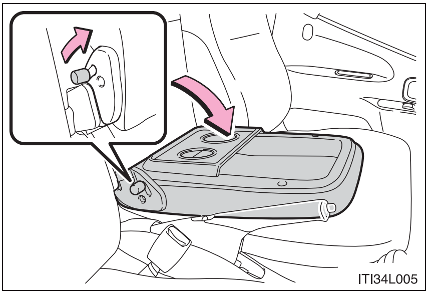
シートバックトレイ＊

▶ シングルキャブ



センターシートを前に倒す
(→P. 49)

▶ ダブルキャブ



警告

■走行前、走行中の警告

走行前にセンターシートが固定されていることを確認してください。また、走行中に操作しないでください。
急ブレーキ時などに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

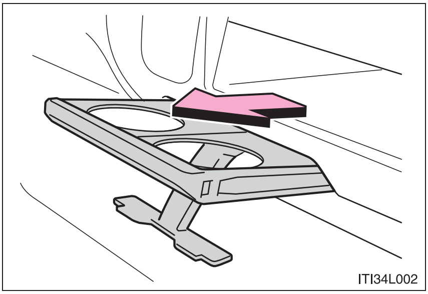
■シートバックトレイの損傷を防ぐために

トレイの上に乗ったり、過度の負荷をかけないでください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

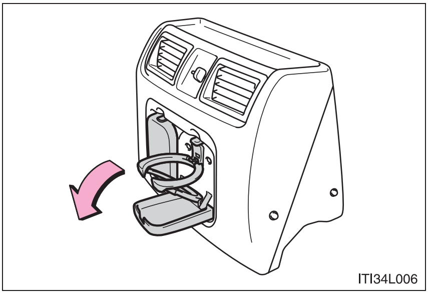
カップホルダー

▶ フロント



カップホルダーを引き出す

▶ リヤ*



ボタンを押してカップホルダーを展開する

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

カップホルダーを収納してください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体があたったり、中のものが飛び出したりして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

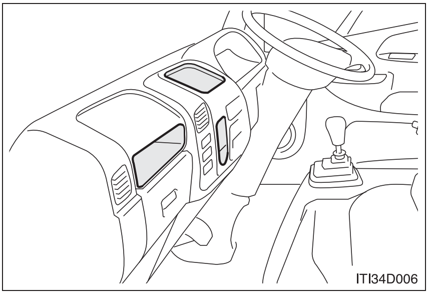
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

注意

■カップホルダーの破損を防ぐために

カップホルダーに手をついたり、足で踏むなど過度の負荷をかけないでください。

オープントレイ



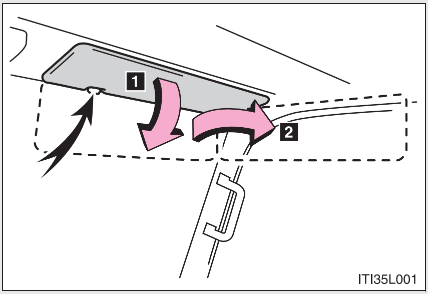
インストルメントパネルにあります。

警告

■走行中の警告

オープントレイには転がりやすいものや、高さのあるものを収納しないでください。
急ブレーキ時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

サンバイザー

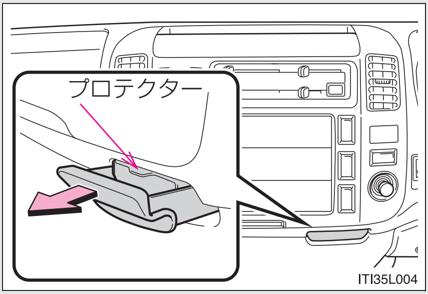


1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

灰皿＊

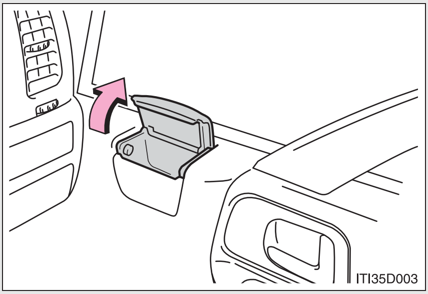
▶ フロント中央



引き出す

取りはずすときは、プロテクターを下へ押したまま引き出します。

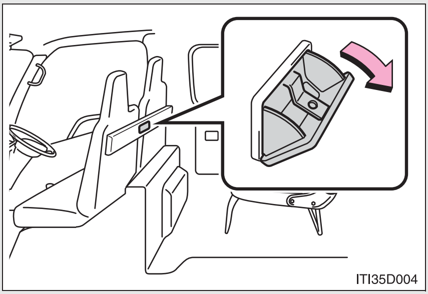
▶ フロントドア



フタを引き上げる

取りはずすときは、フタを持って上に引き上げます。

▶ リヤ中央

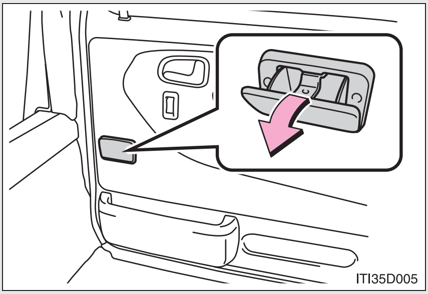


フタを手前に引いて開ける

取りはずすときは、金具を押さえて取りはずします。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ リヤドア



フタを手前に引く

取りはずすときは、金具を押さえて取りはずします。

⚠ 警告

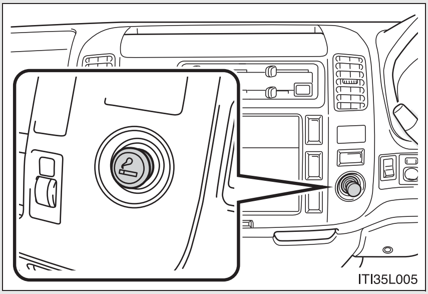
■使用後について

フタを必ず閉じてください。急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター



シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

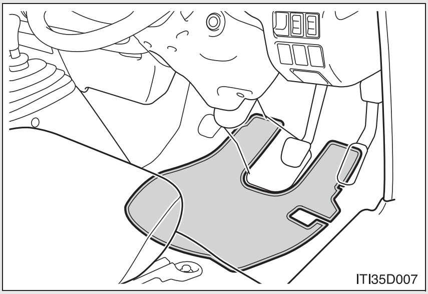
警告

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを挿し込まないでください。ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

フロアマット

お車（年式）専用のものをお使いください。



フロアマットと各ペダルが干渉しないように敷いてください。

詳しくはフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

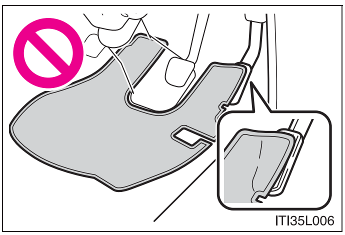
⚠ 警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

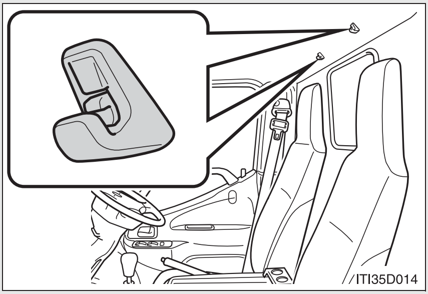
■運転する前に



- フロアマットが正しい位置に敷かれていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが　P（オートマチック車）または N（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

コートフック＊

天井にはコートフックがついています。



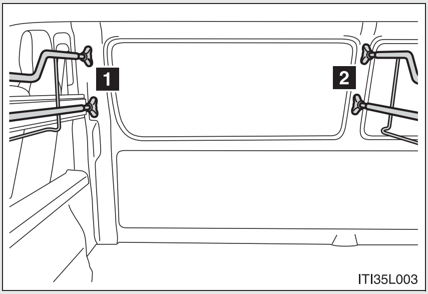
注意

■破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

移動式セパレーターバー＊

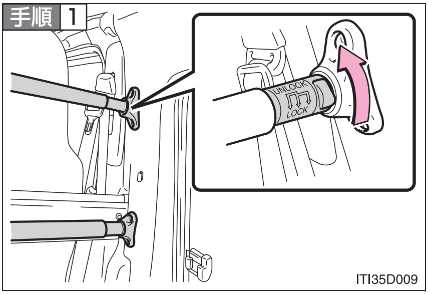


1 荷室前方取り付け位置

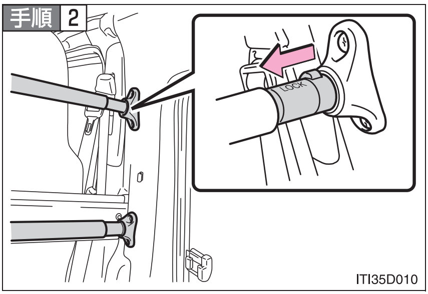
2 荷室後方取り付け位置

取りはずし、取り付けのしかた

■取りはずし方

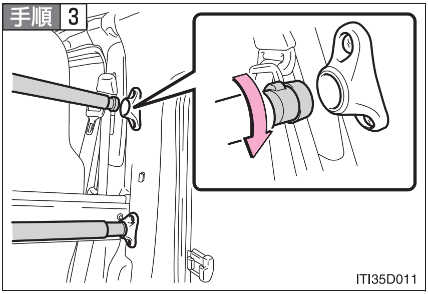


ツマミを UNLOCK 側にまわす



内側に根元まで押し込む

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備



LOCK 側にまわす

手順 4 残りの可動部についても 手順 1 ～ 手順 3 の操作を行い、バーをはずす

■取り付け方

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■セパレーターバーについて

通常はセパレーターバーを荷室前方取り付け位置で使用してください。また、取りはずしたまま走行しないでください。取りはずしたまま走行すると、違法改造になります。

■車検について

セパレーターバーを紛失すると車検を受けることができなくなります。

⚠警告

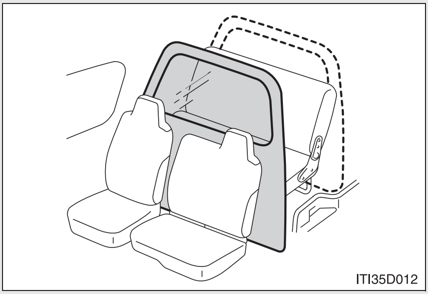
■セパレーターバーを取り付けたあとは

確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、走行中にセパレーターバーがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

セパレーターカーテン*

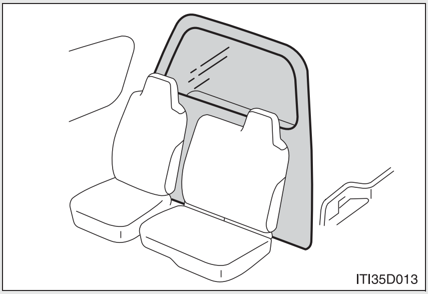
荷室を仕切り、冷暖房効果を高めます。

▶ フロント・リヤ移動式



セパレーターバー*の移動に合わせてカーテンも移動できます。

▶ フロント固定式



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

お手入れのしかた 4

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）にワックスをかけます。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- 給油口または補給口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- 洗車する前に、ミラー、アンテナ*を格納してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。また、車両の給油口または補給口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。
近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。また、LPG 車は LPG タンク周りの電磁弁に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。ディーゼル車は特に高温になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

■塗装の損傷をさけるために

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ライトを損傷するおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施してください。

車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

知識

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 56)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグ*の構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P. 89)
  電気的不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

*:グレードなどで異なる装備やオプション装備

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■フロアに水がかかると

フロアを水で洗わないでください。
オーディオ＊やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

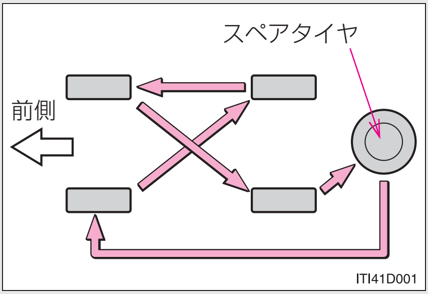
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

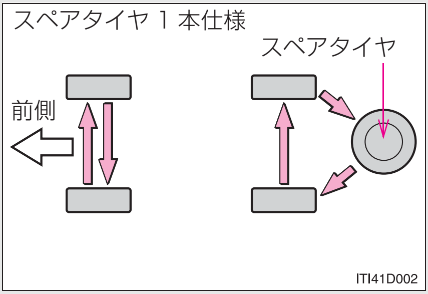
図のようにタイヤをローテーションしてください。

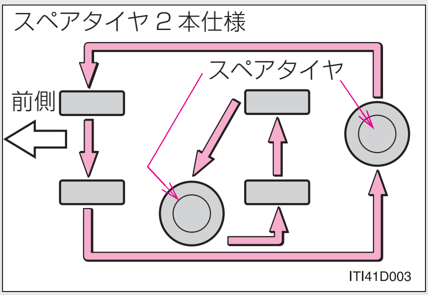
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

▶ シングルタイヤ（前後タイヤサイズが同じ車種）

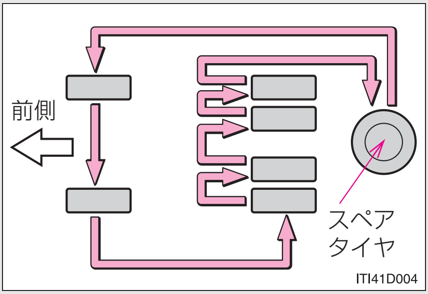


▶ シングルタイヤ（前後タイヤサイズが異なる車種）

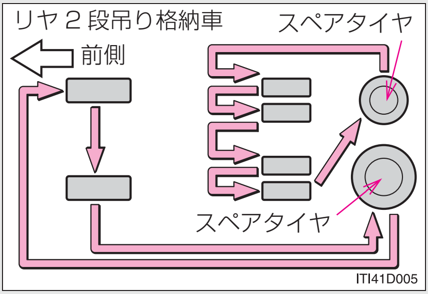


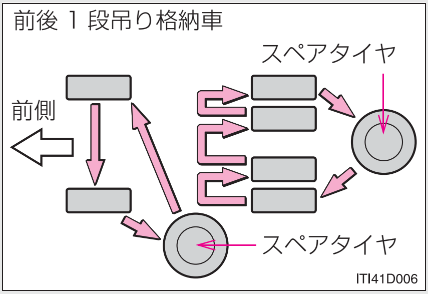


▶ ダブルタイヤ（前後タイヤサイズが同じ車種）



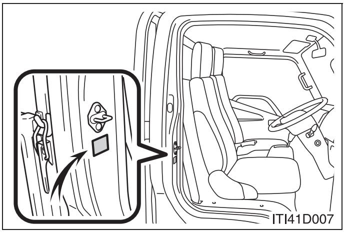
▶ ダブルタイヤ（前後タイヤサイズが異なる車種）





知識

■タイヤ空気圧の数値



タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

■タイヤローテーションをしたときは

約 1,000km 走行したあとに、再度ホイール取り付けナットおよびストップボルト（リヤダブルタイヤ車）を締め付け、ゆるみがないことを確認してください。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナット・ストップボルト（リヤダブルタイヤ車）を交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

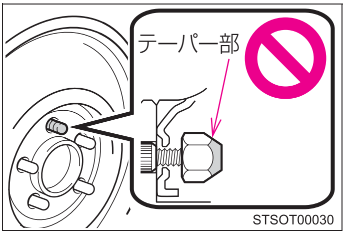
警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の方向安定性、制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意



- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ボルトやナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またボルトやナットが緩みホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■走行中に空気漏れが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

チルトキャブ*

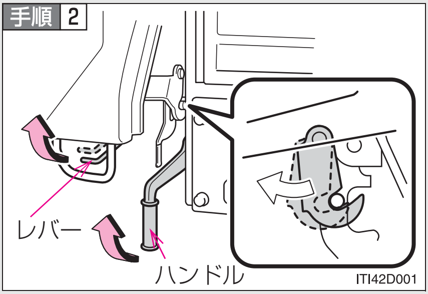
キャブをチルト操作してエンジンの点検などが行えます。

■ チルト操作のしかた

手順 1 パーキングブレーキをかけ、ドアを閉める

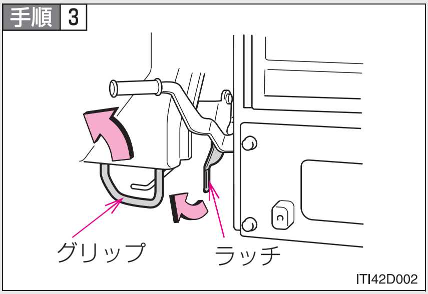
シフトレバーをマニュアル車は N、オートマチック車は P にしてください。

手順 2



レバーを引き上げながらハンドルを持ち上げる

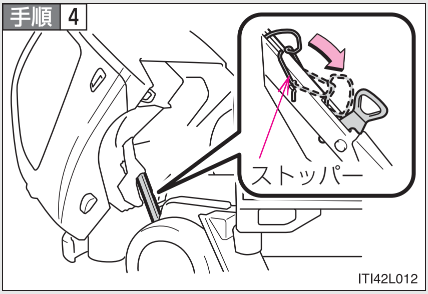
手順 3



ラッチを引いてキャブを持ち上げる

グリップを持って持ち上げてください。

手順 4

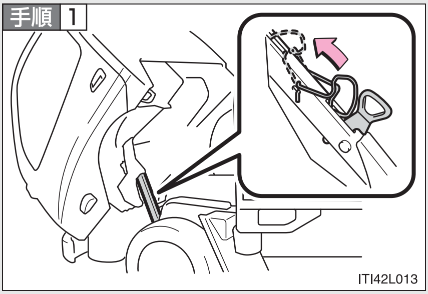


キャブを固定する

前方へ倒すと自動的にロックされます。
ロックされたらストッパーをはめ込みます。

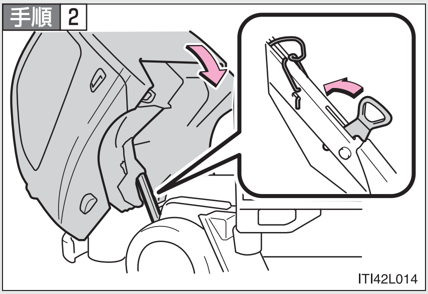
＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■キャブのもどし方



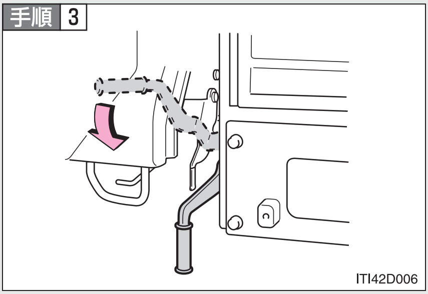
ストッパーをはずす

はずしたストッパーはステーの穴にはめ込みます。



キャブをもどす

キャブを支えながらロックをはずし、キャブをもどします。



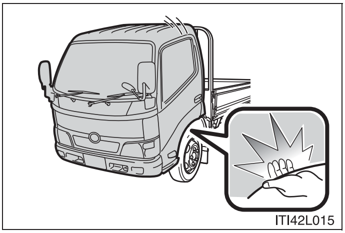
ハンドルをもどす

警告

■チルト操作するときは

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを閉め、必ず平坦な場所で行う
傾斜地では操作がしにくくなり、キャブが急に動いたりして危険です。



●キャブをもどすときは、体や手足などを挟まないよう十分注意する

●キャブ内、および周囲に人がいないことを確認する

●ルーフキャリアなどの重量物装着車は 2 人で操作する
1 人では支えきれなくなるおそれがあります。

●ルーフの上に荷物などがないか確認してから操作する

●キャブ内に飲料などがないか確認してから操作する
電気部品などにかかると車両火災につながるおそれがあります。

●走行直後は操作しない
レバーなどが熱くなっているためやけどをするおそれがあります。

●エンジンルーム内に工具や布などを置き忘れないよう注意する
高温になるため車両火災につながるおそれがあります。

●操作後は確実にロックされたことを確認する

●チルト操作後、走行する前にチルトロック警告灯（→P. 288）が消灯していることを確認する

⚠ 注意

■車両や周囲のものなどの損傷を防ぐために

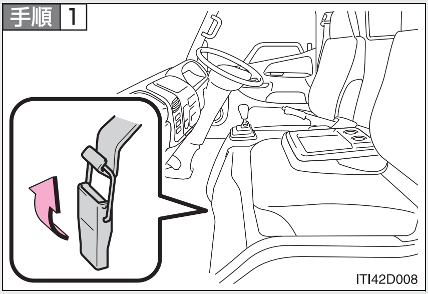
チルト操作するときは、上方および前方の空間に十分な余裕があることを確認してください。

■車内の損傷を防ぐために

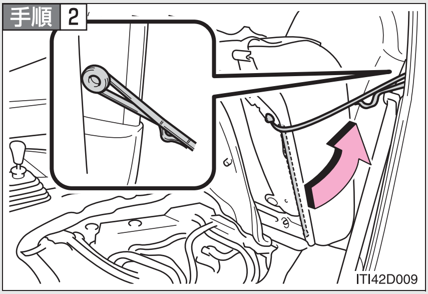
車内にものを置いたままチルト操作しないでください。

エンジン点検口＊

助手席シートを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。



ロック（2 個）を解除する



バンドをフックにかけて固定する

⚠ 警告

■エンジン点検口を開閉するときは

- 指などを挟まないように注意してください。
- 点検口を閉めたあとは、確実にロックされていることを確認してから走行してください。確実にロックされていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

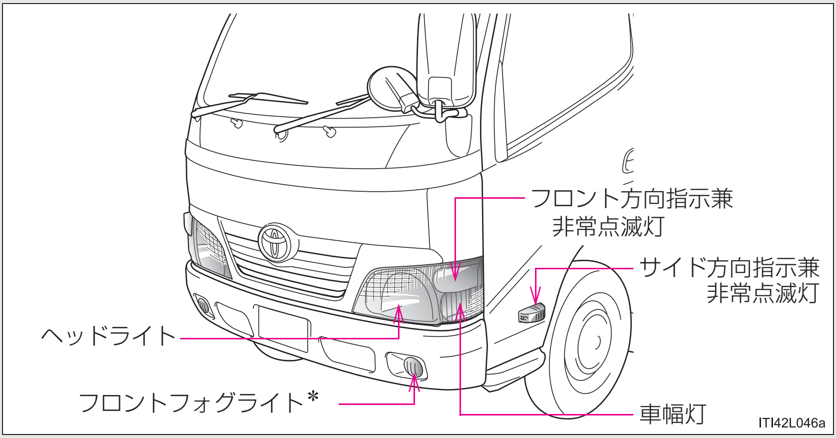
電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

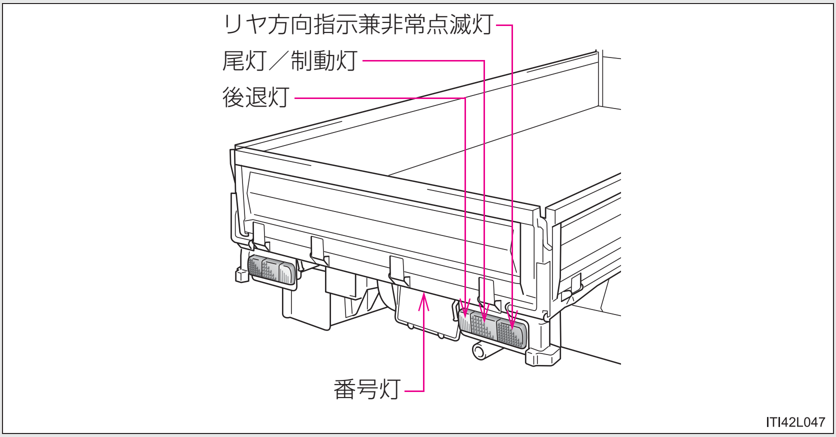
切れた電球のＷ（ワット）数を確かめてください。（→P. 334）

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置

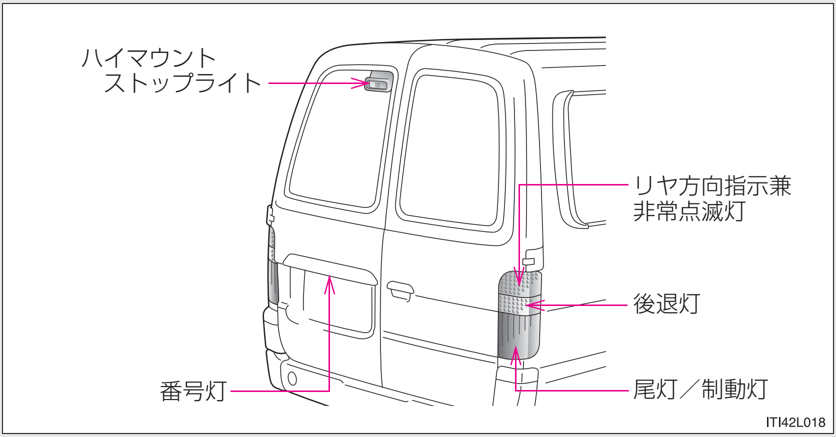
▶ ルートバンを除く※



※イラストは荷台装着車で代表しています。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ ルートバン

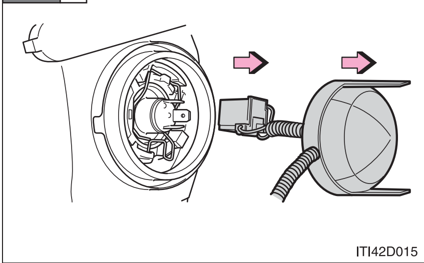


電球交換のしかた

■ヘッドライト（チルトキャブ車）

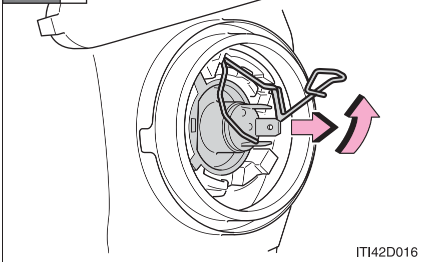
手順 1 キャブをチルト操作する（→P. 235）

手順 2



ゴムカバーをはずし、コネクターをはずす

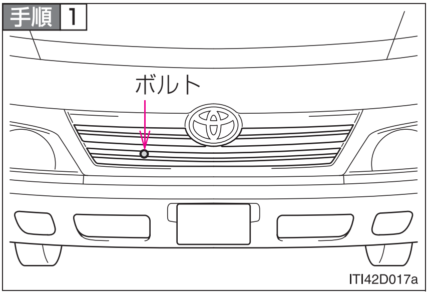
手順 3



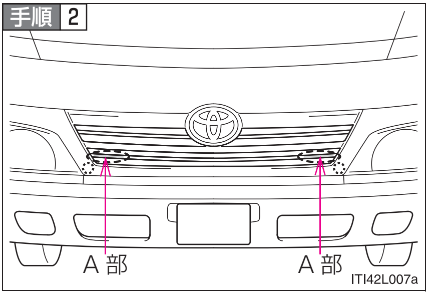
止め金をはずし、電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ヘッドライト（チルトキャブ車以外）

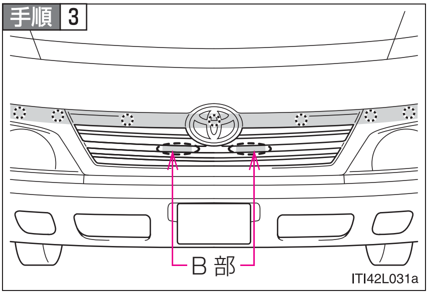


ボルト（1 個）をはずす



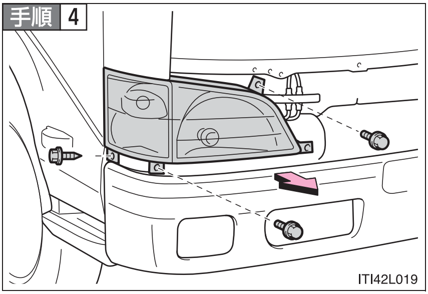
グリル下部を引いてはずす

A 部を持ち、下側クリップ（2 個）をはずします。



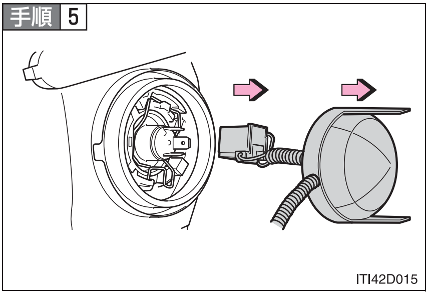
グリル上部を引いてはずす

B 部を持ち、上側クリップ（7 個）をはずします。

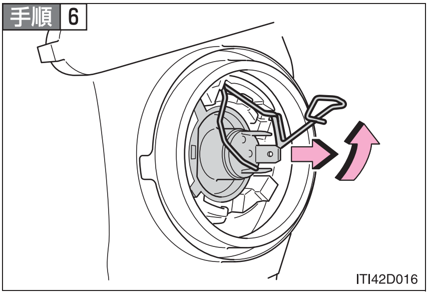


ライト本体をはずす

ボルト（3 個）をはずし、ライト本体を引き出します。



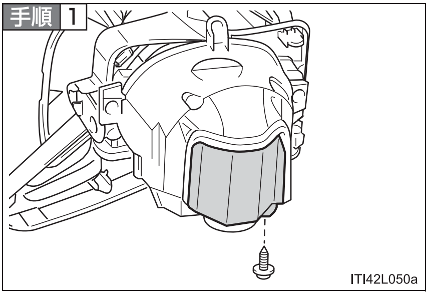
ゴムカバーをはずし、コネクターをはずす



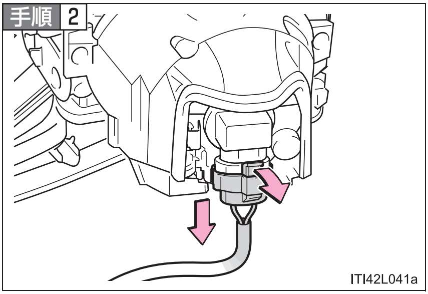
止め金をはずし、電球を取りはずす

手順 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

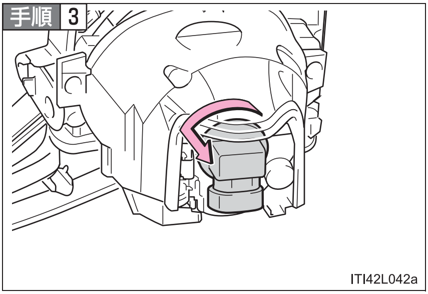
■ フロントフォググライト*



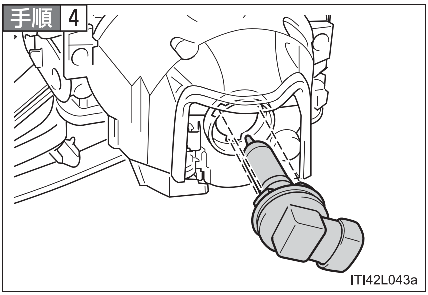
ネジ（1 本）をはずし、カバーを取りはずす



コネクターを取りはずす



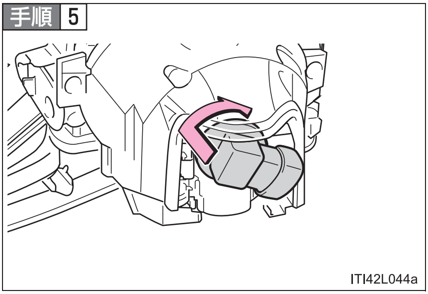
電球を取りはずす



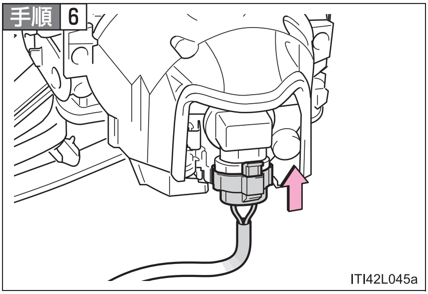
電球を交換する

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備



電球をまわして固定する



コネクターを取り付ける

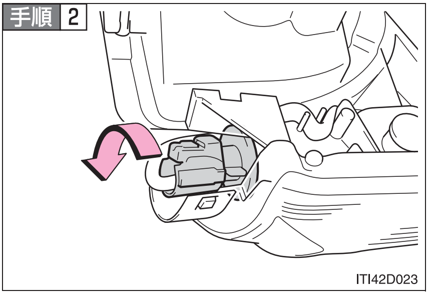
ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

手順 7 カバーを取り付けるときは、手順 1 と逆の手順で取り付ける

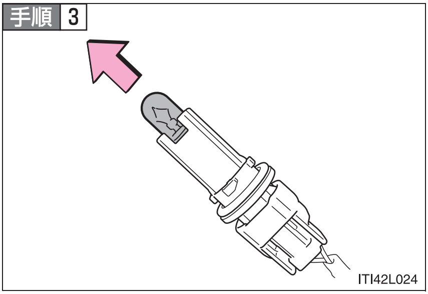
■ 車幅灯

手順 1 ライト裏側に作業スペースがあることを確認する

チルトキャブ車はキャブをチルト操作すると作業スペースが広くなります。チルト操作できない車で作業スペースがない場合は、ライト本体をはずします。（→P. 243 ）



ソケットを取りはずす



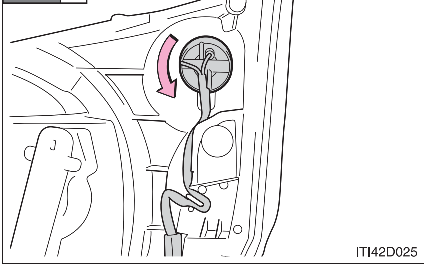
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

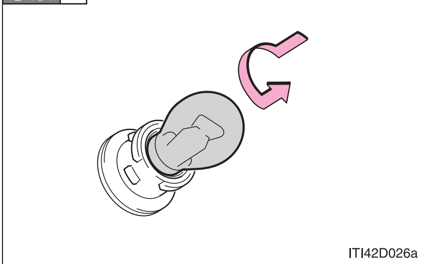
手順 1 ライト本体をはずす（→P. 243）

手順 2


ITI42D025

ソケットを取りはずす

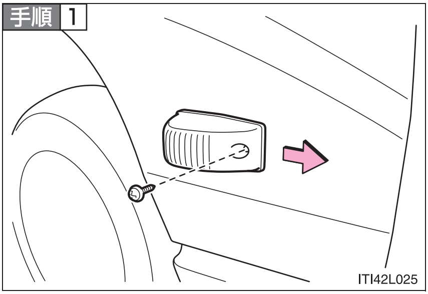
手順 3


ITI42D026a

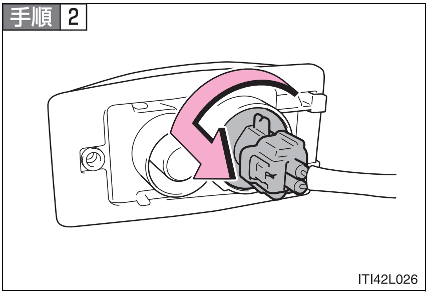
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

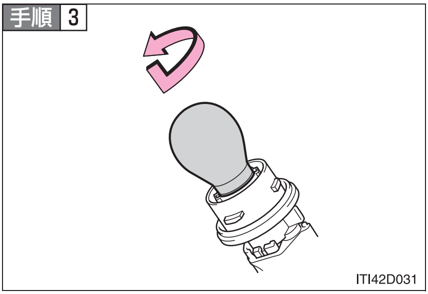
■ サイド方向指示兼非常点滅灯



ネジ（1 個）をはずし、ライト本体を取りはずす



ソケットを取りはずす



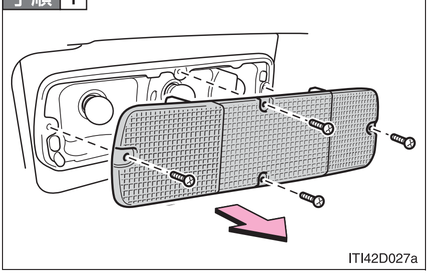
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯、尾灯／制動灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯

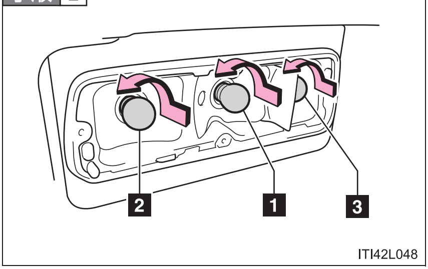
▶ ルートバンを除く※

手順 1



ネジ（4 個）をはずし、カバーを取りはずす

手順 2



電球を取りはずす

1 尾灯／制動灯

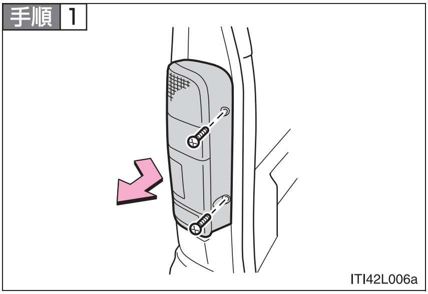
2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

3 後退灯

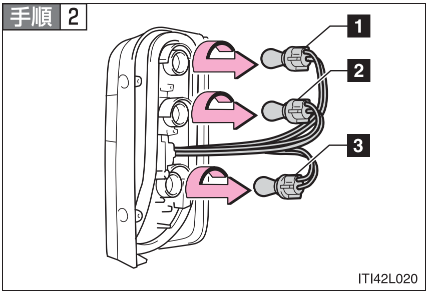
※イラストは助手席側で説明しています。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶ ルートバン※



バックドアを開け、ネジ（2 個）をはずしライト本体をはずす



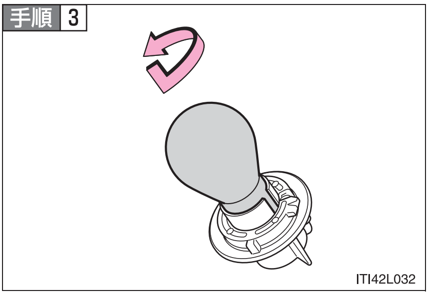
ソケットを取りはずす

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯

3 尾灯／制動灯

※イラストは助手席側で説明しています。

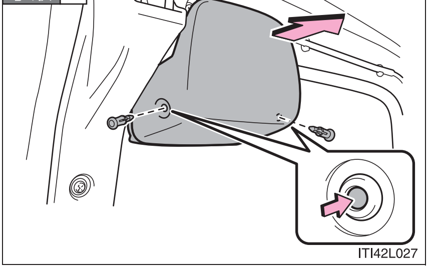


電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ハイマウントストップライト（ルートバン）

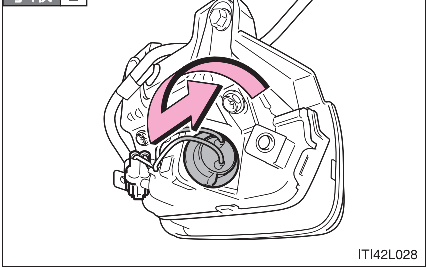
手順 1



クリップ（2 個）をはずし、カバーをはずす

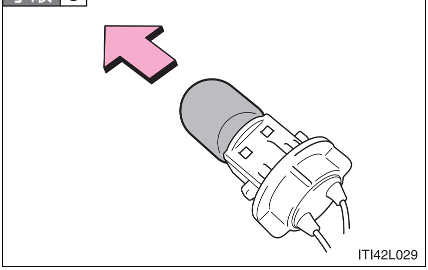
クリップの中央部を押し、クリップを引き抜きます。

手順 2



ソケットを取りはずす

手順 3

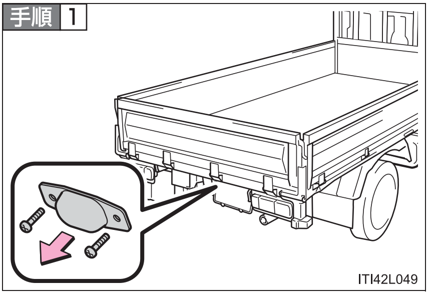


電球を取りはずす

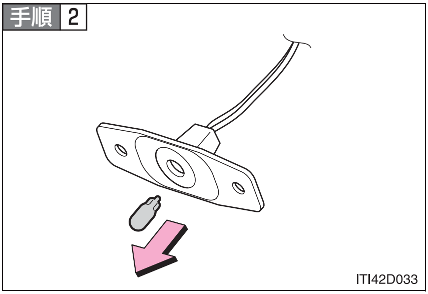
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

▶ ルートバンを除く



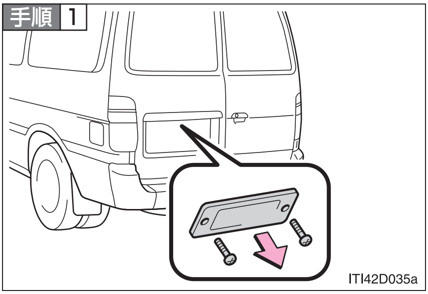
ネジ（2 個）をはずし、カバーをはずす



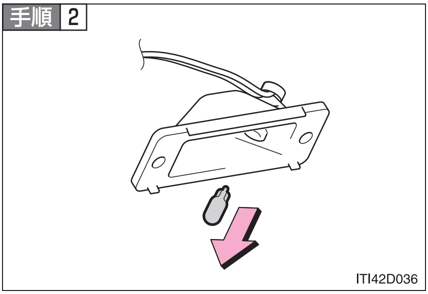
電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶ ルートバン



ネジ（2個）をはずし、カバーをはずす

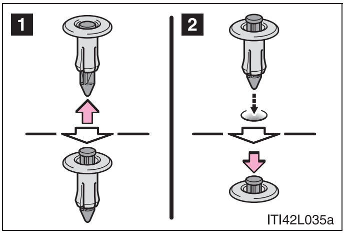


電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ハイマウントストップライトのカバーのクリップを取り付けるときは



1 先端を押して、クリップの中心を出す

2 クリップをセットしてから、クリップ頭部の中心を押す

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ●ライト内に水がたまっている

■ヘッドライト本体をはずすときは

- ●ヘッドライトの光軸調整用のネジをまわさないでください。ヘッドライトの光軸がずれるおそれがあります。
- ●電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドライトの光軸の点検を受けてください。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品の破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電して、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■グリルやヘッドライト本体をはずすときは

部品の破損やボルトの紛失にご注意ください。
グリルやヘッドライトが取り付けできなくなるおそれがあります。

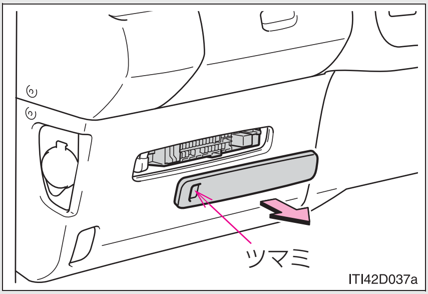
ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

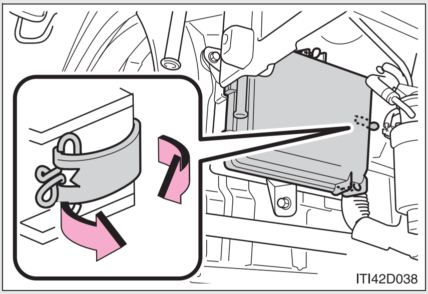
■ 室内ヒューズボックス



ツマミを引いて、フタをはずす

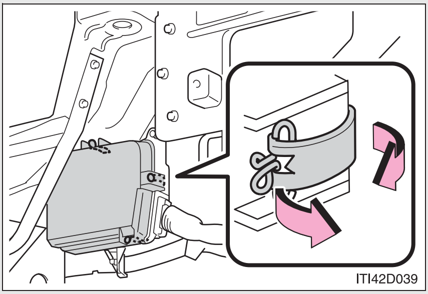
■ 室外ヒューズボックス

▶ シングルキャブ



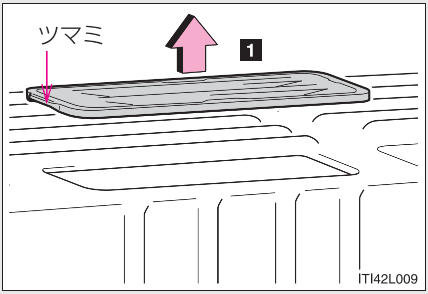
ツメ（2ヶ所）、ロック（2ヶ所）をはずし、カバーをはずす

▶ ダブルキャブ



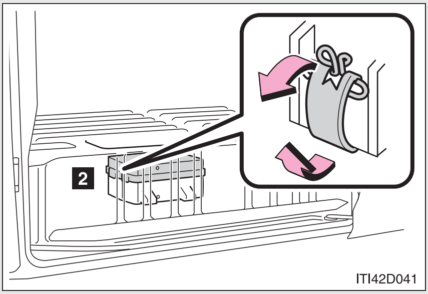
■ 床下ヒューズボックス

▶ ルートバン（寒冷地仕様車を除く）



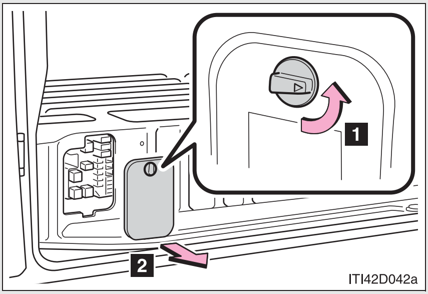
1 フタをはずす

マットをめくり、ツマミを引いてフタを取りはずします。



2 ツメ（2ヶ所）、ロック（2ヶ所）をはずし、カバーをはずす

▶ ルートバン（寒冷地仕様車）



1 ツマミをまわす

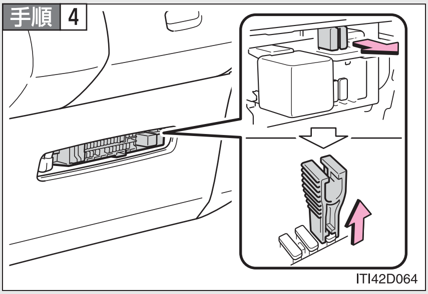
2 カバーをはずす

取り付けるときは、カバー下部のツメをはめ込んで、ツマミをまわします。

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P. 259）で確認する

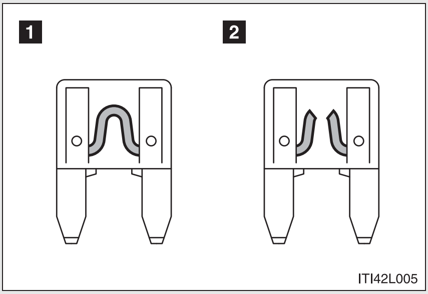
車の仕様により装着されていないヒューズもあります。

手順 4



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

手順 5 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する



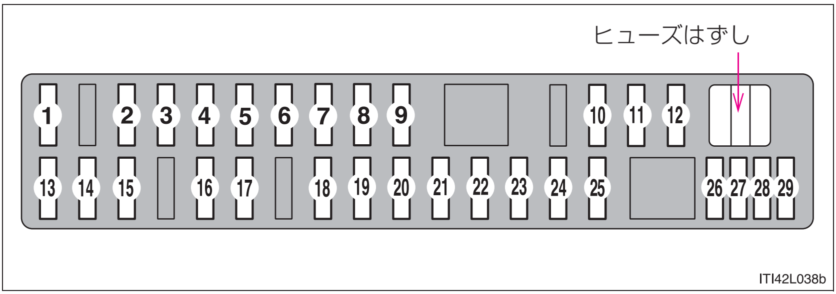
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ 室内ヒューズボックス

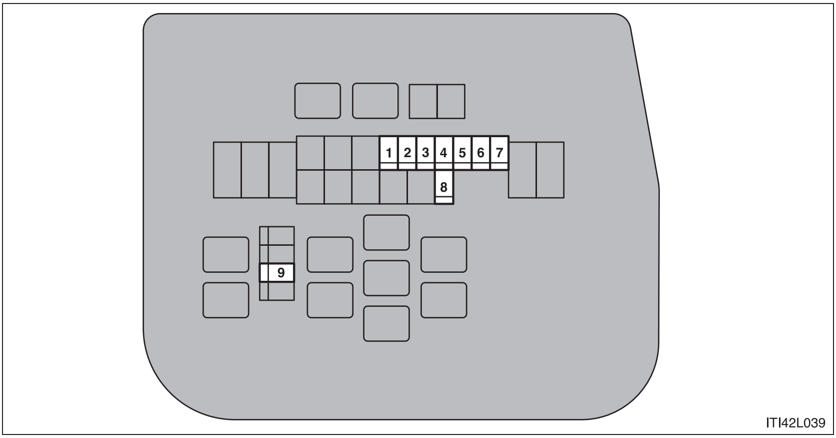


	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P − ACC	10 A	ACC 予備電源
2	CIG	15 A	シガーライター
3	DOOR	30 A	ドアロック
4	IG1 − No.2	10 A	メーター
5	WIP	30 A	ワイパー
6	A/C	10 A	エアコン
7	HTR MIR	20 A	ミラーヒーター
8	TRN	10 A	方向指示灯
9	ECU − IG	10 A	ECU 全般
10	OBD	10 A	OBD
11	ECU − B ※	10 A	ECU 全般
12	DOME	10 A	室内灯
13	P − BATT	15 A	常備予備電源
14	P − IG1	15 A	IG 予備電源
15	P − TAIL	10 A	ライティング予備電源
16	TAIL	15 A	テールライト
17	IGN NO.2 ※	10 A	A/T ECU
18	H − LP LH	15 A	ヘッドライト左側
19	H − LP RH	15 A	ヘッドライト右側
20	HORN	10 A	ホーン
21	HAZ	20 A	非常点滅灯
22	STOP	10 A	制動灯
23	ST	10 A	スターター
24	IG2	10 A	ECU 全般
25	A/C NO.2	10 A	エアコン
26	SPARE	−	予備ヒューズ
27	SPARE	−	予備ヒューズ
28	SPARE	−	予備ヒューズ
29	SPARE	−	予備ヒューズ

※ LPG 車を除く

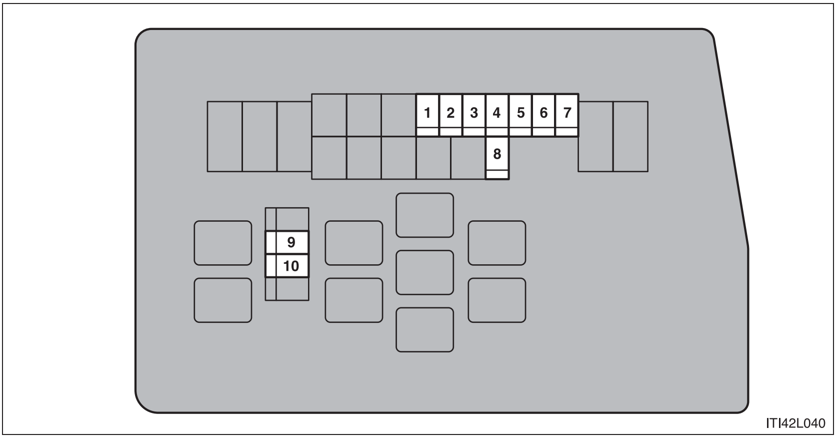
■ 室外ヒューズボックス・床下ヒューズボックス

▶ ディーゼル車（ルートバンを除く）



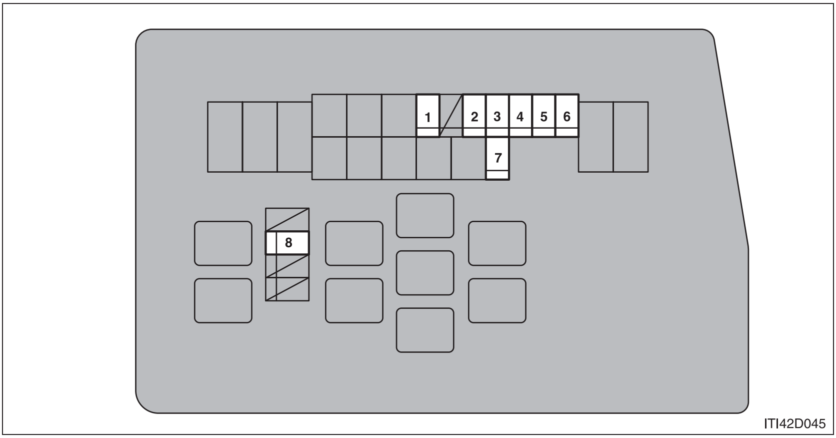
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FOG	15 A	フォグライト
2	F/HTR	30 A	フューエルヒーター
3	EFI	10 A	エンジンコントロールコンピューター
4	ALT − S	10 A	充電警告灯
5	AM2	10 A	エンジン スイッチ
6	A/F	15 A	ECU 全般
7	ECD	25 A	エンジンコントロールコンピューター、エンジン補機類
8	E − FAN	30 A	電動ファン
9	EDU	20 A	EDU

▶ ディーゼル車（ルートバン）



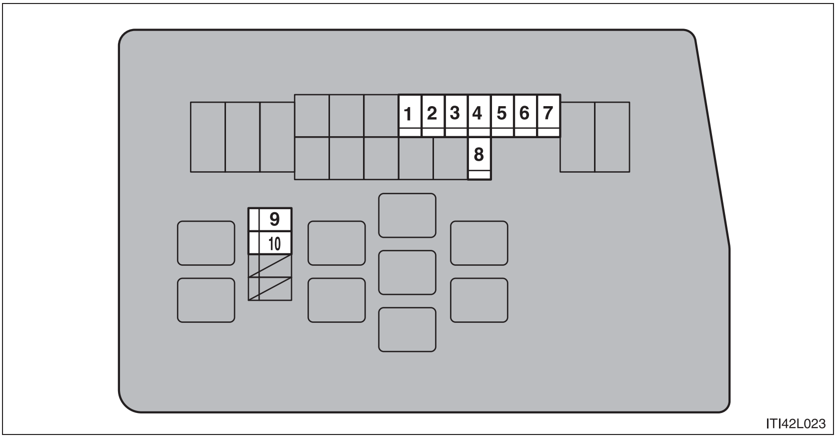
ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FOG	15 A	フォグライト
2	F/HTR	30 A	フューエルヒーター
3	EFI	10 A	エンジンコントロールコンピューター
4	ALT − S	10 A	充電警告灯
5	AM2	10 A	エンジン スイッチ
6	A/F	15 A	ECU 全般
7	ECD	25 A	エンジンコントロールコンピューター、エンジン補機類
8	E − FAN	30 A	電動ファン
9	RR HTR	20 A	−
10	EDU	20 A	EDU

▶ ガソリン車



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FOG	15 A	フォグライト
2	EFI	20 A	ECU 全般
3	ALT − S	10 A	充電警告灯
4	AM2	10 A	エンジン スイッチ
5	ETCS	10 A	エンジンコントロール
6	IGN	15 A	エンジンコントロール
7	E − FAN	30 A	電動ファン
8	A/F1	15 A	ECU 全般

▶ LPG 車



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FOG	15 A	フォグライト
2	INJ.PMP	30 A	エンジンコントロール
3	EFI	20 A	ECU 全般
4	ALT − S	10 A	充電警告灯
5	AM2	10 A	エンジン スイッチ
6	ETCS	10 A	エンジンコントロール
7	IGN	15 A	エンジンコントロール
8	E − FAN	30 A	電動ファン
9	ST　NO.2	10 A	ECU 全般
10	VSV	15 A	エンジンコントロール

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 240)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

ワイヤレスリモコン*の電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

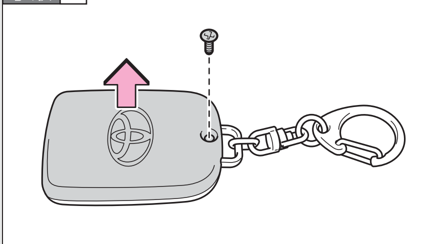
■ 用意するもの

- ● 小さいプラスドライバー
- ● リチウム電池 CR1616(キーホルダー式リモコン)、単 3 形乾電池 2 個（ベルト装着式リモコン)

■ 電池交換のしかた

▶ キーホルダー式リモコン

手順 1

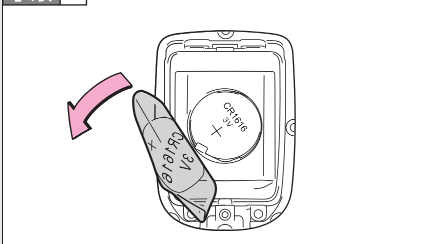


ITI42D046a

カバーをはずす

小さいプラスドライバーで、ネジ（1 個）をはずし、カバーを取りはずします。

手順 2

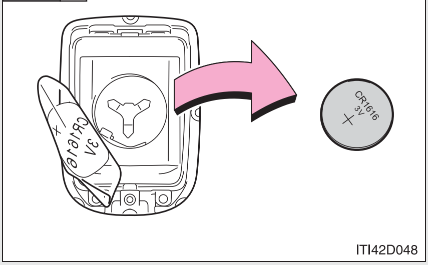


ITI42D047a

シールをめくる

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 3



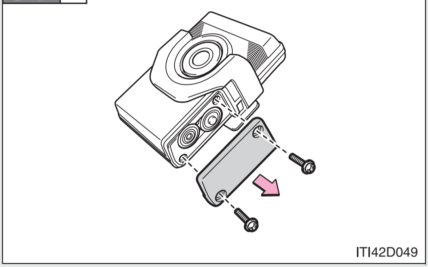
消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 シールを貼り付け、カバーを取り付ける

▶ ベルト装着式リモコン

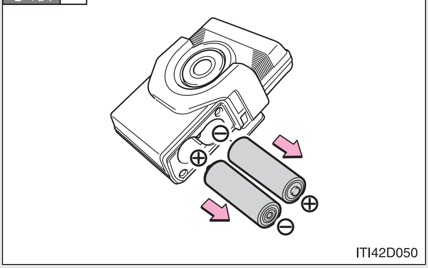
手順 1



カバーをはずす

小さいプラスドライバーで、ネジ（2 個）をはずし、カバーを取りはずします。

手順 2



電池を交換する

古い電池を取り出し、図の向きで新しい電池を挿入します。

手順 3 カバーを取り付ける

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- ●ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1616（キーホルダー式リモコン）、単 3 形乾電池（ベルト装着式リモコン）の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまに触らせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

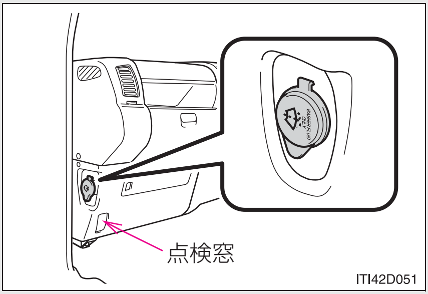
注意

■交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- ●濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- ●電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- ●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給



点検窓で確認する

不足しているときは、キャップをはずしてウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ウォッシャー液の薄め方

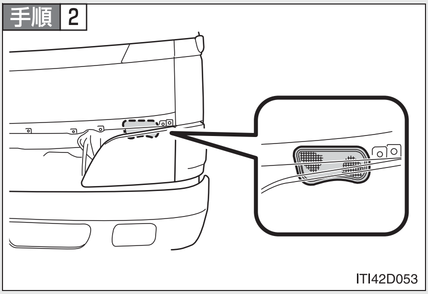
必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルター

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

■ 外気フィルターの清掃

手順 1 グリルをはずす（→P. 243）

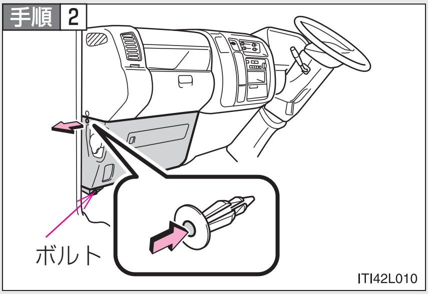


フィルターを清掃する

やわらかいブラシなどで清掃します。

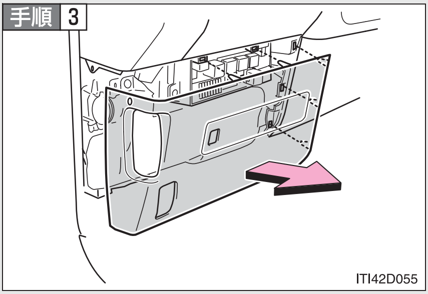
■ 内気フィルターの清掃

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする



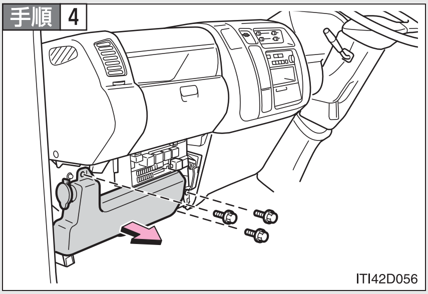
助手席足元のボルト（1 個）とクリップ（1 個）をはずす

クリップは中央部を押し、ロックを解除して引き抜きます。



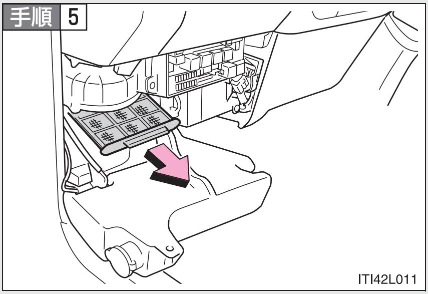
カバーをはずす

ツメ周辺（5ヶ所）を手前に引いてはずします。



ウォッシャータンクをずらす

ボルト（3 個）をはずし、タンクを手前にずらします。



フィルターをはずす

水洗いするか、裏面からエアブローで清掃してください。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの清掃について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃してください。

清掃：12ヶ月または 10,000km [5,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

⚠ 注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■内気フィルターを取りはずすときは

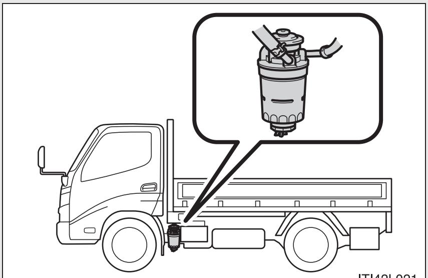
ウォッシャータンクをずらすときに、ウォッシャー液をこぼさないようにしてください。

燃料・水分離器の排水（ディーゼル車）

燃料・水分離器水位警告灯（→P. 288）が点灯したときは、すみやかに排水してください。

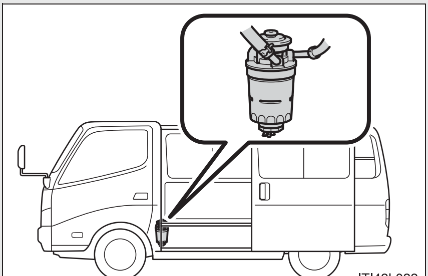
■ 燃料・水分離器の位置

▶ 荷台装着車



ITI42L021

▶ ルートバン



ITI42L022

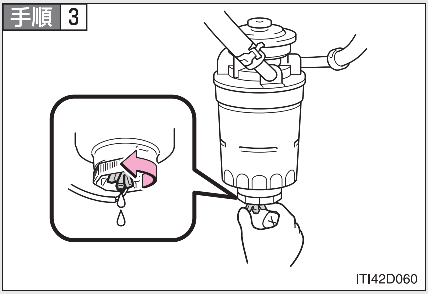
■ 排水のしかた

手順 1 エンジン スイッチを " LOCK " にする

手順 2 受け皿を置く

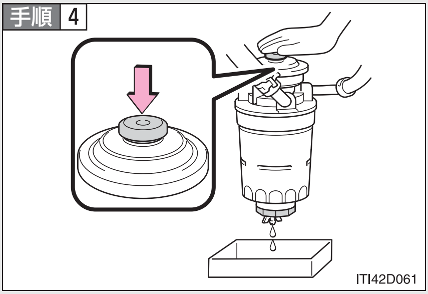
軽油が飛散しないよう排水栓の下に置きます。

手順 3



排水栓を左にまわす

手順 4



ポンプを押し排水する

目安としてコップ半分くらいの水を排水します。

手順 5 排水が終わったら排水栓を確実に締める

トラブルが起きたら

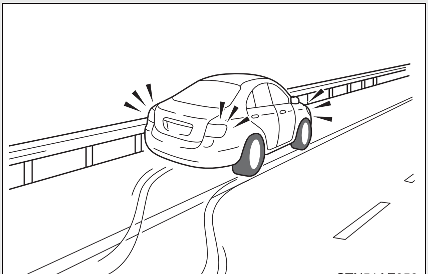
5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

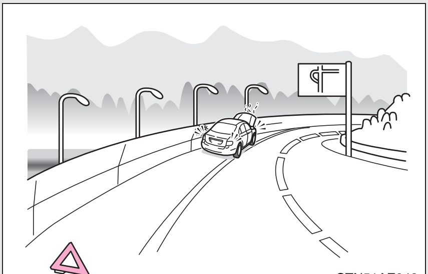
故障したときは

故障のときはすみやかに下記の指示に従ってください。

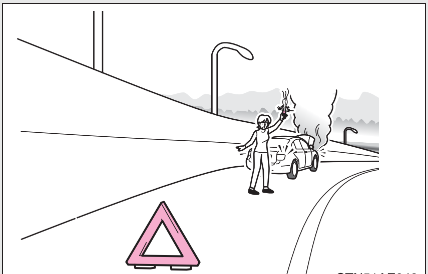

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 277)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。


CTN51AE048

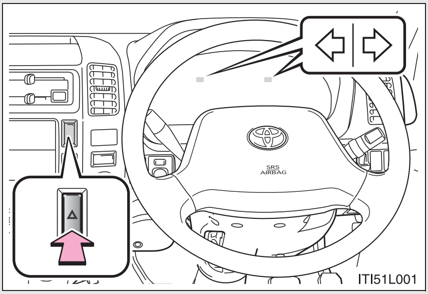
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています)


CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 278)

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

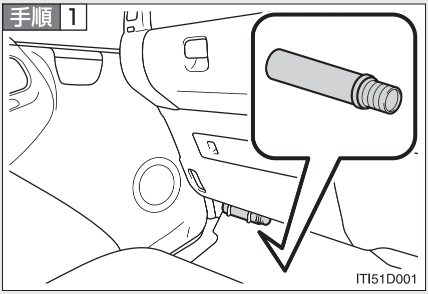
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

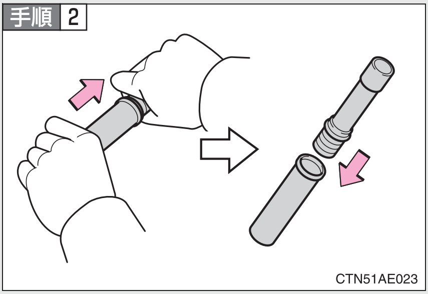
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

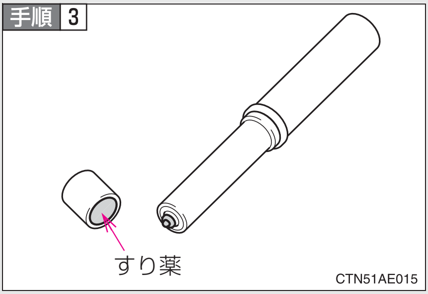
事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。

⚠警告

■**発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

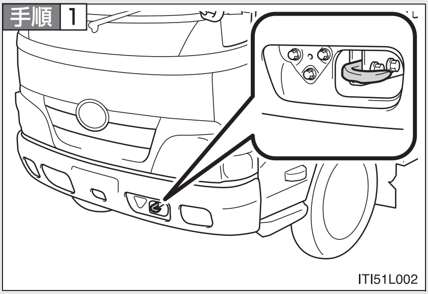
以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

● エンジンはかかるが、車が動かない

● 異常な音がする

■ けん引されるときは

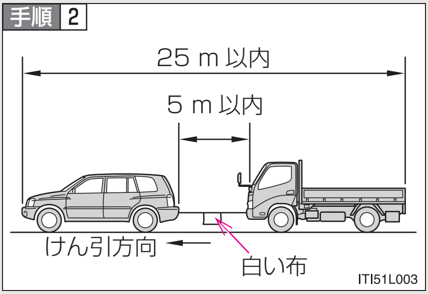
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

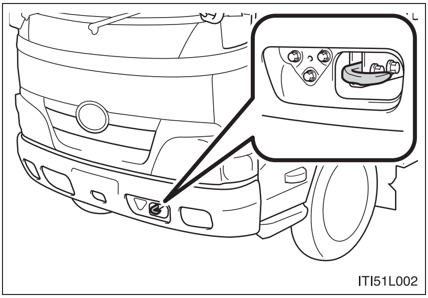
エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

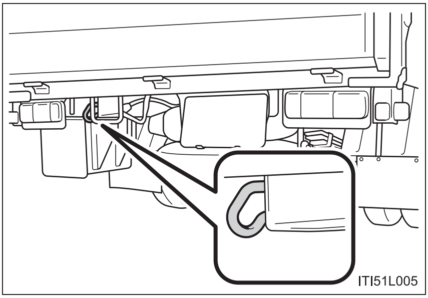
けん引フックの位置

■ フロント

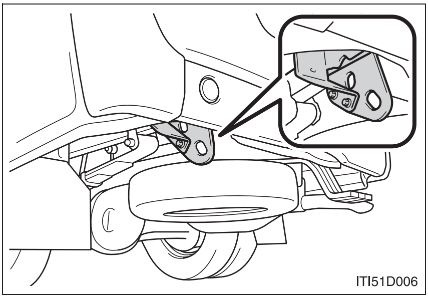


■ リヤ*

▶ ルートバンを除く



▶ ルートバン



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■けん引フックの使用目的

フロントけん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。
リヤけん引フックは、自車より軽い車をけん引するためのものです。

警告

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず全輪接地または、全輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず全輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や間違った車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- エンジン スイッチを “ LOCK ” にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

注意

■**車両の損傷を防ぐために**

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

● ワイヤーロープは使用しない

● 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する

● 前進方向でけん引する

● サスペンション部などにロープをかけない

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー*

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータは、システムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション（オートマチック車）
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

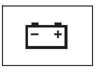
以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※）／バキューム警告灯＊** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 ・バキュームタンク内の負圧低下

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h を超えたとき、警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

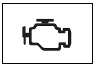
以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	**充電警告灯** 充電系統の異常
	**油圧警告灯** エンジンオイルの圧力異常

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに点検を受けてください。

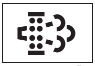
以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	**エンジン警告灯** ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットル*の異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システム*の異常 ・排出ガス浄化装置の異常（ディーゼル車のみ）
	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯*** ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	**ABS 警告灯*** ABS の異常
A/T OIL TEMP	**オートマチックトランスミッション油温警告灯*** オートマチックトランスミッションフルードの異常
T-BELT	**タイミングベルト交換警告灯（ディーゼル車）** タイミングベルトの交換時期
	**油量警告灯** エンジンオイル量の異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
 (点滅※1)	**排出ガス浄化装置警告灯(ディーゼル車)** 排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要になった	手動でススの燃焼処理を行う(→P. 150)
	**チルトロック警告灯＊** キャブが確実にロックされていない	キャブを確実にロックする
	**燃料・水分離器水位警告灯(ディーゼル車)** 分離器内の水が規定レベルを超えた	排水する(→P. 273)
	**燃料残量警告灯＊** 燃料残量の低下	給油する
	**運転席シートベルト非着用警告灯(警告ブザー※2)** 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	**助手席シートベルト非着用警告灯＊** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※1 排出ガス浄化装置警告灯が点灯にかわった場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→P. 150）

※2 **運転席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席シートベルトを非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯＊の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

注意

■排出ガス浄化装置警告灯が点滅したときは（ディーゼル車）

→P. 150

■燃料・水分離器水位警告灯について（ディーゼル車）

警告灯が点灯したときはすみやかに対処してください。点灯したまま走行を続けると噴射ポンプやエンジンなどが損傷するおそれがあります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは

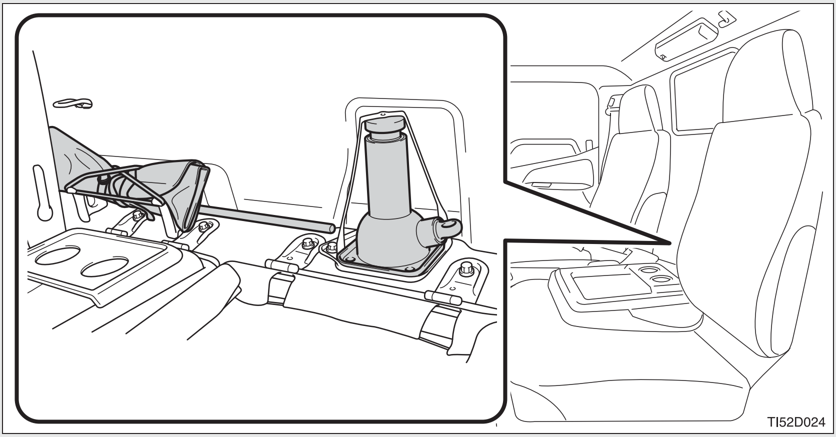
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 229 を参照してください）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

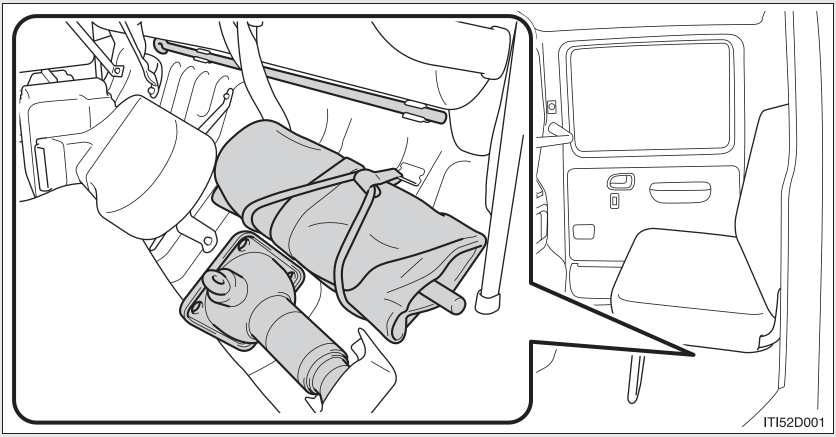
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーをＰに入れ、エンジンを停止する
- マニュアル車はエンジンを停止してからシフトレバーを R に入れる
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

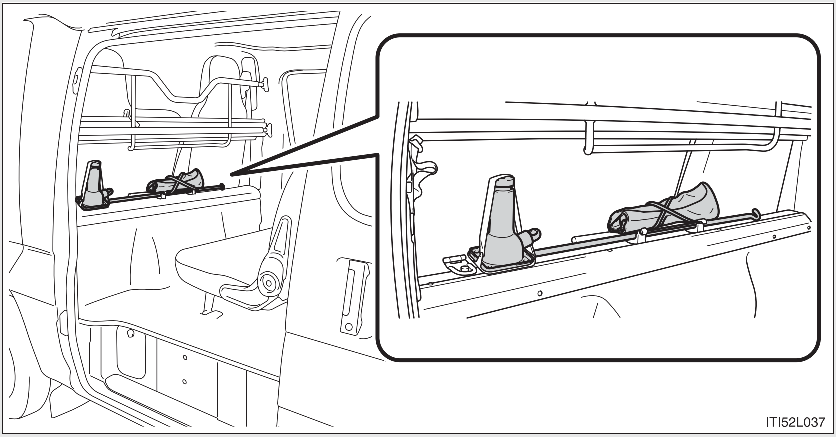
▶ シングルキャブ



▶ ダブルキャブ

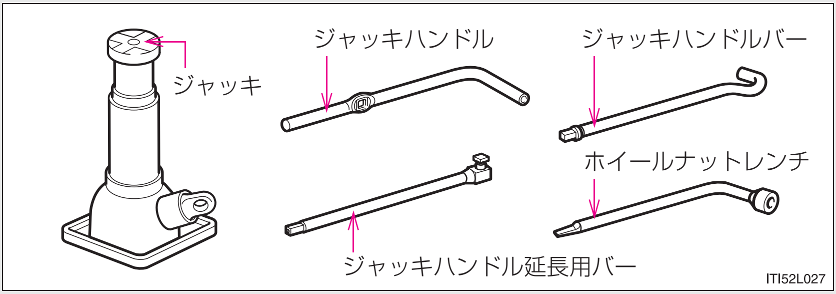


▶ ルートバン

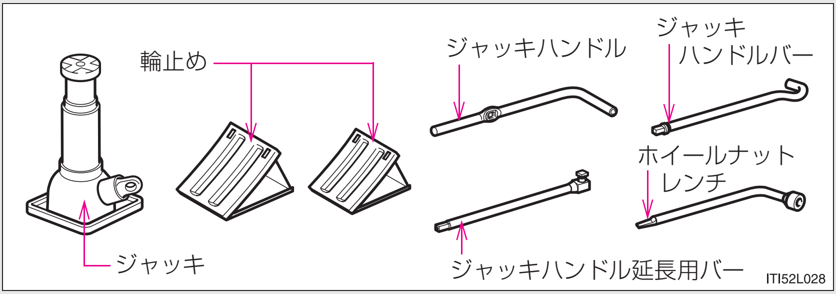


■ 搭載工具（リヤシングルタイヤ車）

▶ 1.0 t 積車･1.25 t 未満積車（シングルキャブ）･キャンパー仕様車

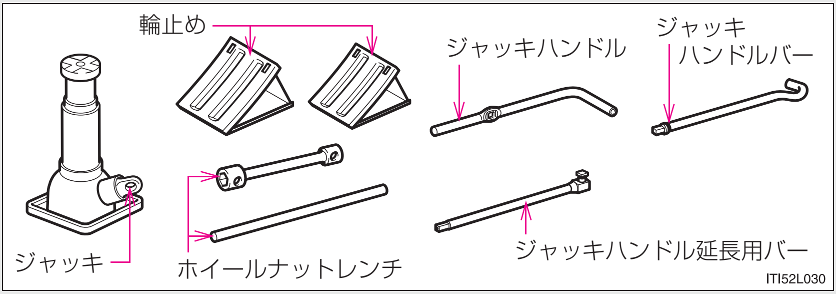


▶ 1.0 t 以上積車（ダブルキャブ）･1.25 t 以上積車（シングルキャブ）

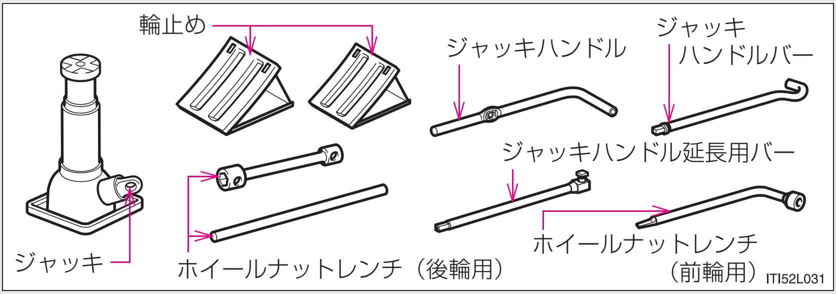


■ 搭載工具（リヤダブルタイヤ車）

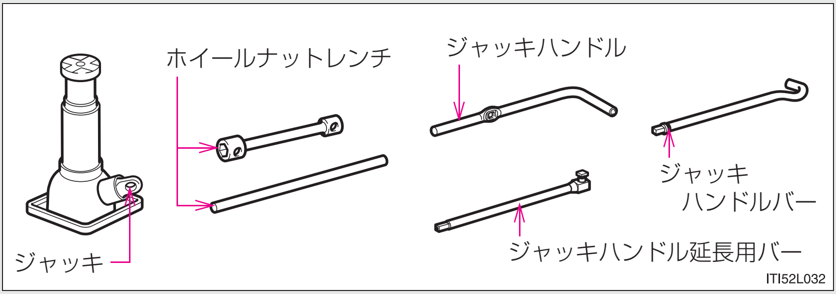
▶ フルジャストロー



▶ ジャストロー

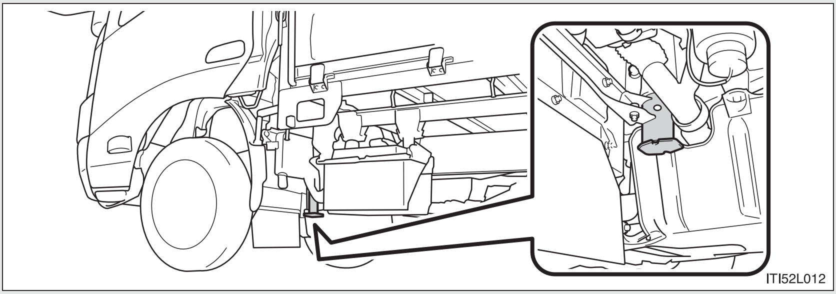


▶ ルートバン

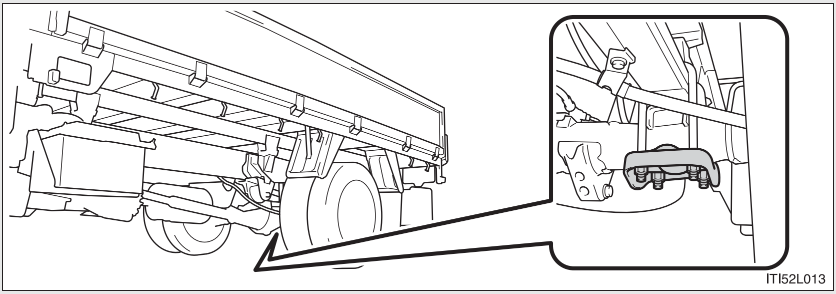


■ ジャッキセット位置（ガソリン・ディーゼル車）※

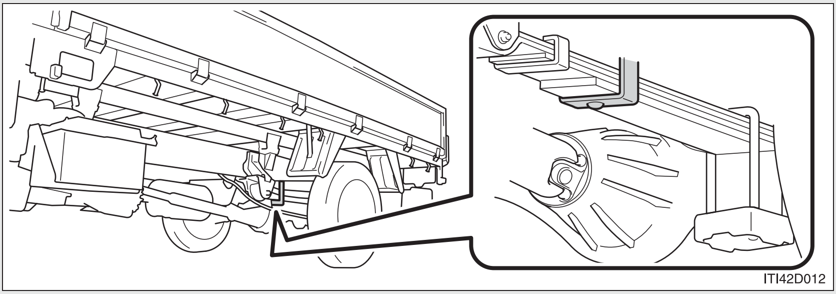
▶ フロント側



▶ リヤ側（スーパーシングルジャストローを除く）



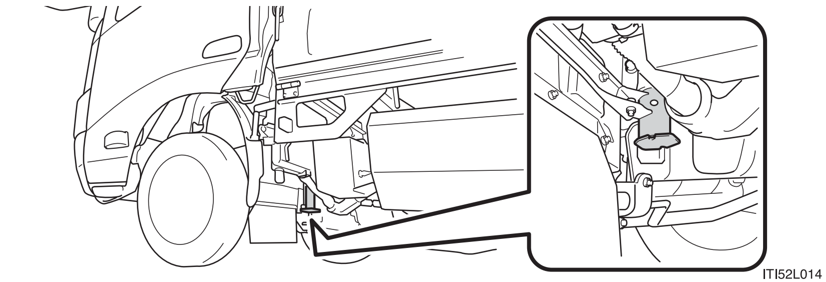
▶ リヤ側（スーパーシングルジャストロー）



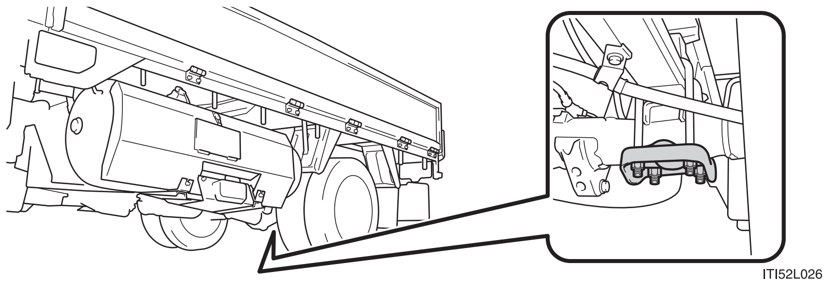
※イラストはシングルキャブ車で代表しています。

■ジャッキセット位置（LPG 車）

▶ フロント側


ITI52L014

▶ リヤ側

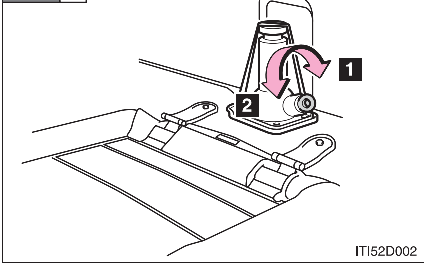

ITI52L026

ジャッキの取り出し方※

手順 1 シングルキャブ車は助手席シートを倒し、ダブルキャブ車はリヤシートを折りたたむ

ルートバンはフロントシートのうしろにあります。

手順 2

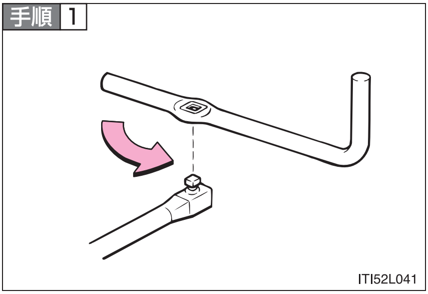


1 締まる

2 ゆるむ

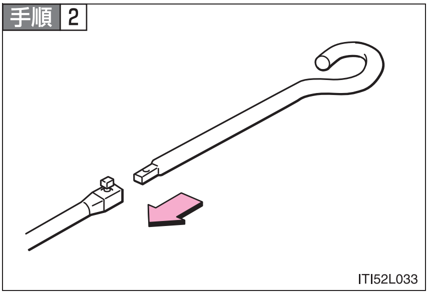
※イラストはシングルキャブ車で代表しています。

ジャッキハンドルの組み付け方

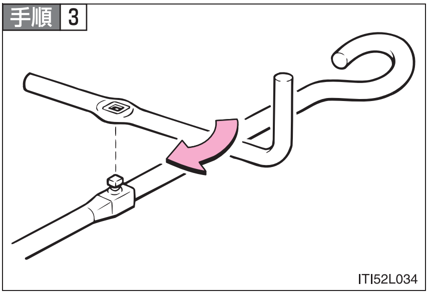


ボルトをゆるめる

ジャッキハンドルの穴を使用します。

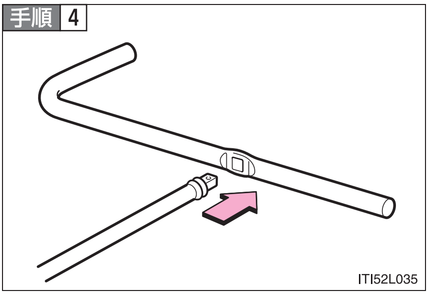


ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーを接続する



ボルトを締め付ける

ジャッキハンドルの穴を使用します。



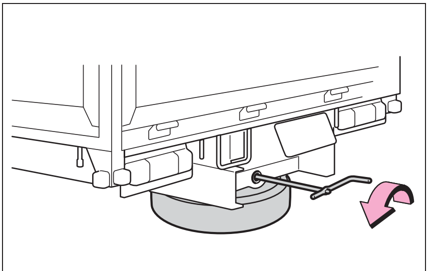
上記手順で組み付けたあと、ジャッキハンドルの穴に挿し込む

スペアタイヤの取り出し方

手順 1 格納具の穴に組み付けたジャッキハンドルバーを挿し込む

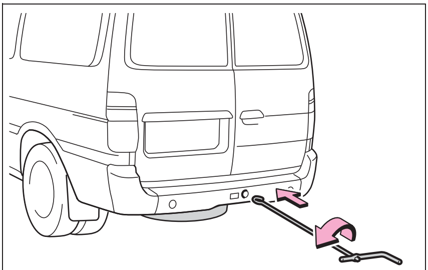
手順 2 ハンドルを左にまわしてスペアタイヤをおろす

▶ 1 段吊り格納車（ルートバンを除く）



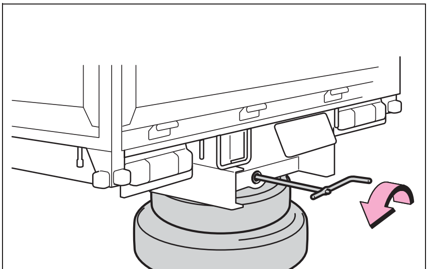
ITI52D003

▶ ルートバン



ITI52D004

▶ 2 段吊り格納車



ITI52D029

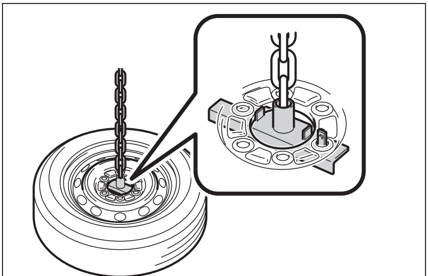
手順 3 おろしたスペアタイヤからアンカープレートをはずす

スペアタイヤの格納のしかた

■ 1 段吊り格納車

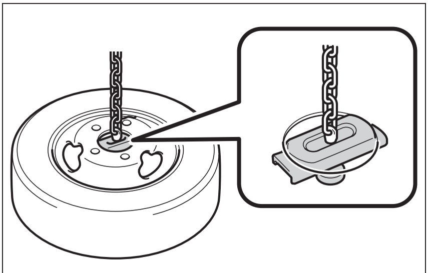
手順 1 ホイール穴に格納具のアンカープレートをはめる

▶ リヤシングルタイヤ車



ITI52D005

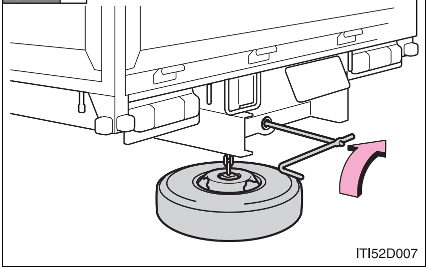
▶ リヤシングルタイヤ車を除く



ITI52D006

手順 2 組み付けたジャッキハンドルバーを格納具の穴に挿し込む

手順 3



ITI52D007

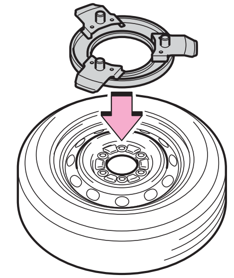
ハンドルを右にまわしてスペアタイヤを巻き上げる

締め付けトルク：

250 N｛25kgf｝以上（参考値）

■2 段吊り格納車

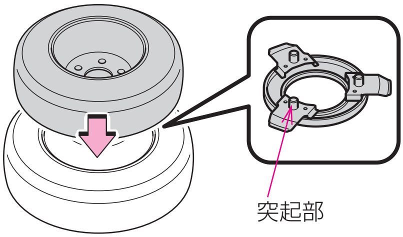
手順 1



ITI52D008

フロント用タイヤの上にスペーサーをのせる

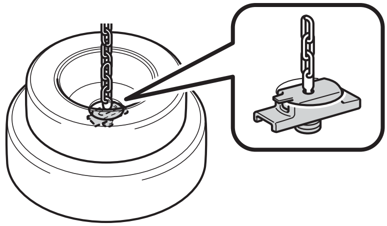
手順 2



ITI52D009

スペーサーの突起部にリヤ用タイヤのハブ穴をあわせてのせる

手順 3



ITI52D010

下側のフロント用タイヤのホイール穴に格納具のアンカープレートをはめる

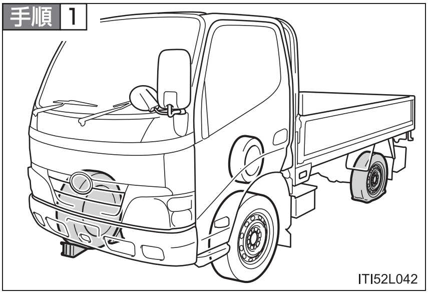
手順 4 組み付けたジャッキハンドルバーを格納具の穴に挿し込む

手順 5 ハンドルを右にまわしてスペアタイヤを巻き上げる

締め付けトルク：

250 N｛25kgf｝以上（参考値）

パンクしたタイヤの交換



輪止め※をする

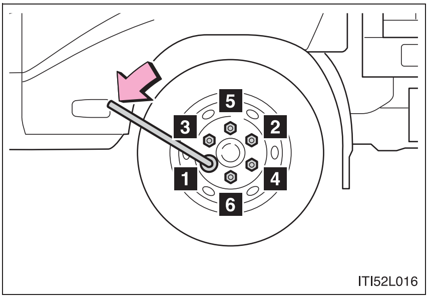
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪前後
	右側	左側後輪前後
後輪	左側	右側前輪前後
	右側	左側前輪前後

※輪止めが搭載されていない場合は、トヨタ販売店で購入することができます。

手順 2 シングルタイヤはナット、ダブルタイヤはナットおよびストップボルトをゆるめる

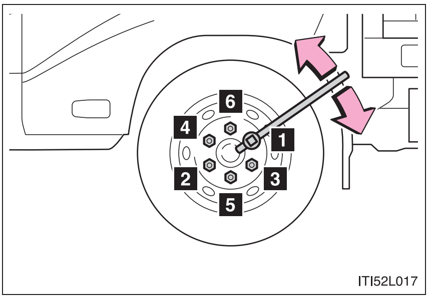
ダブルタイヤの外側タイヤを交換するときは、ストップボルトをゆるめる必要はありません。

▶ リヤシングルタイヤ車とジャストローのフロントタイヤ



ナットを左にまわしてゆるめます。

▶ 上記以外のタイヤ



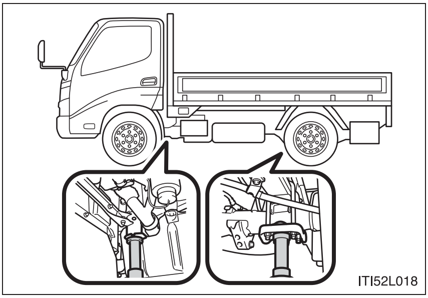
運転席側と助手席側ではまわす方向が違います。

運転席側：左まわし

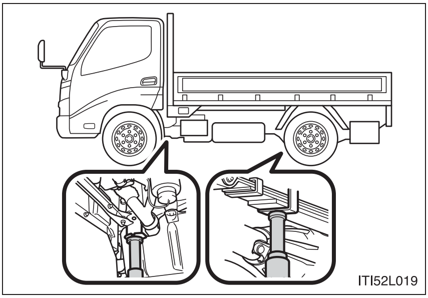
助手席側：右まわし

手順 3 ジャッキセット位置にしっかりかける（→P. 294）

▶ スーパーシングルジャストローを除く※

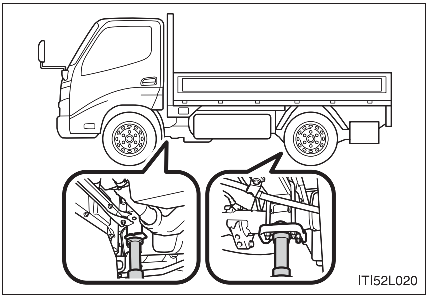


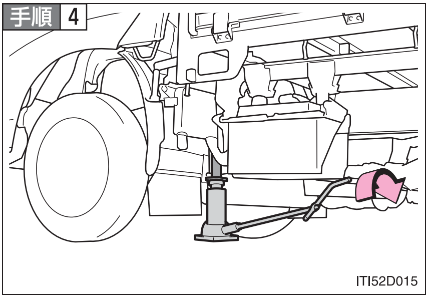
▶ スーパーシングルジャストロー※



※イラストはシングルキャブ車で代表しています。

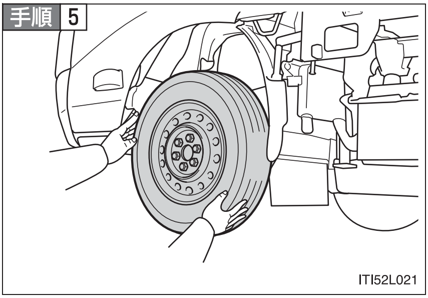
▶ LPG 車





タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

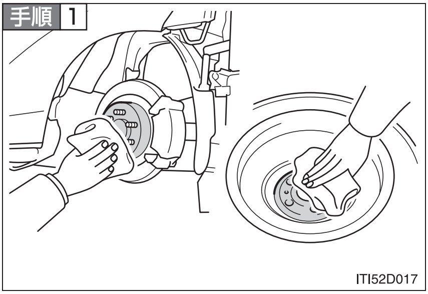
組み付けたジャッキハンドルバーを使用してジャッキを上げます。



シングルタイヤはナット、ダブルタイヤはナットおよびストップボルトすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にしてください。

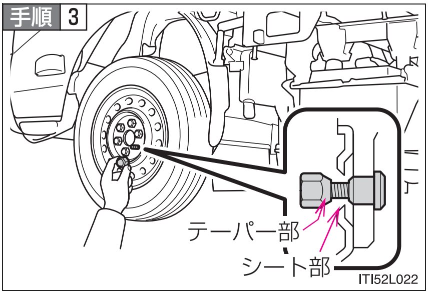
タイヤの取り付け



ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度までシングルタイヤはナット、ダブルタイヤはナットおよびストップボルトを仮締めする

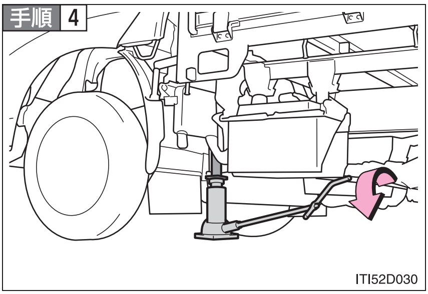


ナットおよびストップボルトのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

イラストはナットを締め付ける場合で代表しています。

ナットおよびストップボルトの締め付け方向にご注意ください。
(→P. 301)

ナットおよびストップボルトには、右側用と左側用があります。
(→P. 307)



車体を下げる

手順 5 増し締めする

取りはずしたときと逆の手順でシングルタイヤはナット、ダブルタイヤはナットおよびストップボルトを 2、3 度にわたりしっかり締め付けます。(→P. 301)

ダブルタイヤの内側と外側を取りはずした場合は、まずストップボルトを締め付け、次にナットを締めます。

締め付けトルク：

▶ ジャストロー以外

前輪：	フルジャストロー／ルートバン	365 N・m｛3650 kgf・cm｝
	上記以外	135 N・m｛1350 kgf・cm｝
後輪：	シングルタイヤ	135 N・m｛1350 kgf・cm｝
	ダブルタイヤ	365 N・m｛3650 kgf・cm｝

▶ ジャストロー

前輪：135 N・m｛1350kgf・cm｝

後輪：170 N・m｛1700kgf・cm｝

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■タイヤ交換したときは

約 1,000km 走行したあとに、再度シングルタイヤはナット、ダブルタイヤはナットおよびストップボルトを締め付け、ゆるみがないことを確認してください。

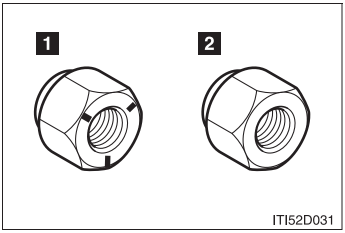
■スペアタイヤについて

- ●前後１段吊り格納車は前輪用と後輪用が別々に格納されていますので間違えないようご注意ください。
- ●２段吊り格納車は前輪用と後輪用が上下に分けて格納されていますので間違えないようご注意ください。
- ●スペアタイヤが 1 本のみ搭載されている車両のうち、前後輪のタイヤサイズが異なっている車両では、後輪用のスペアタイヤが搭載されています。応急的に前輪に使用した場合は、慎重に運転しできるだけ早く前輪用のタイヤに交換してください。
- ●空気圧を必ず点検してください。(→P. 232)

■ホイール取り付けナット、ストップボルトについて

ホイール取り付けナット、ストップボルトには、右側用と左側用があります。

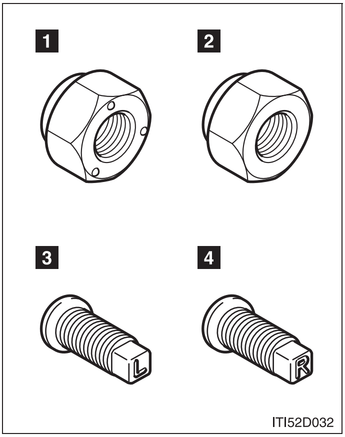
▶ シングルタイヤ※



1 ホイール取り付けナット（左側用）

2 ホイール取り付けナット（右側用）

▶ ダブルタイヤ※



1 ホイール取り付けナット（左側用）

2 ホイール取り付けナット（右側用）

3 ストップボルト（左側用）

4 ストップボルト（右側用）

※車種によりイラストと異なる場合があります。

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●ホイールの交換後は、すぐに適正な締め付けトルクでボルトやナットを締める(→P. 305)

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のボルトおよびナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける(→P. 233)

上記のことをお守りいただかないとボルトやナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■スペアタイヤについて

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●格納具からスペアタイヤを取りはずすときは、足を挟んだりしないように注意してください。また、取り付けるときはしっかりと固定してください。走行中にはずれ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

●後輪用スペアタイヤを応急的に前輪に使用した場合は、慎重に運転し、できるだけ早く前輪用のタイヤに交換してください。

●2段吊り格納具はタイヤ1本だけで格納しないでください。走行中にはずれ落ち思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 122）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 124）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

▶ ガソリン・ディーゼル車

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 122）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム＊に異常がある可能性があります。（→P. 86）

▶ LPG 車

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  補給してください。
- メインバルブ、リターンバルブが閉まっている可能性があります。
  メインバルブ、リターンバルブを開けてから、正しい手順（→P. 122）に従って、エンジンをかけてください。
- 燃料過流防止弁が作動している可能性があります。（→P. 124）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 315）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 315）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

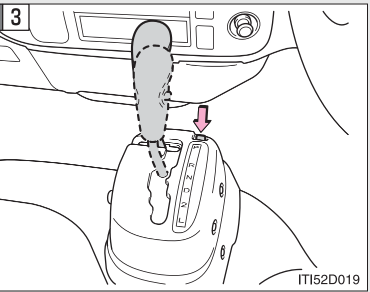
シフトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロック（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 ブレーキペダルを踏む

手順 3



シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのマスターキー※から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。**(→P. 30)**

※エンジンイモビライザーシステム装着車のみ。
なお、マスターキーをすべて紛失してしまった場合は、コンピューターの交換が必要となります。(→P. 31)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

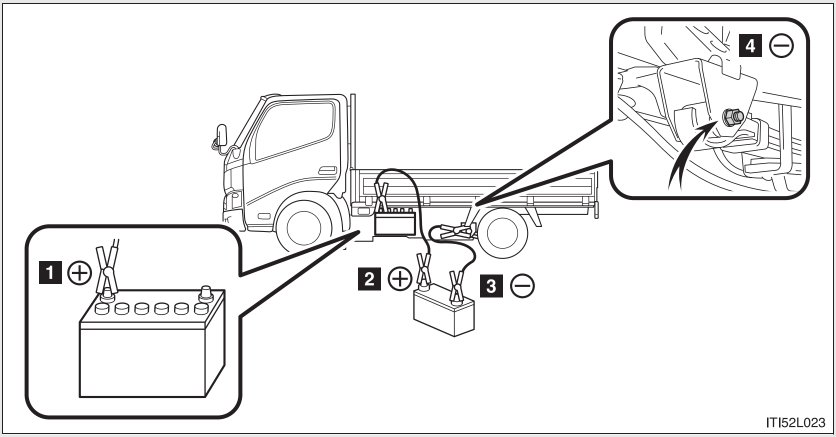
ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 バッテリーカバー装着車は、バッテリーカバーをはずす

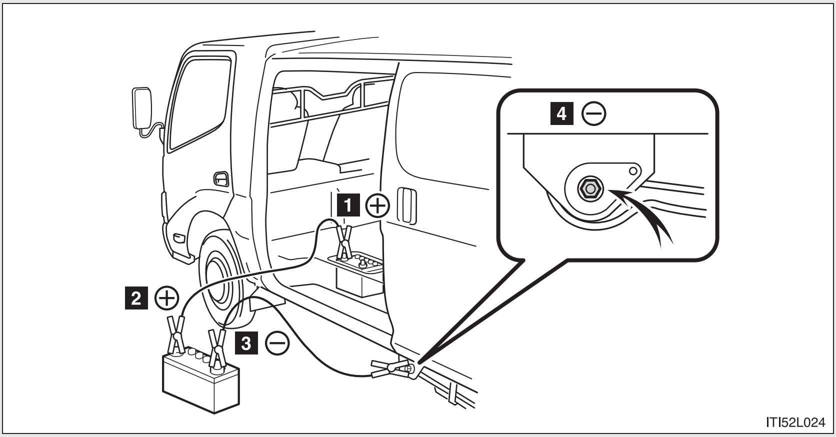
手順 2 バッテリーの + 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

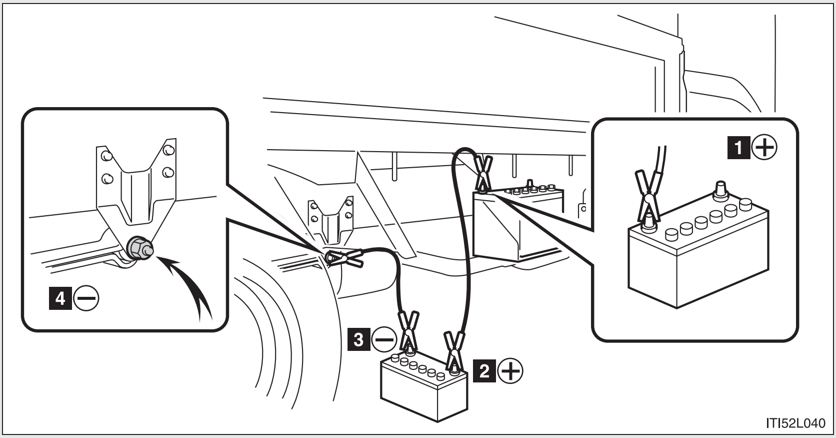
▶ ガソリン・ディーゼル車（ルートバンを除く）



▶ ルートバン



▶ LPG 車



手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

安全のため押しがけによる始動はしないでください。
また、オートマチック車は押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ライトやエアコン*の電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■バッテリー 2 個搭載車について

●バッテリーを交換するときは、左右ペアで同一メーカー、同一型式のバッテリーを使用してください。

●長期駐車などで－端子をはずす場合は、必ず左右両方の－端子をはずしてください。

●バッテリーがあがったときに救援車とブースターケーブルで接続する場合は、どちらか一方のバッテリーに接続してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう以下のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近づけない

●誤ってバッテリー液が身体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコン*を止める

手順 2 床下から蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：
エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してキャブをチルト操作し、またはエンジン点検口を開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：
エンジンをかけたまま注意してキャブをチルト操作する、またはエンジン点検口を開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

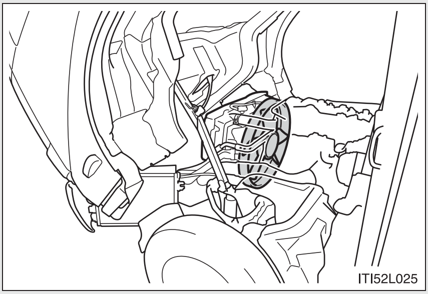
ファンが作動している場合：
水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

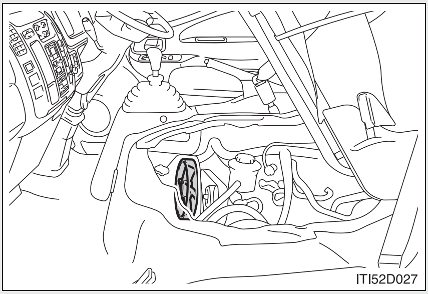
＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

▶ チルトキャブ車



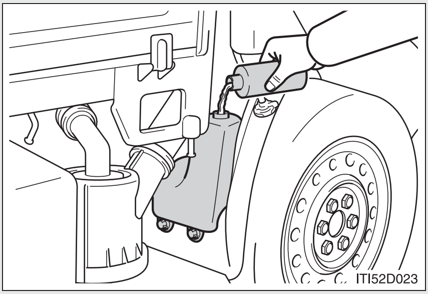
▶ チルトキャブ車を除く



手順 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 330）

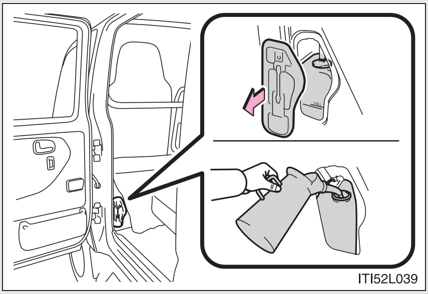
冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給します。

▶ シングルキャブ



キャップをはずす

▶ ダブルキャブ

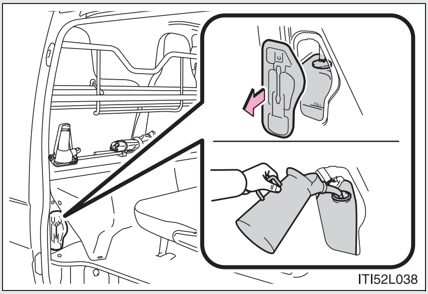


マットをめくり、カバーを手前に引いてはずす

キャップをはずします。

カバーを取り付けるときは、カバー下部のツメをはめ込み、カバー上部のツメをはめ込みます。

▶ ルートバン



マットをめくり、カバーを手前に引いてはずす

キャップをはずします。

カバーを取り付けるときは、カバー下部のツメをはめ込み、カバー上部のツメをはめ込みます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- ●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●床下から蒸気が出る

警告

■エンジン点検中の事故ややけがを防ぐために

- ●床下から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでキャブをチルト操作しない、またはエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ●エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 エンジンを停止する

パーキングブレーキをかけシフトレバーをオートマチック車は P 、マニュアル車は N にしてください。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 速またはRに確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

警告

■**脱出するときは**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために**

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

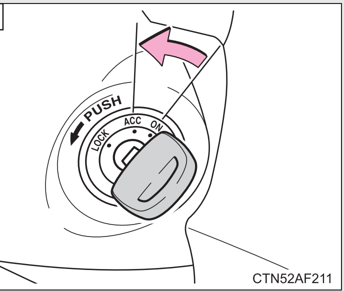
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4



エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■**走行中にやむを得ずエンジンを切るときは**

● ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

● キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

エンジン	指定燃料	容量 [L]（参考値）
ガソリン	無鉛レギュラーガソリン	60 ※1
ディーゼル	超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	
LPG	LP オートガス※2	90 ※3

※1 キャンパー仕様車は 80L になります。

※2 プロパン率（燃料のプロパン割合）冬期：70%以下、夏期：30%以下のオートガスを補給してください。

※3 保安基準により、タンク容量の 85%が最大充てん量となります。

エンジンオイル

■ ガソリン・LPG 車

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30	1TR-FE 1TR-FPE	5.0	5.5

※1　エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2　0W-20 は新車時に充填されており、上の表に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

■ ディーゼル車

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルディーゼルオイル DL-1※2 —JASO　DL-1, SAE 0W-30 トヨタキヤッスルディーゼルオイル DL-1 —JASO　DL-1, SAE 5W-30	1KD-FTV	6.8	7.0

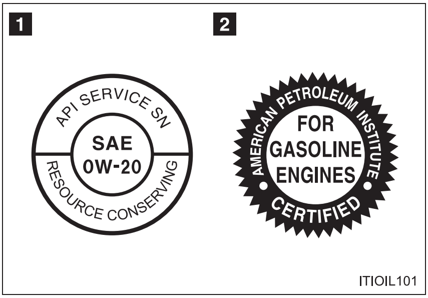
※1　エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2　0W-30 は新車時に充填されており、上の表に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

■ **指定エンジンオイル**

▶ ガソリン・LPG 車

● API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークがついています。



1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

▶ ディーゼル車

● JASO 規格 DL-1 合格油をおすすめします。

注意

■ **ディーゼル車のエンジンオイルの交換について**

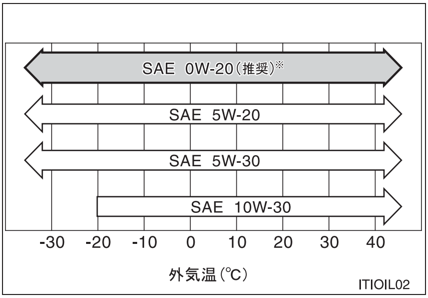
● エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと（ただし 12ヶ月をこえないこと）、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。
定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

● エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。
異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。

■ エンジンオイル推奨粘度

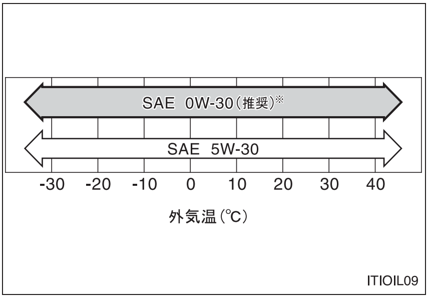
下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

▶ ガソリン・LPG 車



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上図に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

▶ ディーゼル車



※ 0W-30 は新車時に充填されており、上図に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

<table>
<tr><th>指定銘柄</th><th>エンジン</th><th>トランス
ミッション</th><th>リヤヒーター</th><th>容量 [L]
(参考値)</th></tr>
<tr><td rowspan="7">トヨタ純正
スーパーロングライフクーラント
凍結保証温度
濃度 30%　－12 ℃
濃度 50%　－35 ℃</td><td rowspan="3">1TR-FE</td><td rowspan="2">マニュアル</td><td>あり</td><td>10.6</td></tr>
<tr><td>なし</td><td>9.8</td></tr>
<tr><td>オートマチック</td><td>なし</td><td>9.7</td></tr>
<tr><td rowspan="4">1KD-FTV</td><td rowspan="2">マニュアル</td><td>あり</td><td>10.7</td></tr>
<tr><td>なし</td><td>11.5</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オートマチック</td><td>あり</td><td>10.6</td></tr>
<tr><td>なし</td><td>11.4</td></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正
スーパーロングライフクーラント
凍結保証温度
濃度 50%　－35 ℃</td><td rowspan="2">1TR-FPE</td><td>マニュアル</td><td>なし</td><td>9.8</td></tr>
<tr><td>オートマチック</td><td>なし</td><td>9.7</td></tr>
</table>

オートマチックトランスミッション＊

<table>
<tr><th>指定銘柄</th><th colspan="2">トランスミッション
型式</th><th>容量 [L]
(参考値※)</th></tr>
<tr><td rowspan="4">トヨタ純正 オートフルード D- Ⅱ</td><td rowspan="3">A442E</td><td>1TR-FE</td><td rowspan="4">11.0</td></tr>
<tr><td>1KD-FTV</td></tr>
<tr><td>1TR-FPE</td></tr>
<tr><td>A442F</td><td>1TR-FPE</td></tr>
<tr><td rowspan="3">トヨタ純正 オートフルードタイプ T- Ⅳ</td><td colspan="2">A340E</td><td rowspan="2">8.0</td></tr>
<tr><td colspan="2">A340F</td></tr>
<tr><td colspan="2">A45DE</td><td>6.9</td></tr>
</table>

※容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

マニュアルトランスミッション＊

指定銘柄	トランスミッション型式	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ（API GL-3, SAE 75W-90）	G54	2.2
	R351F	
	R352F	
	R451	2.4
	R452	
	R351	2.6

ディファレンシャル

<table>
<tr><th>指定銘柄</th><th colspan="3">ディファレンシャル型式</th><th>容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><td rowspan="6">トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX
(API GL-5, SAE 85W-90)</td><td colspan="3">フロント＊</td><td>1.35</td></tr>
<tr><td rowspan="5">リヤ
(LSD なし)</td><td rowspan="2">BD20B</td><td>シングルタイヤ</td><td>2.30</td></tr>
<tr><td>ダブルタイヤ</td><td>1.80</td></tr>
<tr><td colspan="2">BD24A</td><td>3.20</td></tr>
<tr><td colspan="2">BD26A</td><td rowspan="2">3.15</td></tr>
<tr><td colspan="2">BD26B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">トヨタ純正ハイポイドギヤオイル LSD
(API GL-5, SAE 85W-90)</td><td rowspan="3">リヤ
(LSD あり)</td><td rowspan="2">BD20B</td><td>シングルタイヤ</td><td>2.30</td></tr>
<tr><td>ダブルタイヤ</td><td>1.80</td></tr>
<tr><td colspan="2">BD24A</td><td>3.20</td></tr>
</table>

トランスファー＊

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ(API GL-3, SAE 75W-90)	1.3

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

パワーステアリング

■ パワーステアリングフルード

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 パワーステアリングフルード	1TR-FE	0.75
	1KD-FTV	0.65
	1TR-FPE	0.75

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目			基準値 [mm]
遊び（負圧なしの状態）			1 ～ 6
踏み込んだときの 床板とのすき間※	リヤホイール パーキングブレーキ車	1TR-FE	68 以上
		1KD-FTV	58 以上
	センターホイール パーキングブレーキ車	1TR-FE	63 以上
		1KD-FTV	54 以上
		1TR-FPE	63 以上

※エンジン回転時に 490 N（50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値。

■ パーキングブレーキ

項目		基準値（回数）
引きしろ 操作力 250 N（25 kgf) のときの ノッチ※数	リヤホイール パーキングブレーキ車	4 ～ 6
	センターホイール パーキングブレーキ車	8 ～ 10

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

クラッチ*

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
切れたときの床板とのすき間※	25 以上

※クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量。

V リブドベルト

項目	基準値 [mm]
たわみ量	非調整式

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
3.0

タイヤ

運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表をご覧ください。表はタイヤが冷えているときの空気圧です。（→P. 232）

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト（H4）	60/55
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	21
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 ／ 5
	後退灯	21
	ハイマウントストップライト（ルートバン）	21
	番号灯	5
車内	フロントルームライト	10
	リヤルームライト*	10
	室内蛍光灯*	8

車両仕様

車両型式	エンジン	駆動方式
TRY220	1TR-FE	2WD（後輪駆動）
TRY230		
KDY221	1KD-FTV	2WD（後輪駆動）
KDY231		
KDY241V		
KDY271		4WD（全輪駆動）
KDY281		
TRY231	1TR-FPE	2WD（後輪駆動）
TRY281		4WD（全輪駆動）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

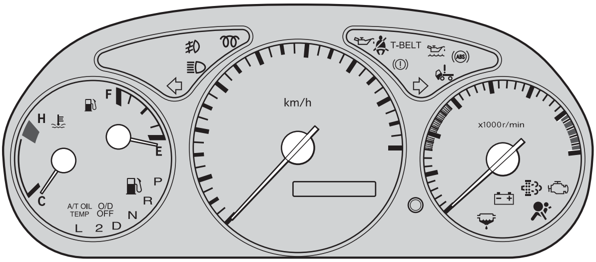
アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
O/D	オーバードライブ
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム

五十音順さくいん

症状別さくいん

メーター

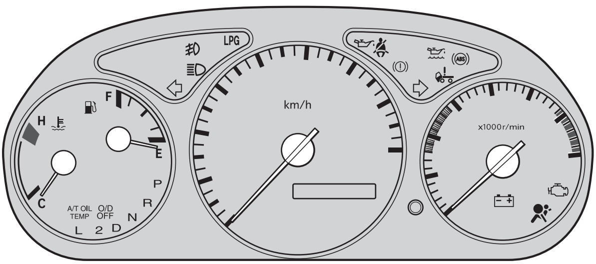
▶ ガソリン・ディーゼル車



ITI61L009

※ タコメーターはエンジンの種類により異なります。

▶ LPG 車



ITI61L008

■警告灯一覧

警告音が鳴った

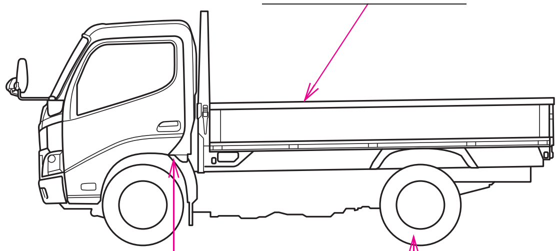
■警告灯の点灯、点滅をご確認ください。（→P. 286）

■警告灯が点灯、点滅していないとき、車外で警告音が鳴ったときは、以下のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 129、131
	ブレーキを踏んだとき	P. 120

ガソリンスタンドでの情報（シングルキャブ※1）

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

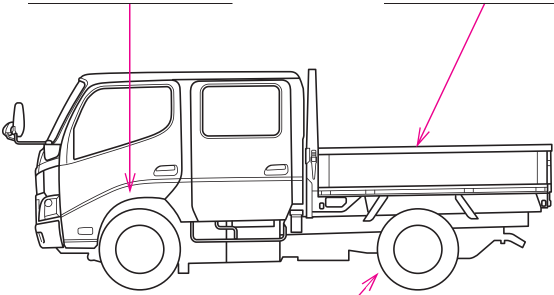


燃料の容量 (参考値)	60L（キャンパー仕様車は 80L）
燃料の種類	▶ガソリン車 無鉛レギュラーガソリン　P. 78, 326 ▶ディーゼル車 超低硫黄軽油（S10ppm 以下）　P. 78, 326
タイヤが冷えているときの空気圧	運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。
エンジンオイル容量（参考値）	▶ガソリン車 オイルのみ交換時：5.0L オイルとフィルター交換時：5.5L ▶ディーゼル車 オイルのみ交換時：6.8L オイルとフィルター交換時：7.0L
エンジンオイルの種類	▶ガソリン車 トヨタキャッスルモーターオイル ・ SN 0W-20　(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20　(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30　(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30) ▶ディーゼル車 トヨタキャッスルディーゼルオイル ・ DL-1 0W-30(JASO DL-1, SAE 0W-30) ・ DL-1 5W-30(JASO DL-1, SAE 5W-30)

※1 ガソリン・ディーゼル車
※2 給油口は運転席側キャブ後方にあります。

ガソリンスタンドでの情報（ダブルキャブ）

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

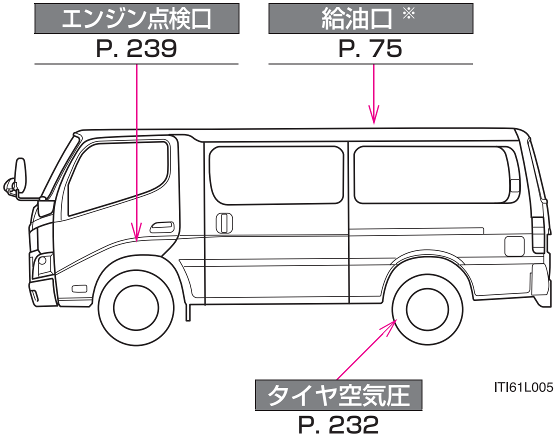


燃料の容量 (参考値)	60L
燃料の種類	▶ガソリン車 無鉛レギュラーガソリン　P. 78, 326 ▶ディーゼル車 超低硫黄軽油（S10ppm 以下）　P. 78, 326
タイヤが冷えているときの空気圧	運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。
エンジンオイル容量（参考値）	▶ガソリン車 オイルのみ交換時：5.0L オイルとフィルター交換時：5.5L ▶ディーゼル車 オイルのみ交換時：6.8L オイルとフィルター交換時：7.0L
エンジンオイルの種類	▶ガソリン車 トヨタキャッスルモーターオイル ・ SN 0W-20　(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20　(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30　(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30) ▶ディーゼル車 トヨタキャッスルディーゼルオイル ・ DL-1 0W-30(JASO DL-1, SAE 0W-30) ・ DL-1 5W-30(JASO DL-1, SAE 5W-30)

※ 給油口は運転席側キャブ後方にあります。

ガソリンスタンドでの情報（ルートバン）

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

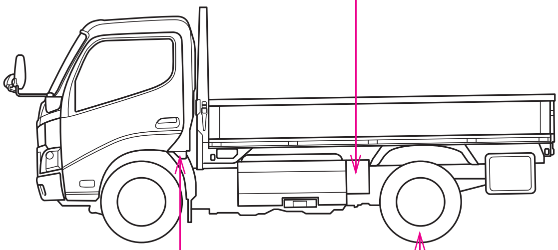


燃料の容量 (参考値)	60L
燃料の種類	超低硫黄軽油（S10ppm 以下） P. 78, 326
タイヤが冷えているときの空気圧	運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：6.8L オイルとフィルター交換時：7.0L
エンジンオイルの種類	トヨタキャッスルディーゼルオイル ・ DL-1 0W-30(JASO DL-1, SAE 0W-30) ・ DL-1 5W-30(JASO DL-1, SAE 5W-30)

※ 給油口は運転席側リヤタイヤ前方にあります。

ガソリンスタンドでの情報（LPG 車）

燃料補給や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料タンクの容量 (参考値)	90L ※[1]
燃料の種類	LP オートガス※[2] P. 84, 326
タイヤが冷えているときの空気圧	運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：5.0L オイルとフィルター交換時：5.5L
エンジンオイルの種類	トヨタキャッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

※[1] 保安基準により、タンク容量の 85%が最大充てん量となります。

※[2] プロパン率（燃料のプロパン割合）冬期：70%以下、夏期：30%以下のオートガスを補給してください。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター
全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ト-28

M　25561
01999－25561
NAI-2012年12月19日
2012年５月14日　初版
2013年１月７日　２版
ダイナ／トヨエース